ポプって逃走中！

りゅーと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ポプって逃走中！

【Ｎコード】
Ｎ４９０３Ｚ

【作者名】
りゅーと

【あらすじ】
アッシュ「大人気音楽ゲーム「ポップンミュージック」で逃走中を行なうっスよ！」
ユーリ「最新作である２０のファンタジアのネタばれも若干あるので注意だ」
ＭＺＤ「誰が逃げ切るかはお前の目で見ろよな！」
ナカジ「興味があるなら、見て行ってくれ・・・（小声」
タロー「ナカジー！もっと大きな声で！ほら、俺がナカジを馬鹿にした時やナカジのマフラーにカレーをぶちまけて切れた時並みに大

きな声で！」
ナカジ「おいおい、俺が短気のように聞こえ・・・おい、マフラーのそれはどう言う事だ？聞いてないぞ・・・？」
タロー「しまった・・・！（墓穴」
エッダ「あ、殴り合い発生・・・」
ミミニャミ&スマイル「それではどうぞー！！」

作者はポップンを15からやったらしい（byMZD）（前書き）

りゅーと「20のピュアクルリップのカラーってハトプr」
ミミ「黙らっしゃい」

作者はポップンを１５からやったらしい（ｂｙＭＺＤ）

りゅーと「今日も「ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！」の更新が終わったわ！」

この日、りゅーとはにじファンで執筆中の「ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！」の投稿を終えた。彼女の書く小説は戦闘とギャグを混ぜた逃走中で有名で、多くの作者さんとの交流はある。
今日も投稿して終わりかと思われたその時・・・。

りゅーと「そういや、ポップン２０が稼働するんだよね・・・。今の小説もいいけど、あたしのはまっているポップンの逃走中を執筆してみたいわー。ステージの設定とミッションを考えるのってちょっと面倒くさい・・・。うーん・・・、どうしよう・・・。」
？？？「だったら、俺様も手伝おうか！」
りゅーと「誰？」

パソコンをいじるりゅーとが振り向くとそこにいたのは帽子とサングラスを付けた少年がいた。彼は宙に浮いており、周辺に星屑を散らばせながら背後にいる影と会話をする。彼の登場に彼女は笑顔になる。

りゅーと「ＭＺＤじゃん！２０のファンタジア、お疲れですー」
ＭＺＤ「どうもー。お前の小説をいつも見ているぜー。」

そこにいたのはポップンワールドの神であるＭＺＤだった。彼は外見とは裏腹に音の世界を統治する権力者であり、音楽を愛する神様。世界中からパーティを開くために来客者を呼ぶ少年に誰もが「このような子供が神様なのか」と思うが、相手の体から発されるオーラは本物で相当な実力を持っていると察知できた。下手に動くより、大人しくするのが吉だろう・・・。

ＭＺＤ「事情は聞いたぜ！よかったら、俺様も協力する！」
りゅーと「本当！？ありがとう！じゃあ、招待状を出して！！」
ＭＺＤ「ＯＫ！！」

この一言により、ポッパー達に招待状が届けられた・・・

ミミ「ニャミちゃん、逃走中の参加案内届いた！？」
ニャミ「私にも来たよ！いろんな人が参加するみたいだって！」
ミミ「聞いた話だけど、２０キャラやタイマーも出るって！」
ニャミ「本当に！？ダーリンと一緒に出れるなんて嬉しいー！」

リエ「さなえちゃん、これ知ってる？」
さなえ「知ってるわ。これは逃げるゲームでしょ？」

リエ「これで逃げ切って、新しいお洋服の費用に回しちゃおうよ！」
さなえ「うん！リエちゃんの言う通りに狙うは逃げ切りよ！」

アッシュ「ユーリもスマイルも参加しようっス！俺は出るっスよー！」
ユーリ「神の奴も暇つぶしにもほどがある・・・。私は遠慮す・・・」
スマイル「あ、ユーリは強制参加だってヨ」
ユーリ「は？」
スマイル「理由はユーリがＭＺＤが仕事を追加した腹いせに彼の机にカマキリの卵をぎっしりと入れて大惨事にさせた事を根に持っているミタイ・・・；（つか、どこから集めた；」
ユーリ「よし、ちょうど新曲が出来たし、ＭＺＤの所に行ってくる。そのついでに参加表明を直々に届けに行ってくる・・・（人の休日を返せクソ神！！」
アッシュ「ユーリと神って仲がいいんスねー♪」
スマイル「アッス君、あれのどこが仲良しに見えるノ；」

六「俺らも参加だってよ！Ｄｅｓ－ＲＯＷ組から何人か行くぞ！」
ＤＴＯ「ＯＫ！俺らの威厳にかけて活躍するぞー！！」
ジャック「・・・うん！」

ナカジ「逃げての金を入手・・・？悪いが俺はパ「チーン！」
タロー「ナカジー！俺も参加するよ！エッダも参加するんだって！

俺らは登録したし、ナカジが参加すると思って登録したよ！」
ナカジ「ほぉー・・・お前はいろいろとやるなぁ・・・？（怒」
タロー「へへっ！俺だって、やる時はやるんだから！」

次回はルール紹介！

作者はポップンを15からやったらしい（byMZD）（後書き）

MZD「さーて、どうしようかなー？ユーリには今までの仕返しでも・・・」

ポンポン

MZD「あん？」
ユーリ「MZD、私と（拳で）語り合わないか？（にっこり」
MZD「な、何をするー」

ベキッ！バキッ！ゴキッ！ドゴッ！チュドーン！！

ユーリ「話し合いは穏便に終わった・・・」

エリアとルールの説明！（ｂｙミミ）（前書き）

りゅーと「２０キャラ、可愛い子が多すぎるだろ。つか、ＫＫのレアカードと新衣装は反則すぎる。ＫＫが好きになっちまうだろ。」
ＫＫ「どーも、俺のカードを入手や俺の曲を選んでくれると嬉しい。さらに美人の女の子だとなおさら嬉しい。」

２０の欲しいカードはＫＫさんとアーク君です。アーク、カッコいいな。

エリアとルールの説明！（ｂｙミミ）

「逃走中のエリア」
ポップンランド

「エリアの情報」
ポップンワールドにある大人気の遊園地。連日行列が出来る遊園地を舞台に逃走劇が行われる。また、この遊園地には有名なポップンキャラ、さらにはゲストが・・・。
遊園地には多くのアトラクション・フードコート・ショッピングモール・ゲームセンターがあり、さらに西のエリアにある汽車に乗って別のエリアに行く事が可能。

「広さ」
東京ドーム６個分とかなり大きい

「ルール」
１：時間は１５０分。１秒につき２００円上昇（逃げきれば１８０万円獲得）
２：エリア内にいるハンターは４体。彼らに捕まると確保となり、賞金は０円。牢獄へ転送される。
３：自首（ゲームのリタイア）も可能。遊園地にある５つの公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金が獲得が可能となる。
４：逃走者全員には携帯が配られ、確保情報や自首情報、ミッションや通達はメールで送られる。逃走者同士での連絡も可能。
５：一部の逃走者が持っているスキルや技は特定の場合のみにしか

使えない。
６：変な事を起こしたら強制失格にするぞ！！さらには・・・

以上です。次は逃走者情報。

エリアとルールの説明！（ｂｙミミ）（後書き）

「前回の続き」
影「カミー、アタラシイデータヲモッテキ・・・ギャー！！」

ＭＺＤのお気に入りの部屋には尻に赤い槍を刺して犬○家のようになっている少年の死体が・・・

影「ユーリヲオコラセタンデスネ・・・；ダカラ、シゴトハジブンデヤッタホウガイイトイッタノニ・・・；（十字を切る」

逃走者情報だよ！（ｂｙニャミ）（前書き）

「最近のりゅーと」
竜斗さんが・・・ううう・・・（涙）

逃走者情報だよ！（ｂｙニャミ）

逃走者を紹介。りゅーと設定が多め。

「ミミ」

言わずと知れたポップンミュージックの看板兎の女の子。普段はポップンパーティの司会をしたり、イベントで冒険したり、コスプレやテーマに沿った衣装で登場する。多忙ながらも毎日を楽しく過ごしており、相方のニャミとＭＺＤとたくさんのポッパーとは仲良し。ニャミの恋人の赤いウサギにアドバイスしたり、茶化したりするも、タイマーとニャミの恋を応援している。
性格は明るく元気がモットーで常に前向きな姿勢。暴走するニャミや神のストッパーであり、大親友を泣かせるような真似をしたタイマーに鉄槌を下すのも彼女。こっちは少し女の子らしい。
スキルはアニメやゲームキャラにコスプレする事によってその技が使える。本気出せばビームや飛行、召喚技も使える。
足の速さは普通であり、戦闘は慎重に行くタイプ。ミッションは積極的に参加。

「ニャミ」

言わずと知れたポップンミュージックの看板猫の女の子。普段はポップンパーティの司会をしたり、イベントで冒険したり、コスプレやテーマに沿った衣装で登場する。多忙ながらも毎日を楽しく過ごしており、相方のミミとＭＺＤとたくさんのポッパーとは仲良し。タイマーという恋人がいる。
性格は明るく元気がモットーで常に前向きな姿勢。常に暴走しがちで、よくミミに怒られる。暴走する神や癖のあるポッパーのストッ

パーであり、大親友を泣かせるような真似をしたら誰だろうと容赦しない。野性味が十分あり、デートの時は彼女がリードするらしい（笑）。
スキルはミミと同じくアニメやゲームキャラにコスプレする事によってその技が使える。本気出せばビームや飛行、召喚技が使える。
足の速さは少し速めであり、戦闘はガンガン行くタイプ。ミッションは積極的に参加。

「タイマー」
ウサ耳帽子をかぶったアイドル。ニャミの彼氏であり、ミニッツの兄。
性格は優しくて思いやりがある子で嘘を付くのが下手な正直な子。
性格ゆえに大好きなニャミの前では積極的になれずにすぐに赤面になる。いざという時には頼りになるが、その時に彼女や関係者が解決したり、勝手に進めてしまうため周囲に振り回されがち（でも結果オーライになる）。その上、パワフルな彼女に先にリードされると肝心な時にいいところを見せれない。要するにヘタレ（黙れー！！（涙）。誰とでも仲がいいが、思った事を口にしてしまうために知人を怒らせてしまう事もしばしばある。
スキルは彼女や関係者が恐ろしい事になってるので平凡・・・；
足の速さは遅めであり、戦闘はサポート。ミッションは行くのだが、彼女や妹の前でカッコいいところを見せようとするも地獄を見る事も・・・。

「ミニッツ」
ちびっ子アイドルのタイマーの妹。歌う事と踊る事が大好きな女の子。
性格は明るくて好奇心旺盛。少女アニメや漫画が大好きだが、早く

大人になりたいとちょっと背伸びをしている。オシャレや可愛いもの、恋愛が好きなおしゃまな女の子。恋愛に対してヘタレな兄にダメ出しをしたり、アドバイスをしたり、二人の中をくっつけようとミミ同様に頑張る。自分と同世代の子とミミニャミや神やタイマーの知り合いとは仲良し。

スキルはミミニャミが身に付けた格闘術を覚えてガンガン攻める！説明文を見れば分かると思うがタイマーとの違いが十分に出ている・・・（笑）。

足の速さは普通で、戦闘は前に行く！ミッションは難しくないものなら全部やる。

「ユーリ」

人気妖怪バンド「Ｄｅｕｉｌ（ドゥイユ）」のボーカル兼リーダーの吸血鬼。表向きはそれだが、裏はメルヘン王国の魔族や妖怪、人ではないものが住む北部の統治者。真祖吸血鬼（ディライトウォーカー）に該当し、メンバーにアッシュとスマイルがいる。

名家出身、最強眷属、戦い上手、頭脳明晰、人望も厚いと全部がパーフェクトと言える彼だが、性格は素敵すぎる外見とは裏腹にありえないほどのサディスト。高確率で無茶振りや理不尽な理由で相手を振りまわすと危険（被害者は透明人間と神と時間）。怒らせた相手には数秒後に鉄槌や魔法、笑顔で毒舌も当たり前（鬼だ・・・）。だが、こう見えても相手を思いやる心を持ち、メンバーや女性や子供には優しくする。怖いと思われがちだが実はいい人。

メンバーのアッシュとポエットには甘い。ポップンワールドで怒らせてはいけない人の上位に入るが、マジ切れしたアッシュだけには敵わず、メンバーでも恐れる・・・。

スキルは体術と魔法を使い分ける万能型タイプ。魔力の無駄と隙を抑え、相手に反撃させないほどの連続コンボを決めると鬼。苦手属性や日光の耐性も若干持っている。吸血鬼だから空は飛べる。

足は少し速めで、戦闘では相手の特性を見抜き、臨機応変の戦いが可能なので誰と組んでも強い。ミッションはなるべく行く。

「アッシュ」
人気妖怪バンドの「Ｄｅｕｉｌ」のドラマー兼体調管理担当（特に料理）の人狼。口癖は語尾に「～っス」。
性格は礼儀正しく、誰にでも優しく接する素直な子。メンバーに振り回されがちだが、それでもうまくやっている。メンバー内の力関係は彼が一番下だが、マジ切れすると・・・？（噂ではＭＺＤやユーリなどの強力な権力者を土下座させたとか）
家事の腕前はプロで、特に料理とお菓子作りの腕は偏食しがちのメンバーも納得するほどの腕前（調理師免許取得済み）。一口食べると忘れられない。これでも普通かと思われるが、女性や子供に気に入られるほどの素質がある（無自覚＆メンバー内でも一番人気）。さらに天然だったり、思った事を口に出すので、メンバーや周囲にフォローの言葉をかけているつもりが、逆に傷つけている事も（笑）。ある意味幸せな人であり最強の人。
スキルは持ち前のパワーとスピードで勝負！体術や伸ばした爪で攻撃するだけでなく、調理用具で殴りんだり、味方や仲間のサポートをする。
五感が優れているので獣モード（▽εωε▽）になるとさらに力を発揮。両方の姿が可愛いので気に入られる。犬って言うな！
足の速さはかなり速く、戦闘では前に出て攻撃やサポート。ミッションは必ず行く。

「スマイル」
人気妖怪バンド「Ｄｅｕｉｌ」のベーシストの透明人間。性格や口調はほぼ公式より。

子供っぽく無邪気で誰にでも話しかけると人懐っこい。いろいろなものに興味を持ち、楽しい事が大好きで、仲のいい人に後ろから急に抱きついたり、友人と共にどこかに連れていくと物凄いフレンドリー。常にニコニコと笑っていて、考えが読みにくい奴。だけど、中身はクールで大人な一面もあり、ちゃんと考えている（この時に口調が変わる）。性格ゆえにトラブルを起こして酷い目に遭う時も・・・。貴重なツッコミ。

上記の通りに知人が多く、大半が有名チームのリーダーやエース、芸能人や裏世界の人間や神様、上位種であるのが凄い。携帯のアドレスはぎっしり。好きなものはカレーとギャンブラーZとアッシュの料理。

スキルは上位の理属性の魔法と武器の鎌を使って戦う。さらに透明化で気配や姿を消したり、包帯を伸ばしての移動や物の回収も可能。足の速さは少し速く、戦闘では魔法と奇襲をメインに。ミッションは気分次第。

「リエvちゃん」

服飾科の学校に通う女の子。パーティの時には新しいお洋服と新しい曲を引っ提げて、大親友のさなえと共に登場！

性格は音楽とお洋服のデザインとカフェめぐりが大好きな明るい女の子。音楽は練習を怠らず、ギターだけじゃなく様々な楽器も練習中。ポップンパーティの出場回数がさなえと同様に多く、女の子やたくさんの人とは仲が良く、おっとりなさなえを引っ張っている。女の子らしい悩みを持っており、パーティで暴れるたびに体重計を見て凹む事も（笑）。

スキルは裁縫をベースにした特殊な能力で武器は大きな鋏と布。攻撃タイプであり、サポートタイプのさなえと組むと強い。

足の速さは普通で、戦闘は前に出て裁縫魔法で戦う。ミッションは必ず行く。

「さなえvちゃん」
服飾科の学校に通う女の子。パーティの時には新しいお洋服と新しい曲を引っ提げて、大親友のリエと共に登場！
性格は音楽とお洋服のデザインとカフェめぐりが大好きなおっとりとした女の子。音楽は練習を怠らず、ギターだけじゃなく様々な楽器も練習中。ポップンパーティの出場回数がリエと同様に多く、女の子やたくさんの人とは仲が良く、活発なリエに引っ張られている。女の子らしい悩みを持っており、パーティに出る甘いものが大敵（笑）。
スキルは裁縫をベースにした特殊な能力で武器は大きな針と糸。サポートタイプであり、攻撃タイプのリエと組むと強い。
足の速さは遅めで、戦闘は仲間へのサポートがメイン。ミッションは必ず行く。

「ポエット」
ポップンワールドの上界にあるホワイトランドから来た見習い天使。一人前の天使になるため、ポップンワールドで修行中。その修業の最中にパーティに数回呼ばれる。
性格は明るくて純粋無垢でいろいろな人と仲良くなれる。特に小さい動物や女の子とは仲が良く、ポップンのメイン組（ポップンで馴染みあるメンバーの事）とは大の仲良し。修行ではボランティアや人助けをしたりしているが、たまに失敗をしたりする。
スキルは飛行能力と光魔法がメイン。さらに弓矢を使っての援護や回復魔法を専門とする。
足の速さは遅く、戦闘ではサポートメイン。ミッションは必ず行く。

「六」
音楽と酒が好きな旅する侍であり、Ｄｅｓ組のリーダー。竹を割った豪快な性格で好戦的であるが、意外にも真面目で常識を持つ。物事をちゃんと判断する。戦いやバトルは好きであるが、名のある剣士や侍がいると乱入して来る。義理人情が厚く、一度決めるとやり遂げる意志の強さがある。それ故に人からの頼み事は断れない性格と変なのに絡まれやすく、それに関するトラブルに巻き込まれる。さらに異性には弱く、ちょっとしたお色気でも鼻血を出す。スキルは剣術でストレートに勝負！小細工はいらない！
足の速さは普通で、戦闘ではバリバリ前に出る！ミッションは気分次第。

「鹿ノ子」
ＯＥＤＯ星からやってきた月兎の少女。彼女の祖先は月兎という強力な跳躍力を持つ部族で、ジャンプ力と蹴りの威力は高い。ポップンでぴょんぴょん飛んでいるのは部族故である。
性格は楽しい事が大好きで趣味のエアギターとビーマニの腕は女の子ながらにして上手。特に和風チックな音楽には強く、凛と咲く花の如くのパーフェクトは当たり前。和風キャラと１５キャラの知り合いが多い。
スキルは蹴りをメインとした格闘術が得意。ジャンプ力が高く、そこからの飛び蹴りは危険。
足の速さは普通で、戦闘では前に出てキック技。ミッションは他人任せ。

「ＤＴＯ」
ポップン学園の英語の教師であり、Ｄｅｓ組の副リーダー。ナカジとタローとリュータの担任の教師であり、ハジメの先輩。

性格は普段はずぼらで、授業中や会議中は音楽を聞くか居眠りをしていると不真面目そうに見えるが、根は真面目で何事にも取り組む。人を思いやる器を持っており、人の相談にも乗ってあげると教師の鑑とも言える。突然の事には冷静に対処したり、的確なツッコミを入れると肝が十分に据わっているが、趣味の音楽になると人がうって変わり、大フィーバーする（笑）。生徒の成績を伸ばすために一人一人の性格や特徴を判断し、抜き打ちをやっては本番のテストで応用を出す。ポップン学園のＯＢであり、当時は族に入ってたという噂が・・・；

スキルは学校の備品や族時代に培ってきたケンカ方法で勝負！周囲の物を凶器に変える。

足の速さは少し遅めで、戦闘では少し前に出る。ミッションは他人任せ。

「ハジメ」

ポップン学園の国語の教師であり、ＤＴＯの後輩。愛称はハジメちゃん。

性格は熱血でまじめで一人前の教師を目指している。生徒とはちゃんと向き合っており、ポップンパーティや学校行事では真剣に取り組む。授業でふざけるとチョークの刑が待っています。成長と将来性はあるものの、まだまだ未熟ゆえに生徒にからかわれやすい。最近ではＤｅｓ組に入ったらしく、音楽の練習にも熱を入れている。ＤＴＯや六を尊敬している。ＤＴＯと同じくポップン学園のＯＢであり、彼と同じく族に入っていたという噂が・・・；

スキルはＤＴＯと同じく学校の備品や族時代に培ってきたケンカ方法で勝負！周囲の物を凶器に変える。

足の速さは少し速めで、戦闘ではヒットアンドアウェイ。ミッションは必ずやる。

「ナカジ」
ギラギラメガネ団リーダーの学生。タローの親友。
性格や外見がタローとは全く正反対で、タローと一緒にいると漫才のような掛け合いが起きる（笑＆ポジションはツッコミ）。変なのに好まれやすく、変人や人ではないキャラに好まれて苦労しているらしい。ギターが大の趣味で、サユリという彼女がいる。
性格は無愛想なメガネ、沸点は物凄く低く、すぐに切れる（タロー談）。誰もが近づきづらい雰囲気をしているが、困っている人には多少強引な方法で助ける一面がある。彼を怒らせている元凶は友人のタローと１００％言える（笑）。学校組やギラギラメガネ団、メガネキャラや同じギター仲間とは仲がいい。
勉強は大の得意で、学年1位をずっとキープ。
スキルは重力を操り、仕込み刃があるギターで攻撃。タローと組むと強い。
足の速さは少し遅く、戦闘では前に出る。ミッションは興味ないが、どこぞの友人によって行く事が多い。

「タロー」
Ｄｅｓ組所属のサーファー。ナカジの親友。
性格や外見がナカジとは全く正反対で、ナカジと一緒にいると漫才のような掛け合いが起きる（笑＆ポジションはボケ）。話をしただけであっさりと友達になれる不思議なパワーを持つ。サーフィンが大の趣味で夏になると海へ行く。ナカジとサユリの恋をギラギラメガネ団と共に応援している。
性格は天真爛漫で底抜けの馬鹿＆誰にでも懐く（ナカジ談）。思ったことをすぐに口に出したりするので、よくナカジを怒らせて酷い目に遭う（笑）。勉強は大の苦手で、帰国子女なのか英語は得意。
学校組やギラギラメガネ団、Ｄｅｓ組メンバーとは仲がいい（特に

教師サイド）。
スキルは水を操って攻撃。波を起こしたり、水のベールを作ったりと応用が利き、ナカジの技と合わせると強い。
足の速さは普通で、戦闘では水を使った攻撃がメイン。ミッションは必ずいく（ナカジを連れて）。

「エッダ」
ギラギラメガネ団の鹿の子。個性の強いギラギラメガネ団の中では落ち着いている子でボソボソと喋る。
性格は大人しくて、ちょっと恥ずかしがり屋。よくギラギラメンバーやタロー、ギター仲間に助けられている。こんな性格だが、芯は強くて意見ははっきりと言える。ギターを始めたり、ギラギラメガネ団に入ったのも自分の意思である。上記の通りにギラギラメガネ団メンバーやタロー、１６キャラや小さい動物とは仲がいい。
スキルは雪を操っての攻撃。本人が力を調節すれば威力を増すが、エッダはこの力を嫌っているためにサポートメインで使う。
足の速さは遅めで、戦闘ではサポート。ミッションは必ず行く。

「Ｍｒ．ＫＫ」
表は何でも屋で、裏は掃除屋（暗殺者）の顔を持ち、夜になると危険な仕事を引き受ける。
性格は静かでタバコと渋い色が似合うおっさん（まだ若い！）。だが、いざという時には頼りになる。何でも屋と称しており、無理な依頼じゃなければ手伝ったり、引き受けるがお金は相当取る（タダでやると思うなよ?）。しかし、可愛い女の子や女性の場合はタダでやったり、神や素直すぎる人が相手だと、言い返すことも出来ずに引き受けてしまう（笑）。それゆえに神に振り回されやすい。
スキルは暗殺スキルは言うまでもなく最高で、特に銃の扱いに長け

ている。
足の速さはかなり速く、戦闘では暗殺術を武器に相手の不意打ちを狙う。ミッションは気分次第。

「ジャック」
暗殺の仕事を行う異世界から来た少年。ヴィルヘルムの部下。
性格は素直で優しく小さなものや綺麗なものを好むと年頃の少年らしさがあるが、仕事になると残酷になる。ガスマスクを外すとまだ幼さが残っている。暗殺業の人物とは顔をよく合わせる。上司のヴィルヘルムやＤｅｓ組、ＫＫやヒューとは仲がいい。過去にヴぃるとはある事が原因で殺されかけるも、今は和解している。
スキルは暗殺スキルと炎を用いた攻撃で勝負。状況に応じた戦い方が得意。
足の速さはかなり速く、戦闘では暗殺スキルをフルに。ミッションは状況に応じて。

「リューター」
ポップン学園の生徒。バイトや学校生活、恋に忙しいハヤトの先輩。
性格は明るくてバイトや恋に精を出す。勉強や補習が嫌い。どこにでもいる学生さんだが、彼の周囲が常に非日常すぎるため、いつの間にかツッコミスキルを身につけてしまった（大抵は知人が原因）。
あの子のいる念願のポップンパーティに出場出来るも、そこにも個性的な人が多くいる&さらには変わり者集団が多いＤｅｓ組に勧誘されると不憫な子（笑&変わり者集団じゃねぇ！　ｂｙ六）。パーティに出場するためにバイトや曲作りに忙しい。最近ではパーティでよく見るあの子に恋をしている模様。後輩のハヤトやナカジやタロー、学校組やＤｅｓ組とは仲がいい。
スキルは戦闘には縁がないので・・・；

足の速さは遅めで、戦闘は不参加（いろいろと危ないので）。ミッションは他人任せ。

「ハヤト」
ポップン学園の生徒。Ｄｅｓ組の年少組に該当し、リュータの後輩。性格は真面目で礼儀正しい優しい子。勉強や運動も出来、将来や成長性のある子だが、学校の通学に趣味のスケボーを使ったり、高校生と嘘をついて夜のゲームセンターに行ったり、夜更かしすると思春期ならではの悪ぶりを見せる一面もある。先輩のリュータや学校組、Ｄｅｓ組とは仲がいい。リュータと六とＤＴＯを尊敬している。スキルは戦闘能力はないものの、お手伝いはする。武器は使用方法が分かれば戦える。
足の速さはかなり速めで、戦闘はサポート。ミッションは必ず行くが状況に応じて。

「ツースト」
ミラクル☆４の2番目。エジプト出身と思うが出身地は黙っておこう。
性格は寡黙で熱くなりやすくプライドが高い。やや好戦的な部分があり、バイクやバトルには食いつく。それ故に勝負事にしょっちゅう突っ込んではリーダーのウーノに怒られる。ミラクル☆４のメンバーやマジカル☆４、１０キャラやバイク仲間とは仲がいい。ちゃんと常識があり、ツッコミをこなす。表向きはアイドル活動をしているが、裏では暗殺業を行なっている。
スキルは剣術と暗殺術を使って戦う。二刀流も得意。
足の速さは普通で、戦闘では距離を保ちつつ戦う。ミッションは他人任せ。

「若」

ミラクル☆４の3番目。日本の平安時代からやってきたミラクル☆４の最年少。

性格は大人しくて礼儀正しい子。最年少ゆえに可愛がられている事がちょっと不満。練習は怠らずにちゃんとやる。ミラクル☆４のメンバーやマジカル☆４、１２キャラや和風キャラとは仲がいい。今回の逃走中はミラクル☆４の代表できているため、若干は緊張している。

スキルは術と笛を使った技が多い。攻撃やサポートは両立しているので、どっちに回っても大丈夫。

足の速さは少し速く、戦闘では状況に応じて戦う。ミッションは必ずやる。

「フィリ」

風の精霊。何百年も生きており、人前には滅多に姿を現さない。

性格は少し生意気で歌や音楽や流行には興味を持つ。常識もあり、言葉が古風。現在の時代の流れや過去の歴史を風で察知しているため、かなりの物知り。猫又キャラを筆頭に自然や妖精、精霊のキャラとは仲がいい。猫又代表として逃げ切りを狙う。

スキルは風を使っての技と飛行能力。操る風は攻撃・防御・補助と使える。

足の速さはかなり速く、戦闘では臨機応変。ミッションは状況に応じて。

「モニモニ」

芋虫の少女。魔女っ子であり、薬を飲む事によってセクシーなちょうちょに変身！

性格は面白い事に興味を持ち、何かがあるといろいろと首を突っ込む。根はいい子で他人を思いやる心を持ち、薬を使って変身しトラブルを解決する。魔女っ子キャラや小さいキャラ、上野キャラとは仲良し。
スキルは薬を使って変身。その時に魔法を使って戦うだけじゃなく、飛行能力で空を飛ぶ事も可能。
足の速さは遅く、戦闘では変身して戦う。ミッションは気分次第。

「エージェント」
イギリスの諜報部員。動機はスパイ映画やゲームに憧れてスパイになった。
性格は職業とは似つかないほど明るくて社交的で考えるより行動派。趣味はガンシューティングゲームとダンスゲーム、そしてスパイ映画の鑑賞。彼の辞書には穏便に済ますという言葉は掲載されてない。しかし、スパイとしてのスキルは十分にあり、狙撃や暗号解読、偵察の腕前はプロ級。１９キャラと同じ職業のポッパーとは仲がよく、何らかの経緯でアリシアと付き合っている。アリシアの保護者的存在。
スキルはスパイに必要な狙撃と偵察、格闘術を武器に戦う。さらにスパイ隠し道具の飛行マシンで空を飛ぶ。
足の速さはかなり速く、戦闘では遠距離メイン。ミッションは必ず行く。

「アリシア」
不思議な国に住む不思議な感じの女の子。ウサギリボンが似合うアリス風の女の子。
性格は可愛い外見とは裏腹に毒舌家で乱暴者（犠牲者は神やヘタレ属性の男）。怒ると頭のリボンが鞭のように動き、持っているウサ

ギのぬいぐるみの綿をかき出したり、どこぞの幼稚園児みたいに武器に使うと危険。実はこう見えてもおしゃれと恋に敏感なおしゃまなクーデレ。優しい人や同い年の女の子や同性、１９キャラとは仲良し。いろいろと一緒にいるエージェントとは１９のパーティで知り合い、恋人のような関係になっている。

スキルは頭のリボンとウサギのぬいぐるみを武器に戦う（ウサギはアリシアの召使的存在であり、我儘な彼女にこき使われて凄い疲れているらしい）。

足の速さは少し遅めで、戦闘では前に出て戦う。ミッションは他人任せ。

「ミシェル」

図書館で司書をしている青年。本名はアルフォンス・ミシェル。

性格は誰にでも優しく、図書館に来た客に親切に対応し、その人にあった本を薦める。女性や子供には優しい。普段は図書館の本を管理しており、本の内容や場所を全部把握している。貴重な書物や危険な書物も扱える。常に笑っており、神出鬼没と結構謎。オッドアイであり、正体はセラフという上位天使。ヒューやオフィーリア、エッジなどのＣＳキャラや永い時を過ごした種族とは仲がいい。ＣＳ代表で参加。

スキルは理や光属性などの上級魔法と飛行能力。彼の力はかなり強いので少し制限されている。

足の速さは少し遅めで、戦闘では状況に応じて。ミッションは必ず行く。

「ヒュー」

整備士の青年。バイクや車、細かい機械なぞ何でもござれ。

性格は明るくて真面目で趣味や興味のあるものに対しては熱くなる。

しかし、仕事や機械弄りになると周りが見えなくなるので、その時の彼の表情は怖い。仕事場にはトビーズだけじゃなく、ジャックや１０キャラ、ＣＳキャラやバイク仲間がよく遊びに来る。差し入れをよくもらうが、甘いものが来た場合は泣きたくなる。意外にも知人が多い。
スキルは工具用具を武器にトビーズの連携でサポート。機械関係に強い。
足の速さは普通で、戦闘では無理をせず。ミッションは状況に応じて。

「アーク」
ポップン２０でデビューした妖精の王子。（※アークの曲が出たら更新するかも）
性格は真面目で礼儀正しく、常識がある子。ポップンならではの洗礼を食らうも、それにもめげない強い子。武器の弓を持って旅をする。水浴びが好き。２０キャラやエルフキャラとは仲がいい。
スキルは弓矢と短剣と体術を用いて戦う。素早さと回避能力は高め。また、矢に魔力をこめることによって強力な一撃を放つ事が出来る。
足の速さはかなり速く、戦闘では遠距離技でのクリティカルヒット。ミッションは必ず行く。

「ピュアクルｖリップ」
ポップン２０でデビューした魔女っ子。名前はリップで、肩にいるお供の名前はヒップ。
ヒップと出会ってから魔女っ子になり、世界を平和にするためにラブの結晶「ラブナ」を集めている。性格は明るくて前向きポジティブだが、たまーにドジを踏む事もある。ポニーテールと八重歯がチャームポイント。２０キャラや魔女っ子キャラ、同性とは仲がいい。

カラーリングが某朝方アニメのヒロインと同じなのは気のせい。
スキルはお供のヒップを武器に変えて魔法を放ったり攻撃をする。
見た目に反して攻撃力が高いので要注意。
足の速さは普通で戦闘では魔法メイン。ミッションは状況に応じて。

以上３１名

逃走者情報だよ！（ｂｙニャミ）（後書き）

いろいろとチョイスした結果がこうなりました。２０キャラやＣＳキャラは出したいもん。
次回はオープニングゲーム！

オープニングゲームだ！（ｂｙユーリ）（前書き）

「小ネタ」アークの言ってた洗礼
リップ「ポップン２０であたしの曲が紹介された！はじめてだったから緊張したー！」
ＫＫ「まあ、初参戦組にとっては一番最初に通るもんだからな。俺は新衣装で５シーズンぶりに登場！」
アーク「何度も出ている人は凄いですね。だけど、あの洗礼はちょっと痛かった・・・」
ＫＫ「あれって？」

リザルト画面にて・・・
アーク「よし、曲クリア！メダルは・・・ごぶっ！（ボーナス表がキャラの頭上に落ちてくる」

リップ「あー、あれは痛かったー！ポップンパーティって何でもありなんだね！よく勉強しなきゃ！」
ＫＫ「ファンタジアのはいろいろと変わったけど、確かに頭上のあれは痛いよな；」

リザルト画面で誰もが思っただろう。だって、あたしもああ見えた。

オープニングゲームだ！（ｂｙユーリ）

逃走者全員の前にあったのは３２本の鎖が入ったボックス。ボックスから出ている鎖の色は単色の色もあれば、ラメを使っているものもあり、二色以上の色を混ぜた鎖もある。逃走者はゲーム前にこの多くある鎖から1本引かないといけない。
しかし、そのうちの一本は異様に長く伸びており、その先には４体のハンターが入ったボックスをロックするかんぬきに繋がっている（鎖とハンターボックスの間は２０ｍ）。このハズレを引いた瞬間、かんぬきは外れ、ボックス内にいるハンターが一斉に放たれる・・・！
全員がこのゲームに挑戦し、ハズレを引くことなく鎖を引くのに成功したらクリアとなり、ハンター放出までの時間を3分間与えられる。

アッシュ「これって、もう一つの小説をコピ・・・」
ユーリ「言うな；作者が泣くぞ」

本家でも恒例のオープニングゲームの鎖引きは事前に用意されたくじ引きで決まる・・・。
このくじ引きでも逃走中の運を左右する・・・。

スマイル「僕、１０番ダヨ！みんなは？」
ニャミ「私は２番！早すぎる・・・」
タロー「２９番だ！最後の方かー・・・」
ＤＴＯ「６番目か。まずまずだな！」

アーク「私は3番だ・・・」
アリシア「アリシアは１１番」

オープニングゲームのスタートを切る最初の逃走者は・・・

アッシュ「俺っス！」

１番目はアッシュ・・・

リエ「アッシュー！よーく考えてー！」
さなえ「気楽に引っ張った方がいいよ」
ＫＫ「じっくりと考えろ」
アッシュ「うーん・・・どーしようかなー・・・」

ボックスから伸びる色とりどりの鎖を一本一本確認し、彼はある鎖を握る。
緑の人狼が選んだのは・・・

アッシュ「自分のイメージカラーの緑でスタートするっス！」
全員（アッシュらしい選択だなー）
アッシュ「どしたんスか？今から引っ張るっスよ！準備はいい？」
ＤＴＯ「来い！」
アッシュ「そーれ！」

緑色の鎖を握るアッシュは意を決して引っ張り、ボックスの方を振り向く。
クリアかハンター放出か・・・！

ジャラ！・・・シーン

アッシュ「セーフ・・・。みんな、大丈夫っスよ！」
ポエット「アッシュは運がいいんだね！神様が助けてくれたんだ！」
リュータ「だけど、心臓に悪すぎる！最初でも怖いし！！」
ハヤト「先輩は早い方ですけど、僕は最後だよ・・・」
ヒュー「順番だから我慢して；アッシュが放出じゃないという事は・

・・」
アッシュ「俺は先に逃げられるって事!?行ってくるっス!ユーリ、スマイル、みんな、頑張ってー!」

そう言うとアッシュはみんなに手を振り、その場から離れてメリーゴーランドの方へ向かった。
なお、ハンターの放出が無かった逃走者は先に逃げる事が可能で、離れた場所からのスタートが可能だ。だが、ゲームは続くため、残っている逃走者はクリアかハンターが放出されるまで居続けなければならない。
次は・・・

ニャミ「私・・・」

2番目はニャミ・・・

ミミ「ニャミちゃん、絶対に引かないでねー?」
エッダ「無茶はしないで・・・」
タイマー「頼むからセーフで!!」
ニャミ「ちょっと!こっちも怖いんだってば!ダーリンは人頼みは

しないの！」

司会業をこなすポップンのマスコットである猫の少女は残された鎖を一通り見るとそのうちの一本を手に取る。
自分と戦うニャミが周囲の不安の声を押し退けて選んだ色は・・・

ニャミ「菫色」
モニモニ「理由は？」
ニャミ「女と猫の勘よ！！」
ツースト「何じゃそりゃ！！」
若「えっと・・・任せても大丈夫でしょうか・・・；」
ニャミ「さっさと行動するのみ！えーい！」

適当に菫の色をした鎖を握るとニャミは勢いよく引っ張る。放出しないのを願うのみ・・・
クリアかハンター放出か・・・！

ジャラ！・・・シーン

ニャミの引いた鎖はセーフ。しかし・・・

ニャミ「よし！セー・・・あああああああー！！！髑髏マーク付きだー！！」
ミシェル「ちょっとニャミさん！？あなたは・・・！」
リップ「という事はまさかー・・・」

ニャミが引いた鎖の先端には髑髏マークが付いていた。髑髏マーク付きの鎖を引いてしまった場合はペナルティとしてハンターボックスを２ｍ前進する。こうなるとハンターに捕まるリスクが一段と高くなる・・・！
ゴゴゴゴゴ・・・と鳴り響く音に残された逃走者は青ざめる・・・。

ナカジ「２ｍって、あんなに近づけるのかよ！？」
フィリ「凄い近くにあると恐怖が・・・」
ジャック「足が遅い人は捕まるなこりゃ・・・」
ミミ「ニャミちゃんの馬鹿ー！何してくれるのよー！！（怒」
ニャミ「知るかー！！あーもー！私は先に行くね！」

次は・・・

アーク「来たか・・・・！」

３番目はアーク・・・

ピュア「アーク君、２０キャラの代表だからしっかりして！」
アリシア「新入りの子は何色を選ぶのかな・・・？」
ＫＫ「２０キャラのドボンになったら、俺も笑いごとにならないぞ・・・」
ヒュー「ちなみに色はどれだ？」

２０のファンタジアでデビューし、レアカードになったエルフの青年。初のお仕事に緊張する彼はデビューと同時によくない結果を残さないように鎖を選ぶ。
弓を使いこなす狩人が握った鎖は・・・

アーク「青で！」
リップ「理由は？」
アーク「自分の目とイメージカラーと同じ色だからだ」
ジャック「イメージカラーのはありがちだもんね。こっちは用意したよ！」
アーク「神よ・・・！力を・・・！」

意を決した彼は自分を信じ、鎖を引く。ジャラっとなる鎖の音が耳に響く。
クリアかハンター放出か・・・！

ジャラ！・・・シーン

アーク「セーフだ！しかも、髑髏はない！」
鹿ノ子「アークも大丈夫ね！よかった・・・；」
六「こんな緊張感、戦闘以上に怖ぇし・・・；」

ハジメ「ハンターがこっちを見てるから怖いもんな；」
アーク「先に失礼します！」

アークが先に逃げた後、ゲームはまだ続く・・・
その後・・・

４番目のポエットが白を引いてセーフ
５番目のエッダがラメ入りグレーを引いてセーフ
６番目のＤＴＯがオレンジを引いてセーフ、しかし髑髏マーク

７番目は・・・

タイマー「僕の番だよ！」
７番目はタイマー・・・

ユーリ（何だこの胸騒ぎは・・・？）
ミニッツ（お兄ちゃん、こういう時にやらかしちゃいそう）
スマイル（タイマーが引きそうな予感がする・・・；）
ミミ（ニャミちゃん、タイマーがフラグを持ったっぽい）
タイマー「ラッキーセブンはいい数字だし、大丈夫のはず！」

幸せな数で有名な7に順番が回ってきたはミニッツの兄であり、ニャミの彼氏であるタイマー。
自分の事を知る人物が警戒している事を知らない彼は怪しげなフラグが立つ雰囲気に選んだのは・・・

タイマー「黄色！」
エージェント「念のために聞くけど、理由は？」
タイマー「無難な色だし、大丈夫だから！」
ハジメ（逃げる準備はＯＫ）
タイマー「行くよ！」

ハンターが出てもおかしくない雰囲気にタイマーは鎖を引いた・・・。
クリアかハンター放出か・・・！

ジャラ！・・・ガコーン！！！

ナカジ「こいつ、やりやがった！」
ツースト「若、ジャック、離れた方がいいぞ！」
フィリ「みんな、逃げるぞ！」

タイマーがハズレの鎖を引いた瞬間、ハンターボックスのかんぬきが外れた！
かんぬきが外れた音が響くと、残っていた逃走者達は全員逃げ出した！ボックスから出てきたハンターが目に付けたのはもちろん・・・

ビ――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　ＴＩＭＥＲ

タイマー「僕なのー！！？ちょっと待って！速いって！！」

もちろん、至近距離にいたタイマーだ。彼は大急ぎで逃げるも、ハンターから逃げるのは容易ではない。最早、逃走不可能・・・

タイマー「うわぁぁー！！」　ポン

１４９：５２　タイマー確保　残り３０人

タイマー「これ、ニャミちゃんに怒られる・・・；うわー・・・、僕最悪・・・；」

りゅーと「確保された場合はもう一つの小説同様に自動的に牢獄に転送されまーす。タイマー、あんたは・・・；」

なお、確保された逃走者は自動的に牢獄に転送。タイマー、実の妹と彼女より先に確保されるとは・・・。人気アイドルとして情けないぞ・・・。

タイマー「ここで一人ぼっちって・・・（涙」

ピピピピピ！

若「メールが来た！えーっと・・・」

確保情報は全ての逃走者にメールで伝えられる。

ニャミ「『タイマー確保。残り３０人』ダーリン・・・；」

ジャック「始まったか・・・！」

ミミ「さっきのあれで分かったけど、ハンター怖すぎ・・・」

リエ「すごい緊張する・・・！」

鹿ノ子「どこのエリアに逃げようかしら・・・」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

Ｒｕｎ　Ｆｏｒ　Ｍｏｎｅｙ　逃走中

舞台はポップンワールドにある大人気遊園地「ポップンランド」。ポップンランドは連日多くの客で賑わっているレジャー施設で、多くのアトラクションがある。アトラクションだけでなく、フードコードやショッピングモール、ゲームセンターもあるのだ。１３のカーニバルの舞台に使われた場所はその時の衣装を着たミミニャミやＭＺＤの像が飾られている。さらに西のエリアにある汽車に乗って別のエリアに行く事が可能。
ポップンランドのエリア面積は東京ドーム６つ分とあり、逃走者はこの楽しい遊園地の中を逃げ回る。

さなえ「うわぁ～！あれって、新しくオープンしたお店でしょ！後で行こうかな？」

フィリ「どこからハンターが来るのか用心せんとな・・・」

スマイル「絶対に逃げ切ってやるんだからネ！」

アッシュ「みんな大丈夫っスか不安だ・・・」

ツースト「1秒で２００円とはすげぇ・・・！」

ハジメ「逃げるだけでこんなにもらえるなんて・・・自分の収入とは大違いだ・・・」

ユーリ「ここで名を残すのもいいな」

賞金は1秒ごとに２００円ずつ上昇。１００分間逃げ切れば１２０万円を獲得出来る。

リュータ「ある程度貯まったら自首でも・・・何言ってるんだよ俺！あの子がいるだろ！」

ヒュー「自首という選択もあるかも・・・バイク代やみかん代も稼げるし」

エージェント「自首はうーん・・・」

更にこのゲームは自首も出来る。各エリア内にある公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金を獲得しリタイアとなる。

ハンター「・・・」

但し、エリアには4体のハンター。捕まれば失格・・・賞金は0円・・・

彼らから逃げ切るのは容易ではない・・・

はたして、逃げ切れるのは誰か・・・？

オープニングゲームだ！（ｂｙユーリ）（後書き）

「確保者の言葉」１人目：タイマー
タイマー「ここの遊園地はニャミちゃんとデートで何度も来ているのに、スタート出来ないなんて・・・。何で僕なの・・・ＯＴＬ」
りゅーと「運がなかったのね・・・；（これ、リュータやＤＴＯやエージェントでも違和感がないかも」

最初の確保者の選択はちょっと迷いました。
次はポッパー達を揺るがすあの通達が・・・！

１つ目の通達っス！（ｂｙアッシュ）（前書き）

正月はちょっとポップンの逃走中を更新したいと思います。
横浜学園都市部さん、コメントありがとうございます。
ピュアクルリップとＫＫとアークのレアカードが手に入った！やったぜ！！

１つ目の通達っス！（ｂｙアッシュ）

タイマーの確保と同時に始まった逃走中。この遊園地の中で逃走劇が行われる・・・！

リップ「ここの遊園地って凄い人気があるんだよねー！」

遊園地内を歩くのは最新作のポップン２０で登場したピュアクルリップ。魔女っ子として戦う少女はどのような逃走劇を繰り広げるのか。自分のお気に入りの場所でのゲームにウキウキの彼女の目にあるものが飛び込んだ。それは・・・

リップ「あれって、ハートキャッチプリキュアのつぼみちゃんとえりかちゃんといつきちゃんとゆりさんじゃん！あわわわわ！！！」

そこにいたのはハートキャッチプリキュアのプリキュアである花咲つぼみと来海えりかと明堂院いつきと月影ゆりがポップンランドに遊びに来ていたのだ。別の意味で会うのは気まずいピュアクルリップはどうしようかと悩むも、相手がこちらに気付く。

つぼみ「あの人ってポップン２０の魔女っ子さんですよね！たしか、ピュアクルｖリップさんでしたよね？」

リップ「あ、皆さんこんにちは！皆さんは遊園地に遊びに来てたの？」
えりか「あたし達、遊園地で面白いアトラクションがあると聞いてここに来たの！しかし、その格好は本当につぼみに似てるねぇー？」
リップ「あはは；よく言われるの；２Ｐカラーも出し、カードで手に入る３Ｐカラーだと・・・；」
いつき「でも、とっても似合っていますよ！同じ変身少女がポップンにいると私も嬉しくなりますよ！」
リップ「ありがとう！あ、私は逃走中に出ている最中だった！」
ゆり「そうなの？ここの遊園地でゲームって大変ね。でも、デビューと同時に来たお仕事だから頑張りなさい！」
リップ「はい！皆さんも遊園地を楽しんでくださいね！！」

リップがハトプリ組に挨拶をした後、手を振ってその場から離れて移動する。
別の場所でも・・・

サムス「こんな所でお金稼ぎの人に会えるなんて奇遇ね」
ＫＫ「メトロイドのサムスがいるとは・・・」
エージェント「マジで美人だ・・・（俺にはアリシアがいるだろ！」

ＫＫとエージェントはメトロイドや大乱闘スマッシュブラザーズシリーズに出ている賞金稼ぎのサムス・アランに遭遇したのだ。ちなみに彼女はスマブラ屋敷の依頼でアルバイトに来ている。

ＫＫ「これは美しい・・・。お姉さん、よかったら後でお茶でも・・・」
サムス「そうしたいけど、私には心に決めている人がいるのよね？ざーんねん」
ＫＫ「ちえっ、つれないな」
エージェント「ドンマイ。ちなみに本命はプロのレーサーなの？段ボールのあの人なの？」
サムス「内緒」

さらに別の場所でも・・・

スバル「うわー！本物の六だー！！」
キャロ「ここで会えるなんて・・・」
エリオ「侍さんだ！握手して！」
ティアナ「１９のレア、おめでとう！もちろん、レアカードも手に入れたわ！」
六「おいおい、そこまで言わなくてもいいだろー？」

六はリリカルなのはＳＳのフォワード部隊のスバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、キャロ・ル・ルシエ、エリオ・モンディアルに遭遇したのだ。夢を目指す魔導師達の姿に彼は軽く笑う。握手や撮影を求められる侍はハンターが来ないうちにささっと済ませる。

スバル「あれ？六って逃走中に出てるの？」
六「そうだ。お前らも逃走中に出てるだろ？先輩や例の帽子の子と共に」
ティアナ「（完全にヴィータさんの事だ；）そうです。六も絶対に逃げ切ってね！」
キャロ「他の皆さんもいるんですね。ちょっと会ってみたいな・・・」
六「別にかまわないけど、邪魔はするなよ？」
エリオ「分かりましたー！六さん、みなさんも頑張って！」

他の所でも逃走者全員がゲストに遭遇し、会話をした。ちなみに六の言っていた逃走中は「ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！」の事です。よかったらこっちもどうぞ。

楽しい遊園地の中、りゅーとＭＺＤはある事をするため、ミニノートを操っていた。

りゅーと「いい気分で悪いけど、通達を出しちゃおうか？」
ＭＺＤ「そうだな。最初はあの通達で・・・えいや！」

そう言うと作者と創造神は逃走者の携帯にあるメールを送った。そ

のメールが混乱を招く事は誰も知らない・・・。

ピピピピピ！

フィリ「メールが来た！ミッションか！？」

スマイル「んーっと、『通達1・・・』」

アリシア「『これより逃走者の中からある特別な役割を担う者を募集する』ふーん・・・」

リエ「『それは・・・』」

全員「裏切り者・・・！」

『通達１』裏切り者募集

裏切り者とは逃走者の位置情報をハンターに教え、その通報を受けたハンターが逃走者の確保に向かう。その情報で逃走者が確保されれば、１人確保につき通常賞金に加えてボーナスが１０万円プラスされる。先着１名のみ受け付ける。りゅーとに電話で立候補せよ。これは強制ではない。このメールが届いてから2分以内に立候補がなければ、裏切り者は誕生しない。

人を売ればお金を得る事が出来るメールに逃走者達は・・・

アッシュ「俺はこんなのはしたくないっス！」

ユーリ「私は人を陥れる行為自体は嫌だ」

ミニッツ「ミニッツはこんなのはやだ！」

タロー「ナカジやリュータやハヤトや先生を通報してなんかでお金なんていらない！」

ナカジ「馬鹿げている・・・」

ミシェル「裏切りは神に冒涜しますからね・・・」

大半の逃走者がこのメールの内容に反対する。時間の経過と同時に裏切り者が現れない事を願う。

裏切り者の募集を受け付ける時間が３０秒を切ったその時・・・！

？？？「？？？です。裏切ります」

ピピピピピ！

モニモニ「メール！？えっと・・・」

アリシア「『通達２。立候補の募集時間が終わった。』どうなったの・・・」

ミミ「『結果、裏切り者が現れた。』ええーっ！！」

ポエット「『以降は裏切り者に注意して逃走中に挑め。』怖いよー・・・」

裏切り者の登場に全員は疑心暗鬼に陥る・・・。

リエ「誰なの？裏切り者・・・」

裏切り者の恐怖に踊らされる中、リエはコーヒーカップの近くを歩いていた。ファッションデザイナーの学校に通う少女は同じ親友の無事と裏切り者が現れない事を願う。しかし、不安になる少女の姿を裏切り者が捉えた！

？？？「リエｖちゃんがコーヒーカップ付近にいます」

ハンター「・・・」

裏切り者の通報を受けた４体のハンターは情報に基づき、リエの確保へ向かう。その事を知らない少女は周囲を見渡す。

リエ「さなえちゃんが心配だわ・・・。どこにいるか電話でも・・・」

さなえが心配になったリエは連絡を取ろうと携帯を取り出す。ボタンを押す彼女の背後に・・・

ハンター「・・・・！」

見つかった・・・！

ビ――――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　　ＲＩＥ

リエ「大丈夫か・・・って、ハンター！？ちょっとこっちに来ないでよー！！」

後ろから接近してくる黒い服の男に気付いた少女は携帯をしまい、大急ぎで逃げる。しかし、彼女の足ではハンターに敵わず、最早、逃走不可能・・・。

リエ「きゃあああああー！」　ポン

１４５：５１　（裏切り者の通報により）リエｖちゃん確保　残り２９人

リエ「ハンターの足、速すぎるって！さなえちゃん、スギ君、レオ君、ごめんね・・・」

親友との逃げ切りの夢は一瞬にして消えた・・・

ピピピピピ！

さなえ「『裏切り者の通報により、コーヒーカップ付近でリエｖちゃん確保。』リエちゃんが！？」

ＤＴＯ「『残り２９人。』最低だな裏切り者！」

エッダ「裏切り者が動いた・・・！」

裏切り者が動き出した事により、逃走中の空気は変わり始めた。全員は相手の事が信じられなくなり、特にさなえが受けたショックは大きかった・・・。

そんな事を露知らず、裏切り者はボーナスを手にした事を喜ぶ。

？？？「あっさりと１０万円が手に入るなんて・・・。これはいいかも・・・！」

次回、ミッション発動！

1つ目の通達っス！（ｂｙアッシュ）（後書き）

「確保者の言葉」２人目：リエ
リエ「ううう・・・。裏切り者のせいで最悪・・・；」
タイマー「リエちゃんはまだいいよ。こっちはスタートで確保だよ；」

１つ目のミッションダヨ～！（ｂｙスマイル）（前書き）

前回の逃走中の後にポップン２０で曲を解禁したら、藤森みたいなチャラ男がいた・・・。ＫＯＮＭＡＩ、流行に便乗しすぎだろ。あと、ルートちゃんやニットちゃんの負けアニメは狙っているとしか思えない。
来年の逃走中は楽しみ。しかし、次回予告のあのハンターの髪型って何・・・；

1つ目のミッションダヨ～！（ｂｙスマイル）

ＤＴＯ「裏切り者か・・・。こういうのをしそうなのは・・・」

Ｄｅｓ組の副リーダーである教師は携帯を取り出し、電話をかける。
相手は・・・

ピピピピピ！

ＫＫ「ん?電話・・・?誰だ?ＤＴＯか?どした?」
ＤＴＯ「お前が裏切り者だろ?」
ＫＫ「んなっ!?お前、俺を疑っているのか!こっちも聞くけど、お前が裏切り者だろ?」
ＤＴＯ「俺じゃねぇよ!ちなみにＫＫはどこにいる?」
ＫＫ「（ちらっ）フードコートだ・・・」

嘘だ。本当は観覧車付近にいる・・・。お互いが疑っているため、場所は言えない・・・。

ＫＫ「俺は忙しい!電話を切る!」
ＤＴＯ「あ、ちょっと待・・・（ブチッ」
ＫＫ「人を疑うなよ・・・。ん?また電話・・・?さなえか・・・」
さなえ「ＫＫさん、正直に言ってくれる?リエちゃんを通報したの？」

KK「いや、俺じゃない；またかよ・・・・；」

職業が暗殺に関係している何でも屋は二人に疑われる・・・。さらに・・・。

ヒュー「ツースト、お前がしただろ！」
ツースト「ヒュー、お前どうしたんだよ！！？」
ヒュー「暗殺に関係しているお前なら、裏切り者になって・・・」
ツースト「違うっ！だったら、ヒューこそどうだ！」
ヒュー「俺はしてないぞ！」

アッシュ「ジャック君はしてないっスよね・・・？」
ジャック「アッシュ、俺を信じてないのか・・・」
アッシュ「俺はみんなを信じてるけど、どうしても拭いきれなくて・・・」
ジャック「酷いな・・・」

同じように暗殺業を営むツーストとジャックも疑われており、大半の人が三人を裏切り者に絞る・・・。
この三人の中に裏切り者はいるのだろうか・・・？それとも・・・？

ピピピピピ！

ハヤト「メールです！えーっと・・・」

若「『ミッション1』ミッションが来ましたね・・・」

ユーリ「『ポップンランドに7個のハンターボックスを設置した。』追加系ミッションか・・・」

タロー「『残り135分になるとボックスの扉が開き、ハンターが放出される。』うおっ！やべぇ！！」

『ミッション1』ハンター放出を阻止せよ！
ポップンランドに7個のハンターボックスを設置した。残り135分になるとボックスの扉が開き、ハンターが放出される。阻止するにはボックスの横についているレバーを逃走者同士で二つ同時に下ろさないといけない。
なお、ハンターボックスがある場所はメリーゴーランド・コーヒーカップ・観覧車・フリーフォール・ジェットコースター・フードコート・ショッピングモールの近くにある。

ポエット「11体になると危ないよ！ポエットは行く！」

ミニッツ「これは逃げるのが難しくなるんだよね？ミニッツも行く！」

アッシュ「放出は危険っス！ユーリ、一緒に行こう！」
ユーリ「分かっている！まずは近くのジェットコースターから攻めるぞ！」

エージェント「みんなのためにも行った方がいいな！こういうミッションは大好きだ！」

ハヤト「Ｄｅｓ組の活躍どころ！先輩や六さんや先生に認めてもらえるチャンス！」

ハジメ「大人として手本を見せないとな！うっし、行きますか！」

ナカジ「こういうのに食いつく奴もいるか「ナカジー！一緒にやるぞー！」ほら来た；」

エッダ「行かなきゃ・・・！」

フィリ「近くのだけでもやっておくのが吉じゃな。道中で誰かを見つければ・・・」

ミミ「ポッパーズの意地としてやるよ！」

ニャミ「４体でも恐ろしいのに放出は避けなきゃ！」

ミシェル「裏切り者とハンターに注意すれば大丈夫・・・」

六「うーん・・・どうしようか・・・」

ヒュー「ちょっと様子を見ないと・・・裏切り者が怖いし・・・」

ＤＴＯ「行くのめんどくせぇー・・・俺はパス」

リュータ「他がやると思うから俺は行かない」

鹿ノ子「アタシはこういうのはやりたくないからパスー！」

アリシア「興味がないからやらない」

ツースト「俺は動くのは嫌だからなー・・・」

ミッションに果敢に行く者もいれば、悩む者や様子を見て動く者もおり、さらには他者に任せる者もいる。
しかし、ハンターの放出を阻止するには遊園地内にいる４体のハンターの目を掻い潜らないといけないリスクがある。さらに裏切り者が紛れているため、ミッションは容易にクリアが出来ない！

はたして、間に合うのか・・・！

1つ目のミッションダヨ～！（ｂｙスマイル）（後書き）

逃走者はハンターを全部放出阻止できるのか！？

ミッション1実行中！（ｂｙタイマー）（前書き）

「小ネタ」あさきさんのキャラは・・・

２０であさきさんとＤｏｒｍｉｒのくりむさんの曲を担当するにんじん

アッシュ「あさきさん、曲を出す度に凄いキャラを作るんスね・・・にんじんちゃん、可愛いっス。」

ユーリ「確かに。特にイベントでは能力を持った妖怪や「何じゃこりゃ！！」と思えるものが・・・；」

アッシュ「隠しや通常では人のキャラや美人の人が多いけど、１４のあれや１５のテレビや１６の人形が一番の例。カードでもりゅーとちゃんが入手した時は「この不気味さ満載のレアカードは何！？」とびっくりしてたっス。」

ユーリ「生首が浮いている赤い川は嫌だしな・・・。ファンタジアと言ったら、幻想をテーマにしてるだろ？イベントも確実にあるし・・・」

アッシュ「うんうん。妖精や勇者や新しい衣装を着た子も・・・（俺にも出番が来ますように！」

ユーリ「じゃあ、あさきさんがイベントの曲を出したら・・・？」

あさき×ファンタジア×不思議な要素＝？？？

ユーリ＆アッシュ（あさきさんの考える幻想をイメージしたキャラ

ってどうなるんだ！！？）

あさきキャラは好きです。だけど、イベント時の変化球はどうすればいい・・・；

それと、２０のキャラ募集のキャラが決まったっぽい。

ミッション1実行中！（ｂｙタイマー）

アーク「ハヤトさん、一緒にミッションを行きませんか！」
ハヤト「もちろん！まずは合流しましょう！」

ニャミ「ミミちゃんはミッションやる？」
ミミ「やるよ！今ね、ショッピングモールの近くに見つけたの！」
ニャミ「本当！？じゃあ、そっちに向かうね！」

さなえ「リップちゃん、一緒にやろう！」
リップ「もちろんだよ！少し遠いけど、メリーゴーランドに来れる？」

ミッションに参加する逃走者は電話で連絡をし、合流やハンターボックスへ向かう。しかし、そんな彼らの行く手を阻むのは４体のハンターと裏切り者。これらを掻い潜り、ミッションを成功出来るのだろうか・・・！

そんな中・・・

ユーリ「アッシュ、もう少しでジェットコースターの近くだ！」

アッシュ「うん！」

ジェットコースターにあるハンターボックスに向かうのは人気妖怪バンド「Ｄｅｕｉｌ」のユーリとアッシュ。この二人は通達が来る前に合流し、メールを見ていたため相手が裏切り者ではない。身の危険を顧みずに積極的に動く両者は固い絆によって結ばれている。

ユーリ「アッシュ、あれか・・・！」
アッシュ「そうみたいっスね」

大きな音を轟かすアトラクションの脇にある黒い服を着た男が入った箱を見つける。それがハンターボックス。二人は横にあるレバーを握ると勢いよく下ろした！

二人「せーの！」

ハンターボックス封印　　残り６個

アッシュ「よしっ！成功！次のボックスに向か・・・」
ユーリ「アッシュ、早とちりするな。」

ミッションに急ぐ緑の人狼の服を掴む赤き吸血鬼。急に呼び止められた事に疑問を持つメンバーにユーリはある方向に指を指す。

ハンター「・・・」

アッシュ「あっぶな！ユーリが止めてくれなかったら・・・」
ユーリ「ミッションは前だけじゃなく周囲も見ろ。いいな？」

リーダーによって命拾いしたアッシュ。Ｄｅｕｉｌのメンバーやリーダーがしっかりしている中、もう一人のメンバーは・・・

スマイル「ミッション？めんどくさいからイイヤ」

売店の陰に隠れるのは同じくＤｅｕｉｌのスマイル。積極的なアッシュに対し、青き透明人間はミッションに目をくれない。

スマイル「こういうのはアッス君やハジメちゃんやエッダ君がしてくれると思うからネー。」

完全に他人任せだ・・・

ミニッツ「あれを下ろせばいいんだよね？」
ポエット「うん！あの箱のレバーを下ろせばいいの！」
ミニッツ「だけどさ・・・」
ポエット「あのハンターが邪魔だもんねー；」

逃走中で最年少のミニッツとポエットの二人。彼女達はミッションに果敢に挑み、コーヒーカップの近くにあるハンターボックスを見つける。あとは下ろして封印のはずだが・・・

ハンター「・・・」

そう、ボックスの周辺にハンターがいたのだ。肝心な時に邪魔をする敵の存在に小さな天使とちびっ子アイドルはいなくなって欲しいと願う。その願いが通じたのか、ハンターはボックスから離れていく・・・

ミニッツ「いなくなったよ！ポエットちゃん、急ごう！」
ポエット「うん！一緒に下ろすよ！せーの！」

ハンターボックス封印　　残り５個

ミニッツ&ポエット「やったー！」

ミッションに挑んだ二人はちょっと成長したようだ・・・

さらに・・・

エージェント「これがボックスなのか・・・！」

ミッションに挑むエージェントは偶然にも観覧車付近でハンターボックスを見つけたのだ。あと一人がいれば下ろせる・・・。

エージェント「誰か来てくれー！ボックスがここにあるー！！」

ターゲットを見つけたエージェントは協力者を求めようと大声で叫ぶ。ハンターが来てしまうかもしれないという中、誰かが向かって来た。それは・・・

ＫＫ「うるせぇぞ；さっきからごちゃごちゃ言いやがって・・・」
エージェント「ＫＫ！？」

現れたのはスパイの自分の商売敵である何でも屋。頭をポリポリとかいて登場する男は自分の敵であり、そして・・・

エージェント（裏切り者の確率が高い・・・）

そう、裏切り者の確率が高い逃走者・・・！暗殺を行なう相手だからとすぐに結びついたのだろう・・・

エージェント「一つ聞くけど、お前は裏切り者じゃないよな？」

ＫＫ「てめぇもかよ!!逆に聞くけど、裏切り者はお前じゃないのか!ほら、スパイだから・・・!」
エージェント「俺は断じて違う!職業で判断するな!それよりもボックスの封印を手伝ってくれ!」
ＫＫ「あ、ああ・・・」

職業ゆえに互いに裏切り者と睨むエージェントとＫＫはエージェントの目的であるボックスのレバーを下す。

ハンターボックス封印　　残り４個

エージェント「あんがとな・・・」
ＫＫ「どーも。お礼は美人の姉ちゃんがいいけどな」

軽く会話を交わした後、二人はそれぞれ別の道へ移動した・・・

リュータ「あいつら、ちゃんとやってるのいるのかよ・・・。」

一方、お化け屋敷の近くにある自動販売機に隠れているのはリュータ。Ｄｅｓ組に所属する彼はミッションに参加せずに他人に任せている。積極的に動く後輩やクラスメイトが見たら何と言うのだろう・・・。

リュータ「しかし、このお金は俺のバイト代を軽く超えてるよなー。何日分だ？」

腕に付いている装置の金額を見て「あと少しで１０万か！」と高額なお金が手に入る事に思わず顔が緩む。少し稼いでからの自首も考えるリュータはある考えが出てくる。

リュータ「ん？待てよ・・・？今はミッション１の最中だろ？もし、俺がここでミッションに貢献したら・・・」

～リュータの妄想～

ミミ「リュータ君がハンターボックスの封印したの！素敵ー！」

リュータ「ははは、当然の事だよ」

リュータ「あの子に気に入られるチャンスじゃねぇか！だったら、俺も参加するぜ！」

好きな子の好感度の上昇に気付いたリュータはハンターボックスを封印しようと動き出す。どこかに銀色の箱がないかと探す彼の行く

先に・・・

ハンター「・・・・」

ハンターだ。両者は相手の存在に気付いておらず、ただ前を見て歩むのみ・・・

リュータ「ハンターボックスってどこにあんのか?近いところはうーん・・・」

地図を広げながら近くのボックスを目指す。しかし・・・

ハンター「・・・・!」

見つかった・・・!

ビー――――――――――――

LOCK ON RYUTA

リュータ「これであの子の好感度も上がって・・・って、やべぇー！ハンターだー！！」

曲がり角の先にハンターを見つけたリュータは来た道を引き返し、後ろから接近してくる黒い服の男を振り切ろうと曲がり角を利用する。しかし、ハンターの持久力と足の速さは学生である彼よりも遥かに上。徐々に距離が短くなり、最早、逃走不可能・・・。

リュータ「うぐぁ！」　ポン

１４２：０５　リュータ確保　残り２８人

リュータ「あの子にいいところを見せられなかったー！ハヤトやナカジやタロー、先生に負けたくなかったのに！」

ミッションは常に危険と隣り合わせ・・・

ピピピピピ！

ＤＴＯ「『お化け屋敷付近でリュータ確保。』あいつ、狙われそうだったからな・・・」

アリシア「『残り２８人。』あの人はこういうのには向いてなさそう・・・」

六「少なくともこれは裏切り者の通報じゃねぇな・・・」

ジャック「Ｄｅｓ組、しっかりしろよなー！俺だって恥ずかしいぞ！」

ハヤト「先輩、何しに来てるんですか・・・；」

アーク「ハヤトさん、落ち込む気持ちは分かりますけど、ミッションに挑みましょう！」

ハヤト「はい！先輩やＤｅｓ組のためにも僕がしっかりしないと・・・」

電話で合流したのはハヤトとアーク。これ以上の放出を避けるべく、二人はボックスを探す。全力で走るＤｅｓ組の優等生と妖精の王子はハンターに見つかる覚悟で遊園地内を駆け回る。

ハヤト「ありました！」
アーク「急ぎましょう！」

フードコートで銀色の箱を見つけた二人。しかし、その近くには・・
・

ハンター「・・・」

ハンターが二人に接近している。その事を知らないハヤトとアーク
はボックスのレバーに手をかける。

二人「せーの！」

ハンターボックス封印　残り３個

同時に・・・

ハンター「・・・！」

見つかった・・・！

ビ――――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　ＨＡＹＡＴＯ　ＡＲＫ

アーク「残りはいくつでしょうか？ハンターが来てます！逃げて！」
ハヤト「マジで！？ちょっと空気読んでよ！」

遠くにいるハンターを見つけたアークとハヤトは大急ぎで逃げる。
幸いにも距離があったのと気付くのが早かったため、うまく撒いたようだ。

ピピピピピ！

ミシェル「メール？『封印されてないハンターボックスはあと３つ。

『多いですね・・・」

モニモニ「『封印されてないのはメリーゴーランド・フリーフォール・ショッピングモールの３つだ。』そんなに残ってるの!?」

若「残りは５分ですよね・・・！フリーフォールの方に行かないと・・・！」

ミミ「ニャミちゃん、早く来て!早く来て!」

残り時間が迫る中、まだ封印されていないのはメリーゴーランド・フリーフォール・ショッピングモールの近くにある３つのハンターボックス。残り１３５分になる前に封印しないと３体のハンターが放たれ、計７体になってしまう・・・！

ハンター「・・・」

しかし、エリアには４体のハンターと・・・

？？？（そこはまだしてないって事は誰かが来るんだ・・・）

裏切り者が行く手を阻む・・・！

ミッション1実行中！（ｂｙタイマー）（後書き）

「確保者の言葉」３人目：リュータ
リュータ「あの子にいいところを見せようとしたら、カッコ悪い所をメールで流された・・・ＯＴＬ」
タイマー「僕なんか秒が2桁も行かずにニャミちゃんやミニッツの前で確保・・・ＯＴＬ」

タイマー&リュータ「はぁ～・・・ＯＴＬ」

リエ「牢獄がすごい重苦しいわ・・・；さなえちゃん、ミミちゃん、ニャミちゃん、助けに来て；」

ミッション1終了したよ！（ｂｙミニッツ）（前書き）

さなえちゃん、ミシェル、少し遅いけどお誕生日おめでとう（さなえちゃんは１２月２１日、ミシェルは１２月２５日）。これあげる。

さなえ「わっ！可愛い帽子とりんごだ！ありがとう！」
ミシェル「これは十字架のアミュレットですね。大事にします。」

さなえちゃんは１８の衣装が可愛い

ミッション1終了したよ！（ｂｙミニッツ）

時間が一刻と減っていく中、ショッピングモールにいるのはミミ。ポップンで司会を務める兎の少女の横には封印されていないハンターボックスがある。相方を待つ彼女とボックスの位置は大通りに面しており、ハンターや裏切り者の格好の獲物にもなる・・・。

ミミ「こんな所にいたら見つかっちゃうって！うわわわ・・・！」

ハンター放出まであと5分

ミミ「１４０分切っちゃったよ！お願い・・・！」
ニャミ「ミミちゃん、遅れてごめんね！」

放出される時間までに焦り始める頃、電話を受けたニャミがやって来た。遠くからやって来たパートナーの存在にミミは安堵して、崩れるようにニャミにもたれかかった。

ミミ「ニャミちゃん、遅いよ！私、怖かったんだからね！」
ニャミ「よしよし・・・。ずっと待ってたんだね。これ以上待たな

いようにしよう！」

ミミニャミ「せーの！」

ハンターボックス封印　　残り2個

ミミニャミ「私達ポッパーズには不可能なんてないんだからね！」

互いを信じる心が脅威を軽減した・・・

さなえ「どこかな・・・？」

リップ（さなえちゃん、こっちこっち）

メリーゴーランドのハンターボックスの封印に向かうのはさなえとピュアクルリップ。親友が確保された事が心に残るも、同じ趣味や好みを持つ少女の思いとは裏腹に皮肉にもゲームは進んでいる。裏切り者に問い詰めたい気持ちを抑え、二人の少女は走り続ける。

さなえ「どこにあるの？ボックスは・・・？」
リップ「落ち着いて探そう！どこだー！」

馬や馬車を象った乗り物が多く回転するアトラクションの周囲を歩く。合流した地点から反対側に目的の銀の箱があった。

二人「いっせーので！」

ハンターボックス封印　　残り１個

ピピピピピピ！

ツースト「静かにしろ！見つかったらどうするんだよ！」

タロー「メール・・・？」

ミシェル「ニャミさんからだ。『ショッピングモールの方はしたよ！』ありがとうございます！」

フィリ「さなえからだ。『メリーゴーランドの方はやりました』恩

に切る・・・！」

ショッピングモールとメリーゴーランドのハンターボックスの封印メールが来たため、残りはフリーフォールにあるハンターボックスのみとなった！
しかし、フリーフォールは遠い所にあり、残り時間が少ない。誰もが諦めがちになる中・・・

ハジメ「ラストはそこか！ここで諦めるわけにはいかねぇんだよ！」

若「最後の一つとはいえ、その重みは大きいです！」

タロー「出来るだけやってみるよ！」

ナカジ「タローに呼ばれた以上、絶対にやらないとな・・・」

フリーフォールに向かうのはハジメ、若、タロー、ナカジの四人。
四人の位置はそれぞればらばらであり、全力で走っても間に合うか間に合わないかと長距離である。道中にはハンターがおり、見つかる覚悟で進まないといけない・・・！

ハンター放出まであと3分

ハジメ「運動しているとはいえ、キツイ・・・！」
若「どっちの方角でしょうか・・・？」
ハジメ「若！お前も行くのか！一緒に行かないか！」
若「私も同じですので、かまいません！」

フリーフォールに行く途中でハジメと若が合流した。ミッションの条件が道中で揃うと、ハンターに用心して目的地へ向かう！足や体力に自信のある新米教師とミラクル☆４の最年少は呼吸を荒げながら、ミッションを成功させようと足を動かす。

ハンター放出まであと1分

若「あと1分しかありません！」
ハジメ「これは賭けるしかない・・・！」

ハンター放出まであと３０秒

残り時間が３０秒を切ったと同時、人が高い場所から急降下するアトラクションの近くに最後のハンターボックスがあった。それを見つけると二人は全力で走り出す！

ハンター放出まであと１０秒・・・

９・・・

８・・・

７・・・

ハジメ&若「間に合え――――――

タロー「あちゃー、もうやられちゃってるよー；」
ナカジ「無駄足だったな。だけど、俺ら以外の人が向かってなかったら1体放出はあっただろう・・・」

その数秒後にタローとナカジの二人がフリーフォールにやって来た。ミッションをクリアされた事にちょっと悔しがるも、同じ同志がいる事に彼らは感謝をする。

ハジメ「時間ギリギリでクリアした・・・」
若「危なかったね・・・ハジメさん、大丈夫?」
ハジメ「平気だ・・・。ぜぇ・・・ぜぇー・・・」

最後のハンターボックスを封印した新米教師とミラクル☆４の最年少。ミッションを達成した事に喜ぶ二人はその場に座り込む。そこに・・・

???「ハジメと若さんがフリーフォール付近にいます」

裏切り者が二人の近くにいた・・・。裏切り者の通報を受けたハンターが直ちに二人の確保へ向かう!

ナカジ「俺を呼ぶ時はちゃんと確認してろよな?」
タロー「あはは。でも、多い方がいいし・・・って、ハジメちゃんと若の方にハンターが向かっている!?」
ナカジ「んなっ!!」

解散しようとするＤｅｓ組のサーファーとギラギラメガネ団のリーダーの目に映ったのは二人を狙う黒い服の男。二人は気付いておらず、呼吸を整えている。

タロー「二人とも逃げて!ハンターが来てる!」
ハジメ「タローとナカジじゃん。どうし・・・って、はあああああっ!!?」
若「こんな時にハンターが来るなんてありえませんよ!」

タローの言葉により、走り出す四人。ハンターが狙いを付けたのは・・・

ビ――――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　ＨＡＪＩＭＥ

ハジメ「こっちかよ・・・！」

運悪く狙われたのはハジメ。急いで逃げるもミッションで体力を大幅に消費しているため、最早、逃走不可能・・・。

ハジメ「ひゃぐぅ！」　ポン

１３４：４５　（裏切り者の通報により）ハジメ確保　残り２７人

ハジメ「こんな終わり方ってあんのかよ！ふざけんな・・・！」

ピピピピピ！

ユーリ「『裏切り者の通報により、フリーフォール付近でハジメ確保。』犠牲者が・・・！」

ＤＴＯ「『残り２７人。』許さねぇぞ裏切り者！ミッション終了直後に狙いやがって！」

ハヤト「ハジメさんがやられた・・・！」

若「私達、見られてたんですか・・・！？」

新たな裏切り者の犠牲者に逃走者達は驚きを隠せない。特に学校組やＤｅｓ組の怒りは大きい・・・。

？？？「一人だけ・・・若さんは逃げた・・・！」

一方の裏切り者は一人がいなくなったので、賞金が得られない事に苛立っていた。ハジメを葬った裏切り者は現在、２０万円のボーナスを手にしている・・・。

この悪夢はいつになったら終わるのだろうか・・・？

ミッション1終了したよ！（ｂｙミニッツ）（後書き）

「確保者の言葉」４人目：ハジメ
ハジメ「教師やＤｅｓ組の一人としてすっげー情けない・・・;ん？メール？はあっ！？俺って裏切り者に通報されてたのか！！誰だよ！俺を狙ったのは！！（激怒」

次回は牢獄の話を

牢獄とミッション2を（ｂｙリエ）（前書き）

「小ネタ」どうやってセットしてるの？
ポエットと一緒にプリキュアを見ているスマイル。スイートプリキュア♪が終わりに差しかかった時・・・

来春はスマイルプリキュアが放送開始！

ポエット「次回作のプリキュアは５人組だね！前のプリキュア５を思い出すね！」
スマイル「ウン！スマイルプリキュアの子達の情報もちょっとずつ出てるし、公式ＨＰもオープンしたヨ！」
ポエット「本当！あとで変身アイテムや武器の情報でも見てもいい？」
スマイル「イイヨー！（だけどさ、新作の情報を見て思ったんだけど・・・」

スマイル（黄色の子の髪型って変わりすぎじゃん；つか、どういう風にセットしてるノ・・・。過去のうららちゃんも同じだったよネ；；）

コロネやトンガリのヘアーはプリキュアパワーでなせる技でしょうか・・・？変身前と変身後の差が凄すぎるし、ほとんどの子達が驚くのは無理ないですよね；
ちなみにあたしは赤い子と緑の子が大好きです。活発系とはナイス。

牢獄とミッション2を（ｂｙリエ）

「牢獄　ＤＥ　とーく」（※牢獄の場所は遊園地ゲートのチケット売り場付近）
ハジメ「ただいまー・・・」
タイマー「お帰りー！メールを見たけど、封印したって凄いじゃん！僕もしたかったー・・・」
リュータ「俺もだ・・・。曲がり角でハンターって、ありえねーし・・・」
リエ「でもさ、裏切り者はまだいるんでしょ？誰が裏切り者だと思う？私はＫＫだと思う！」
タイマー「んー・・・僕はＤｅｓ組の人に悪いけど、ジャックかな・・・？」
リュータ「あいつも疑われやすいもんな。俺はツーストだと思う、あの服装や目つきからすると怪しいし」
ハジメ「みんなはＫＫやツーストやジャックが怪しいと思うけど、俺はヒューかな？あいつ、金欠と聞いてるし・・・」
リエ「うーん・・・誰かしら・・・？」

誰が裏切り者かと推測する中、牢獄に誰かがやって来た。来たのはＭＺＤとりゅーとだ。二人の手には食べ物があった。

りゅーと「みんなー、待っていると退屈でしょ？よかったら、紅茶とお菓子をどうぞー」
タイマー「いいの！？やったー！」

牢獄にいる四人に渡されたのは暖かい紅茶とホットスフレだった。
寒い中、待たされている逃走者に考慮して用意したのだろう。

ＭＺＤ「ミルクや砂糖もあるからなー」
リエ「やった！これで体が温かくなるわ！」
ＭＺＤ「あと、ハジメにはこれ」

ＭＺＤが指パッチンをするとハジメの前にメロンパンが現れた。大好物が出現した事に本人は驚く。

ハジメ「これは・・・」
ＭＺＤ「横浜学園都市部さんがミッションで貢献したお前に差し入れだってよ」
ハジメ「マジか・・・！応援してくれてありがとうな！」
リュータ「いいなー、差し入れー・・・」

牢獄でティータイムが行なわれる中、残った逃走者は・・・

タロー「ハジメちゃんを通報したのはお前だろー！」

ナカジ「おっさん、正直に言え」

ユーリ「ウーノやフォース、若が知ったら悲しむぞ」

若「ジャックさんは味方を切り捨てたりはしてないですよね・・・？」

アリシア「さっさと白状した方がいいわよ」

ハヤト「ミッションの隙をついてしてませんよね？」

ＫＫ&ツースト&ジャック「うるせ――――――

と異世界の暗殺者はうんざりする・・・。

KK「電話一つでここまでとばっちりが来るなんて聞いてないぞ！」

ツースト「メンバーにも「裏切り者ですか？」と言われたぞ！？」

ジャック「身内に対しても信じられなくなるよ！あーもー！」

？？？「みんな、三人を裏切り者だと思っている・・・」

疑われる逃走者を横目に裏切り者はさらなる獲物を求める・・・

鹿ノ子「うーん、なーんでお金を得るだけにミッションや裏切り者が邪魔するの～？」

一方、ミッション1に参加せずに花壇の脇に隠れるのは鹿ノ子。彼女はミッションと裏切り者の存在のせいでお金を得るのが甘くない事を知り、腕についている装置とにらめっこする。彼女の狙いは・・・

鹿ノ子「自首よ！自首！」

そう、自首狙いだ。

鹿ノ子「５０万ぐらい稼げば、新作の着物は買えるよね！最近、２０でアタシとそっくりな子が現れてやばいのよね；しかも、その子はセクシーで着物の柄も可愛いし、豪華なアーティスト付きって・・・うあぁー！マジでムカつくー！（怒」

２０の参戦者に自分と似ている部分が多く、人気の座を奪われることを危惧した月と花の撫子は必要な資金を持って帰ると決意する。ちなみに自首は遊園地（ゲームのリタイア）にある５つの公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金が獲得が可能となる。なお、彼女のいる場所から最も近い公衆電話はショッピングモール付近だ。

鹿ノ子「さーて、早く５０万近くにならないかしらー？」

モニモニ「あーあ、ミッションに参加したかったなー」

一方、水上ジェットコースターの付近に隠れるのはモニモニ。薬で魔女っ子に変身する芋虫の少女はミッションに参加できなかった事を悔やむ。

モニモニ「ミッションはしっかりとやった方がクリアしやすいもんね！ちゃんとやれば自分だけじゃなく、相手にも迷惑がかからないからね！ちゃんとしないと先輩魔法少女や後輩魔女っ子にも顔を見せられなくなるし、どっかの世界にいる赤い帽子の女の子並みに大変な事になっちゃうからね！」

逃走中の行動で人の見方が変わってしまうと理解しているモニモニは次のミッションは参加すると決意する。つか、さりげなしに逃走中で有名な問題児の事を言ってませんか？

ピピピピピ！

フィリ「ミッションか・・・？」

六「『ミッション2』今度は何だ・・・？」

スマイル「『残り１１０分までにポップンランドにある像の前で記念撮影をせよ。』うわ、めんどくさいのが来た；」

『ミッション２』強制失格を免れよ！
残り１１０分になると強制失格になってしまう。免れるにはポップンランドの北エリアにあるＭＺＤ像か南エリアにあるミミニャミの像の前で撮影をし、像と一緒に写った写真を転送せよ。ただし、２人以上で撮影しないとクリアにならない。

エッダ「これ、難しそう・・・ナカジとタローを呼ぼう・・・」

アリシア「一旦、像の方へ行かないと」

ジャック「誰かを見つけないと・・・」

ミッション２は特定の場所で複数の逃走者と写真撮影。このミッションに逃走者はどう動く・・・！

牢獄とミッション2を（ｂｙリエ）（後書き）

モニモニ「ミッションは絶対に多くの人を助けるね！写真は待ってあげた方が・・・」

ポンポン（肩を叩く音）

モニモニ「ん？ちょっと忙しいのに誰な・・・」
ヴィータ（例の問題児）「（＾ω＾＃）」
モニモニ「え；張本人がここにいるって・・・；ちょっと何をするー！」

デデーン！

紀葉さん、ネタがかぶってしまってごめんなさい。

ミッション2、頑張らなきゃ！（ｂｙさなえ）（前書き）

モニモニ「ただいまー・・・」
リップ「お帰りー。どこに行って・・・って、どうしたのその頭のタンコブは！？」
モニモニ「悪魔のような魔法少女に遭遇した・・・」

前の後書きの続きっぽい

ミッション2、頑張らなきゃ！（ｂｙさなえ）

残り１１０分になるまでに二人以上の逃走者同士で北エリアにあるＭＺＤ像か南エリアにあるミミニャミ像の前で撮影しないと強制失格となる！

ＤＴＯ「このミッション、移動が面倒だ・・・」

移動を要するミッションに愚痴をこぼすのはＤＴＯ。ずっと隠れていたＤｅｓ組の副リーダーの教師は周囲を見渡す。幸いにも北エリアのＭＺＤ像の近くにおり、少し歩けば目的地に辿り着ける。

ＤＴＯ「あとちょっと。運動していない俺にとってはきつ・・・！？」

積極的な生徒や後輩、メンバーとは真逆の性格の彼は曲がり角に身を隠す。理由は・・・

ハンター「・・・」

ハンターだ。最悪な事にハンターは像の方へ歩いていく・・・

ＤＴＯ「さっさと行けよ・・・！邪魔だろ！」

エッダ「ここで撮影するんだよね・・・？」

南エリアにあるミミニャミ像の前に来たのはエッダ。メールを見ていち早く動いたギラギラメガネ団の雪を操るギタリストは誰か来ないかと待ち続ける。

エッダ「早く来て・・・」
スマイル「ようやく到着～。あ！エッダ君、見つけた！」
エッダ「（ビクッ！）あ、スマイル・・・」

遅れてやって来たのは同じ弦楽器を趣味とする透明人間。自分とは性格が真逆の知人の登場にエッダは少し驚く。

エッダ「ビックリした・・・」
スマイル「ごっめーん！それよりも撮影しようヨ！ヒヒッ！」
エッダ「うん・・・！じゃあ・・・えいっ！」

エッダ　スマイル　ミッションクリア

スマイル「エッダ君、アリガトー！」
エッダ「う、うん・・・あれ？」
スマイル「どしたノ？」
エッダ「あ、あれ・・・！」

二人の視界に入ったのは物陰に隠れているＤｅｓ組の暗殺者の姿。
裏切り者の候補の一人の存在にエッダとスマイルは一目散に逃げ出す。

スマイル「通報されるカモ・・・！」
エッダ「逃げなきゃ・・・」

通報される前に行動すればいいと考え、別々の道へ全力で逃げる。
しかし・・・！

？？？「エッダ、南エリアの売店付近にいます」

見られた・・・

エッダ「お願いだから来ないで・・・」

内気な鹿の子のは通報されていない事を願うも、その願いは即座に打ち砕かれた・・・

見つかった・・・！

ビ――――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　　ＥＤＤＡ

エッダ「どこかに隠れて・・・えっ！？」

脇道から現れた黒ずくめの男の存在にエッダは驚き、大急ぎで走りだす。しかし、至近距離で見つかったため、最早、逃走不可能・・・。

エッダ「・・・！？」　ポン

１２７：０２　（裏切り者の通報により）エッダ確保　残り２６人

エッダ「まさか、見られてたの・・・！」

ミッション終了後も安心できない・・・

ピピピピピ！

タロー「ナカジ、メールを見て！」
ナカジ「『裏切り者の通報により、南エリアの売店付近でエッダ確保。』エッダがやられた・・・！」

ポエット「『残り２６人。』像付近にいるの・・・！？」

さなえ「これで裏切り者による通報は３人目・・・！」

裏切り者の存在はミッションの妨げになり、ミッションクリアの難易度を上げる。だが、裏切り者は・・・

？？？「これで３０万円ゲット・・・。もっともっと通報してお金を手に入れてやるよ・・・！」

モニモニ「早く来てよー！誰かー！」

北エリアにあるＭＺＤ像の前にいるのはモニモニ。ハンターの目を掻い潜り、目的地に到着したのだ。後は誰かと写真を撮影して転送をするのみ。しかし、像は目立つ場所に設置されているため、ハンターや裏切り者に見つかる可能性が高い。
するとそこに・・・

フィリ「誰かおらぬのか！」
モニモニ「来た！フィリだ！」

そこにやって来たのは猫又チームから代表で参戦した風の精霊のフィリ。目的地に到着した彼は呼吸を整えると芋虫の魔女っ子を見つける。相手も気付き、彼女は携帯のカメラ機能を作動させた。

フィリ「はい、チーズ」

モニモニ　フィリ　ミッションクリア

フィリ「モニモニ、済まぬな。」
モニモニ「いいのいいの！モニモニも人助けをするよ～！」
フィリ「ワシはここを離れるが、お主はどうするんだ？」
モニモニ「んー、もうちょっと残るよー！移動しちゃうと誰かが困ると思うし。」
フィリ「そうか。だったら、ここにお前がいると伝えておく。」
モニモニ「サンキュー！」

モニモニが他の逃走者のために残ると聞いたフィリは軽く会話するとその場から離れる。周囲を警戒して歩む彼の視界に・・・

ミシェル「あと少しで像の前に着きます・・・！辛抱を・・・！」
フィリ「家庭版の奴か・・・。おーい！」

道中で出会ったのはＣＳ版ポップンのミシェル。ミッションに向かう天使の存在に気付いたフィリは呼び止める。

ミシェル「フィリさん、どうしたんですか？」
フィリ「お前はミッションに向かうのか？」
ミシェル「そうですけど・・・フィリさんはもうクリアしたんですか？」
フィリ「ああ、クリアした。今、北の像の方にモニモニが他の逃走

者のために残っておる。行った方がよいぞ。」
ミシェル「本当ですか！？ありがとうございます！」

フィリの言葉を聞いた彼は一直線に像の方へ向かう。その言葉の通りにモニモニがおり、写真に応じてくれた。

ミシェル　ミッションクリア

ミシェル「助かりました！（ヒューは大丈夫でしょうか・・・？」

その後、ミニッツ、ユーリ、アッシュ、さなえ、ナカジ、タロー、リップが撮影をし、ミッションをクリアをした。この時点で残り時間は１２０分を切った。

ツースト「しかし、こんな大人気の遊園地でゲームなんかするなよ・・・；」

水上ジェットコースターの近くを歩くのはツースト。人が多くいる場所で逃走中が行われる事に怒りを覚える。元々人ごみを多く嫌うミラクル☆４の暗殺者はうんざりする。そのせいで・・・

～数分前～

アルル「あの人って、ミラクル☆４のツーストだよね！」

シェゾ「マジか！本物じゃねぇか！他の奴もいるのか！」

ツースト「ぷよぷよのアルルとシェゾがここにいるとは思わなかったぞ・・・；（デートの最中か・・・？」

過去にぷよぷよのアルル・ナジャとシェゾ・ウィグィィに会ってしまったのだ。魔導師の卵と闇を愛する魔導師の厄介事に巻き込まれた彼は二人に質問責めや写真撮影にうんざりし、疑われている事と人やアトラクションが織りなす音に気が滅入ってしまう・・・。

ツースト「場所を考えて選べよな；クソー；」

苛立ちながら像を目指すツースト。だが、そこに近づく黒い影・・・

ハンター「・・・」

ハンターだ・・・。周囲を見渡す彼に接近している・・・。

ツースト「誰もいない大学や遊園地や街なら大歓迎だ。それだったら、俺もやる気は出るし、変なのに絡まれずに済むし、人ごみも避けられ・・・あれ？って、うおおー！！」

ハンター「・・・！」

見つかった・・・！

ビ――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　２ＳＴ

ツースト「こっちに来るんじゃねー！」

走るツースト。その先に・・・

ヒュー「像はどっちに・・・って、ツーストの奴、ハンターを連れてきてるし！？」

遠くで二人を見たヒュー。彼は大急ぎで物陰に身を隠す。知人の追いかけっこのほとぼりが冷めるまで整備士は周囲を警戒する。

ヒュー「ハンターのせいで行きづらくなったな・・・」

ツースト「俺に来るなよ！あっち行けー！」

ハンターを振り切ろうとするツースト。しかし、ハンターとの距離は徐々に縮まり、最早、逃走不可能・・・。

ツースト「のぉーん！」　ポン

１１９：４０　ツースト確保　残り２５人

ツースト「ハンターの奴、足速いって！あれは本当に人間なのかよ！！」

ミラクル☆４の二番手、ここで散る・・・

ピピピピピ！

アッシュ「『メリーゴーランド付近でツースト確保。』ツースト君が確保されたっス！」

若「『残りは２５人』。後で謝罪しないと・・・；」

アリシア「裏切り者じゃないね」

ミミ＆ニャミ「はい、チーズ！」

ミミ　ニャミ　ミッションクリア

南エリアにある自分達の像で写真撮影をするミミとニャミ。写真を送信し終えた二人は１３衣装を着た自分達の像を見る。だが・・・

？？？「二人いるなんて運がついてる！」

裏切り者が視界の二人の姿を捉えた・・・。裏切り者は携帯を取り出し、電話をする。

？？？「ミミ、ニャミ、南エリアのミミニャミ像の前にいます」

裏切り者の通報を受けたハンターが像にいる二人の元へ向かう！

ニャミ「私達の像があるなんて恥ずかしいなー」
ミミ「１３の時に手品の練習をしたのが懐かしいねー」
ニャミ「あの時はボールやナイフを投げて・・・って、ハンター！」
ミミ「本当だ！」

遠くから走ってくるハンターの存在に気付いたミミとニャミ。彼女達は走り出し、前方に分かれ道を見つける。ミミは左の道、ニャミは右の道を選ぶ。ハンターが狙いをつけたのは・・・

ビ――――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　　ＭＩＭＩ

ミミ「こっちなのー！？」

ずっと追いかけてくる黒ずくめの男に恐怖を覚えながらも走るミミ。
だが・・・

ハンター「・・・！」

ミミ「行った先にもハンターー！？」

逃げた先に別のハンター。挟み撃ちに合い、最早、逃走不可能・・・
。

ミミ「きゃああー！」　ポン

１１９：１０　（裏切り者の通報により）ミミ確保　残り２４人

ミミ「ミッションクリア後に確保ってないでしょ！ニャミちゃん、
ごめんなさーい！」

ウサギの少女の叫びが空しく響く・・・

ピピピピピ！

ポエット「『裏切り者の通報により、南エリアのミミニャミ像の付近でミミ確保。』ミミちゃんが捕まった!?」

ミニッツ「『残り２４人。』ミミお姉ちゃんが裏切り者に通報されたの!?」

ニャミ「裏切り者ゆるせない・・・！私やミミちゃんを通報して・・・！」

ポップンミュージックのメインキャラクターがいなくなった事にざわめく逃走者。ミッションに積極的な人が確保されるのは、残された者にとっては大きな痛手。

???「一人だけ・・・！チッ・・・！」

メールの確保情報で一人しか確保されていない事に裏切り者は舌打ちをする。これで裏切り者の犠牲者は４人目・・・

その後、ポエット、六、鹿ノ子、ＫＫ、ジャック、ハヤト、若、エージェント、アークが撮影をし、ミッションをクリアをした。

現時点でクリアしていないのは・・・

アリシア「急がないとやばいわ・・・！」

ヒュー「裏切り者のせいで別方向に行く羽目になっちまったじゃねぇか！」

ＤＴＯ「誰にも出会ってないし・・・！くそっ！」

クリアをしてないのはアリシアとヒューとＤＴＯの三人。彼らは１０分になる前に像の前で誰かと一緒に写真を撮らないと強制失格になる！

はたして、クリアは出来るのか・・・！

ミッション2、頑張らなきゃ！（ｂｙさなえ）（後書き）

「確保者の言葉」５人目：エッダ　６人目：ツースト　７人目：ミミ
エッダ「ツースト、疑ってごめん・・・」
ツースト「いや、別にかまわん。それよりも・・・」
ミミ「・・・（裏切り者に対して殺意を持っている」
ツースト「やべぇ・・・；あいつ、人を殺す気か；」
エッダ「裏切り者、ご愁傷さま・・・」

ミッション2が終わったよー（ｂｙポエット）（前書き）

１月４日にポップン２０の募集の対象になったストライフが遊べる！やったネ！
トラディショナルルーツもやりたいなー。

ミッション2が終わったよー（ｂｙポエット）

残り１１０分に近づく中、アリシアとヒューとＤＴＯは強制失格を免れる事が出来るのか！

ピピピピピ！

スマイル「メール？誰が確保された・・・？」

ジャック「『現在、クリアしてないのはアリシア、ヒュー、ＤＴＯの３人。』あいつらまだだったのか！？」

六「あいつ・・・！ちっ・・・！」

エージェント「アリシアに連絡しないと・・・！」

ミシェル「まずい事になりましたね・・・」

鹿ノ子「アタシには関係ないし。さっさと自首しようっと」

ピピピピピ！

アリシア「誰？もしもし・・・」
エージェント「アリシア、俺だ！」

１９でデビューした不思議な国の出身者であるアリシアに電話をかけて来たのは同じシリーズでデビューしたスパイのエージェント。
彼は同じ仲間であり、恋人のアリシアの未クリアのメールを見て、クリアに貢献しようと電話をかけたのだ。

エージェント「アリシア、お前はまだなんだろ！何してんだよ！」
アリシア「ハンターのせいで動けないの！怖い・・・」
エージェント「お前、今はどこにいるんだ！俺が迎えに行く！どこにいる！」
アリシア「ゲームセンターの所にある倉庫・・・」
エージェント「分かった！」

別の場所では・・・

六「ＤＴＯ、俺もミミニャミの像の方へ向かうからおまえも来い！！」
ＤＴＯ「すまん！副リーダーなのに迷惑かけて・・・」
六「困っているメンバーを見捨てる訳がないだろ！Ｄｅｓ組はこん

な所でくじけるな！」
ＤＴＯ「ありがとう・・・。俺もそっちの方へ一秒でも早く向かう！捕まるなよ！」

さらに別の場所では・・・

ヒュー「ミシェル、お前は像の方に来れないのか！」
ミシェル「ごめんなさい。僕は観覧車の近くにいるので間に合いません・・・」
ヒュー「マジかよ・・・！」
ミシェル「ですけど、モニモニさんが北エリアの像にいます！もしかしたら、彼女なら・・・」
ヒュー「協力者がいるのか！だったら、行ってみる！」
ミシェル「僕もモニモニさんに交渉してみます！今はミッションに集中してください！」

クリアしていない逃走者を救おうとクリアしたパートナーである逃走者が全力を尽くす。しかし、彼らの行く先にはハンターと裏切り者がいる・・・。

さなえ「ミッションをクリアしたし、どうしようかな・・・」

一方、ミッションをクリアしたさなえ。彼女はハンターと裏切り者を用心しながら進む。賑やかな遊園地に潜む恐怖は少しずつだが、体を十分に染める・・・。

さなえ「誰かと合流してもいいけど、裏切り者だったら・・・」
??「どこにあるのよー。もうっ！」
さなえ「あら？」

大通りを歩むファッションデザイナーの少女の目に飛び込んだのは・・・

さなえ「あの人ってリリカルなのはの主人公のなのはちゃん!?」
なのは「どこにいったのー？ん？あなたはポップンのさなえちゃん！」

そこにいたのはリリカルなのはの主人公である高町なのはがいた。エース・オブ・エースの魔導師はポップンのキャラに遭遇すると笑顔で挨拶をする。

なのは「本物に会えるなんて嬉しいー！フェイトちゃんとはやてちゃんと一緒にポップンしてるよ！」
さなえ「ありがとう。それよりも、なのはちゃん。さっき大声で叫んでいたけど、何があったの？」
なのは「実はね、レイジングハートを落としちゃったの；しかも、待機モードの；」

さなえ「ええっ！大事な武器を落としちゃったの！？だったら、探すの手伝ってあげる！」

目の前で困っている人を見捨てるわけにはいかないとさなえはなのはの大事な物を探す。レイジングハートは見つかるのだろうか・・・？

アッシュ「裏切り者って誰なんスかね・・・？」

ユーリ「分からない。ＫＫやジャックだけでなく、大人しそうな奴や礼儀のいい奴も怪しいからな・・・」

ゲート付近のベンチにいるのはユーリとアッシュ。基本、二人行動をしている妖怪は裏切り者の情報を集め、誰なのかと推測している。しかし、誰が正直で、誰が嘘なのかは言葉一つで左右されるため、人の心は簡単に変化しやすい・・・。

アッシュ「裏切り者の被害はこれで４人・・・」

ユーリ「リエとハジメとエッダとミミか・・・」

アッシュ「一発殴りてぇ・・・！ん？」

？？？「俺のブラスターはどこに消えたー！」

ユーリ「あいつ、どこかで・・・」

ゲートの付近に戦闘服を着た狐の獣人が必死に何かを探しているのが見えた。あの人物は・・・

ユーリ「あいつはスターフォックスや大乱闘スマッシュブラザーズシリーズに出てるフォックス・マクラウドじゃないか！」
アッシュ「本当だ！フォックス君、何か困っているみたいだし助けよう。おーい！」
フォックス「ん？お前達はＤｅｕｉｌの妖怪じゃないか！スマイルはどうした？」
アッシュ「スマイルは別の場所にいるっス。フォックス君、どうしたんスか？」
フォックス「実はこのゲート付近で落とし物をしてしまったんだ。武器のブラスターをどこかに・・・」
ユーリ「武器を落としたのか・・・。私も手伝うから、もう一度来た道を調べてみろ」

赤き吸血鬼と緑の人狼も人助けに加わる。逃走中に参加している事を忘れ、フォックスの武器を探す。

逃走中での探し物。別の場所でも・・・

？？？「どなたか、私の頼み事を引き受けてくださいー！」
アーク「どうされましたか？あなたはぷよぷよのウィッチさん！」

ウィッチ「あら、ご存じね。レアカードおめでとう。」

街路樹を歩むアークに声をかけたのはぷよぷよのウィッチ。一人前の魔女を目指す彼女はアークを見かけるなり、すぐに声をかける。

ウィッチ「ちょっとお願いだけどいい？」
アーク「いいけど・・・」
ウィッチ「実は箒を落としてしまったの！あれがないと移動どころか、国に帰れないの！」
アーク「それは一大事ですね！分かりました！手伝います！」

自分に頼っての頼み事に弓を使う狩人は魔女の箒を探す。彼女の探し物は見つかるのだろうか・・・？

ヒュー「やべぇー！時間がねぇー！」

強制失格まであと5分

ミシェルの言葉の通りに北エリアのＭＺＤ像を目指すヒュー。全力でモニモニのいる場所へ行き、対象の人物を見つけると心の中でガッツポーズをした。

モニモニ「こっちこっち！」
ヒュー「俺のために・・・わりぃな！」

倒れそうになるも、ツーショット写真を携帯のカメラで撮影すると送信した。

ヒュー　ミッションクリア

そこに・・・

六「ＤＴＯ、こっちだ！」
ＤＴＯ「急かさないでくれー！」
ヒュー「ＤＴＯ、まだだったのか！」
六「そっちはミッションをクリアしたのか！」
ヒュー「時間がないぞ！俺とモニモニがハンターが来ないか見張っておく！」
モニモニ「モニモニも見てる！」
ＤＴＯ「す、すまん！カメラは起動させた！」

ＤＴＯ　ミッションクリア

ミッションをクリアしてないのはアリシアのみとなった！彼女は強制失格を免れるのか・・・！

アリシア「エージェントはまだ・・・？」
エージェント「アリシアー！どこだー！」
アリシア「エージェント！」
エージェント「遅れちまった！ミミニャミ像へ行くぞ！」

貴族の娘を護衛するかのようにエージェントはパートナーのために像へと向かう。像までの距離はかなりあり、全力で走らないと間に合わない。

強制失格まであと2分

エージェント「2分切った！アリシア、走るぞ！」
アリシア「うん！」

ハンターや裏切り者に見つかる覚悟で二人は走る。残り時間が1分切ろうとした時、ミミニャミ像が見えた。目的地に着くと慌てて携帯を取り出し、カメラ機能を作動させる。

二人「とどけー！」

アリシア　ミッションクリア

ピピピピピ！

若「来た！『ミッション2の結果・・・』」

ジャック「『逃走者全員が撮影に成功した。したがって、強制失格者はなし。』六とDTO、間に合ったんだ！」

???「24人のままか。あれは・・・」

ミッション2のクリア情報のメールを読み終えた裏切り者が目に付けたのは・・・

ミシェル「ヒューもクリアしたみたいですね。よかった・・・」

ヒューや全員がクリアした事に安堵するミシェル。しかし、上位天使は遠くから自分を見る悪魔に気付いていない・・・。

？？？「通報通報。ミシェル、観覧車付近にいます」

ハンター「・・・」

ミシェルの近くにいたハンターが観覧車の方へ向かう。ハンターの足は徐々に加速して行き、天使のいる場所にあっさりと到着する。

ビ――――――――――――

ＬＯＣＫ　ＯＮ　ＭＩＣＨＥＬ

ミシェル「次のミッションに備えて体力の温存を・・・こんな時にハンター！？」

背後からの足音と気配にミシェルはハンターの姿を見て逃げる。しかし、気付くのが遅すぎたため、最早、逃走不可能・・・。

ミシェル「わあああああああ！」　ポン

１１０：１３　（裏切り者の通報により）ミシェル確保　残り２３人

ミシェル「危険な目に遭ってたのは自分でしたね・・・」

天使、ハンターの前で散る・・・

ピピピピピ！

エージェント「メール・・・？アリシア、読んで・・・」

アリシア「『裏切り者の通報により、観覧車付近でミシェル確保。』誰かが密告されたみたい・・・」

ヒュー「『残り２３人。』ミシェルが見られたんだ！嘘だろ・・・！」

？？？「５０万円が軽く入った・・・やった！」

あと少しで１００分を切る中、衝撃のミッションが！

ミッション2が終わったよー（ｂｙポエット）（後書き）

「確保者の言葉」８人目：ミシェル
ミシェル「後々に分かったんですけど、裏切り者の仕業だったんですね。ちょっと裏切り者には神様の言葉でも・・・（にっこり」

ミッション3が来るぞ！（ｂｙ六）（前書き）

あとちょっとすると本編のクイズが出ますので待っててくださいねー。

レアが出ないよＯＴＬ

ミッション3が来るぞ！（ｂｙ六）

ジャック「あと少しで１００分か・・・。」

腕に付いている装置で時間の確認をするジャック。これまでに他の逃走者から何度も疑われており、苛立つ・・・。その数分前には誤解が生じる事があった・・・。

ジャック「写真の時にエッダとスマイルに姿を見られていたから、あのせいで疑いが余計に強まった・・・」

ミッション２の時に像の付近に来た彼。誰かに声をかけて写真を撮ろうとした時、先に来ていたエッダとスマイルに勘違いされたのだ。そして、数分後に確保・・・。

ジャック「ちょっとの行動が俺を苦しめるとは・・・」

当分の間は苦しめられると異世界の暗殺者は溜息を口から吐くばかり・・・。疑いを果たす事は出来るのだろうか・・・？

鹿ノ子「やっと電話を見つけたわー！」

自首をするべくショッピングモール付近にやって来た鹿ノ子。目標賞金に近づくと彼女はさっさとゲームからリタイアし、着物に使う大金を得ようとする。

鹿ノ子「番号を打ち込むんだよね？えーっと・・・」

りゅーとへ電話をかけるべく、番号を確認をする彼女。賞金が得られることに胸を躍らせる撫子の元に・・・

ハンター「・・・」

ハンターだ。徐々に接近する黒ずくめの男の存在に鹿ノ子は気付いていない。ハンターが曲がり角を曲がった瞬間・・・

ハンター「・・・！」

見つかった・・・！

ビ――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　ＫＡＮＯＫＯ

電話と向き合う彼女は背後から接近するハンターに気付かない。あっさりと距離を詰められ、最早、逃走不可能・・・。

鹿ノ子「早く繋がってねー」　ポン

１０９：４９　鹿ノ子確保　残り２２人

鹿ノ子「あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜――――――――――――

ＤＴＯ「鹿ノ子が捕まった・・・！急いで離れ・・・って、俺の方に向かってやがる！！」

最悪な事に近くにいたＤＴＯは彼女を捕獲したハンターに見つかり、逃げるも・・・

ＤＴＯ「どわぁー！」　ポン

１０９：４１　ＤＴＯ確保　残り２１人

ＤＴＯ「俺関係ないのに確保されたー！！生徒に負けるって・・・うわぁー・・・；」

生徒にいい顔は見せられなかった・・・

ピピピピピ！

リップ「静かにして！見つかっちゃう！」

フィリ「『ショッピングモール付近で鹿ノ子とＤＴＯ確保。』自首でもして捕まったのか？」

六「『残り２１人。』あいつ、２０の新キャラに対して張り合おうとしてたな・・・；」

タロー「最初よりもかなり減りすぎだろー！！」

さなえ「もしかして、これかしら・・・？」
なのは「それだよ！見つけるのが大変なのにありがとう！」

なのはの探し物をしていたさなえはレンガの道に光る何かを見つけた。それは赤い石がついたペンダント・・・。そう、武器のレイジングハートなのだ。

さなえ「チェーンが外れてたみたいね。」
なのは「あ、ホントだ。家に帰ったら、ユーノ君に直してもらおう。」

アッシュ「もしかしてこれ・・・？」
ユーリ「ああ。遊園地に似合わないな。」

花壇の脇に落ちていたのは光線銃。これがフォックスの愛用している武器と分かり、二人は持って行く。

フォックス「それだ！俺のブラスターだよ！ありがとな！」
ユーリ「同然の事をしただけだ」
アッシュ「見つかってよかったっス！」
フォックス「あのさ、お願いをした身で悪いけど、アッシュの獣モードを見てみたいんだけど、いい？」
アッシュ「あの姿っスね！じゃあ・・・」

アッシュ、獣モード！（▽εωε▽）

フォックス「これ、完全に子犬だ・・・。ウルフとは大違いだ（ぷっ」
アッシュ（▽´εωε、▽）

アーク「倉庫の脇にあるかも・・・」

もしかすると遊園地の従業員が勘違いして持って行ったと考え、近くの倉庫へ行く。すると、倉庫の脇にモップや箒、ちり取りが多くあった。魔法使いではないアークは判別してもらうため持ち主である魔女を呼び出す。

アーク「この中に箒はある？」
ウィッチ「ずいぶんと多いわね。ありましたわ！」
アーク「よかった！」

１００：０８・・・
１００：０７・・・
１００：０６・・・
１００：０５・・・

100：04・・・

100：03・・・

100：02・・・

100：01・・・

100：00・・・

100：00・・・

100：00・・・

ゲームの残り時間が１００分を切ろうとした時、タイマーが止まってしまった・・・。それと同時にポップンランドのどこかに謎のロボットが設置された・・・。

ＭＺＤ「おめぇら、準備はいいか！好きなように暴れまくれ！」
？？？１「ラジャー！報酬でドーナツを用意してくれるよな！」
？？？２「こういうのは本当にありがたいぜー！」

この出来事が逃走者達に襲いかかる！

ピピピピピ！

ナカジ「メールだ・・・『ミッション３』」

ユーリ「『ポップンランドに謎の敵が現れた。』唐突すぎるな；」

ハヤト「『彼らのせいでタイマーが止められた。』本当だ！時間が１００分のままだ！！」

『ミッション３』敵を撃破せよ！
遊園地に謎の敵が出現した！彼らを倒さないと時間は１００分と止まったままになり、ゲームは進まない。ゲームを続行させるには謎の組織を倒すしかない。この時に一部のスキルと能力を開放し、エリアからハンターを一時的に除外する。また、このミッション時は

自首と通報を禁止にする。
敵は東エリアの大型ゴンドラ、北エリアのミラーハウス、西エリアのゴーカート場にいる。

ポエット「倒すか全員がやられるまではミッション3は続くんだね！」

???「通報が出来ない！？ふざけんな！！」

ニャミ「裏切り者の脅威は一時的に消えるって事だね！やった！」

ミニッツ「ミニッツも暴れちゃうよー！」

バトルがある事によりハンターと裏切り者の脅威が消える事に喜ぶ逃走者達。しかし、このバトルはミッション3であり、逃走者全員が協力しないとタイマーは稼働しない！
そして、遊園地に現れた敵の正体は・・・！

ミッション3が来るぞ！（ｂｙ六）（後書き）

「確保者の言葉」９人目：鹿ノ子　１０人目：ＤＴＯ
鹿ノ子「あとちょっとで自首が出来るところだったのに何でハンターが来るのよー！！！うがー！！！！つか、あんなに足が速いって聞いてないわよ！？」
ＤＴＯ「やべぇ、Ｄｅｓ組が少なくなってきてる・・・；しかも、俺は活躍してねぇーし；」

ロボット1号戦よ！（ｂｙ鹿ノ子）（前書き）

２０１１年、最後の更新

ロボット1号戦よ！（ｂｙ鹿ノ子）

ミッション3は敵との戦闘。大人数残っていると分かり、ユーリは全員をゲート前に呼び出す。

ユーリ「ミッション3は敵が別々にいる。ここは分かれて戦った方が得策だ。異議はないか？」
六「ああ、まったくないぞ。そっちの方が効率いい。」

くじを用意し、抽選が行われた。結果は・・・

大型ゴンドラ：ニャミ、ミニッツ、ナカジ、タロー、ＫＫ、フィリ、ヒュー
ミラーハウス：スマイル、さなえ、六、ジャック、モニモニ、エージェント、アリシア
ゴーカート場：ユーリ、アッシュ、ポエット、ハヤト、若、アーク、リップ

ジャック「全員倒して、ミッションを早めに終わらせるぞ！」

こうして、逃走者は三つのチームに分かれた。はたして、彼らは一人も失うことなく、ミッションをクリア出来るのか・・・

一方、ゴーカート場に向かうユーリ、アッシュ、ポエット、ハヤト、若、アーク、リップ。ゴーカート場に向かう七人の逃走者は武器を構えたり、変身したりする。しかし、約一名は・・・

ハヤト「完全に僕はアウェイですよね・・・。どうしよう・・・;」
ポエット「ハヤト、大丈夫だよ!出来ないと思わないで!」
ハヤト「ポエットさん、ごめんなさい。弱気になるのは僕らしくないですよね!気合い入れないと!」

戦闘能力がほぼ皆無のハヤトにとってはこのミッションはきついもの。戦闘能力があるものでも、一時的なバトルに対して不安はある。不安を胸に秘める中、彼らは車が多くあるゴーカート場に着いた・・・。

アーク「到着しました!相手は・・・」
若「気をつけてくださいね。相手はどこにいるか分かりませんからね・・・」
リップ「ヒップ、手伝ってね!」

誰もいなくなったゴーカート場を進む七人。すると・・・

？？？「ハーハハハハハハ！」
アッシュ「誰だ！」

突然声が響くと、ゴーカート場にある表彰台の花火が噴き上がる。
全員がそっちの方に向くと中央のステージがせり上がる！

？？？「何も知らずに金のために迷い込んだ逃走者達よ！多くのミッションで活躍したが、お前らの活躍はここまでだ！このゴーカート場がお前達七人の墓場だ！」

逃走者に対する憐みの言葉を述べると、相手は姿を現した！

ＭＺＤ「俺様が相手だ「死に晒せぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！」
ユーリとアッシュとポエット以外の逃走者「ユーリ様がセリフの途中で殴ったー！」

面倒事を引き起こす元凶である神にユーリが顔面にパンチを入れた！

ＭＺＤ「ぎゃぼ――――――――――――――！」
ユーリ「お前が相手なら、遠慮はいらないよな？くたばれぇぇぇぇ

ええええ！！」

赤き吸血鬼は魔法で赤いショットを放ち、相手を浮かせると魔力で作りだした槍を振りまわして連続でダメージを与える。さらに上空へ打ち上げると、ユーリも空を飛び・・・

ユーリ「仕事と不法侵入と請求書と今までの恨みだぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！（赤い光を上空から落とす」
ＭＺＤ「ぎゃあああああああああああああああああ！」

チュドゴ――――――――――ン！

ユーリ「圧勝！」
ユーリとアッシュとポエット以外の逃走者「あんた鬼だー！！」
若「ユーリさん、あなたが恨みを持つのは分かりますけど、会話の途中での不意打ちは卑怯ですよ！」
ハヤト「今のは格ゲーでは出せないコンボですね・・・；（先生もこんなんだった；」
アーク（ユーリさんの噂を聞いてたんですけど、これは酷すぎます

ね・・・）
リップ（それ以前に何をしたのかな神様?）
アッシュ「ユーリの魔法と技、もう一度見たいっス！（▽εωε▽）」
ポエット「ポエットもー！」
ＭＺＤ&若&ハヤト&アーク&リップ「この子達も鬼だー！！」

流石にやりすぎたとユーリは反省し、ポエットが回復魔法を使う。
傷を全部塞ぐと創造神は話を進める。

ＭＺＤ「あんたらの実力は十分分かっている！このままだと、逃げ切りする奴が多くなるからちょっとばかりは難しいミッションを入れた。」
ポエット「それがミッション3でしょ?だったら、神様が相手なの？」
ＭＺＤ「それもそうだ。だが、あんたらの相手はこいつだ！」

そう豪語するとＭＺＤは大きくジャンプし、ある場所へ着地する。
そこにあったのは一人乗り用のロボット。そのロボットの空いているコクピット部分に座るとハッチが閉まり、ロボットが稼動する。

ＭＺＤ「俺様が操作するロボット1号がお相手するぜー！」

ユーリ「来るぞ！」

ユーリの一言と同時にロボット1号が大きくジャンプし、七人に襲い掛かってきた！

アッシュ「最初から全力で行くっス！ハウンドコール！」
リップ「ピュアピュアハンマー！」

最初にアッシュとピュアクルリップが前に出る。気が込められたアッシュのパンチとピュアクルリップのハンマーがロボット1号に当たる。そこに追い討ちをかけるかのように弓を持ったポエットとアーク、札を持つ若が背後に回る。

ポエット「ぽえぽえアロー！」
アーク「アローショット！」
若「・・・白虎の牙！」

威力の強い攻撃と連続で放たれる技。この二つは神が動かすロボットに大きなダメージを与え、耐久力を削っていく。そこにユーリの魔法が狙い、これだけやれば倒せるはずだが・・・

ＭＺＤ（実はこのロボットは操作する人間の精神と同調するんだよなー。攻撃や防御も当たり前だし、魔力を注ぎ込めば・・・）

キィン――――――――――――

ハヤト「傷が回復した・・・！」
ユーリ「面倒な事になったな・・・」
ＭＺＤ「面倒な事といったら、こういう事か？」

その言葉の通りにＭＺＤはロボット１号とシンクロし、自分の覚えている技を使う。彼はロボット１号のすべての機能に魔力を常に注いでいるため、傷をつけるのは容易ではない。星屑を無数に飛ばす神の得意技・・・

ＭＺＤ「スターダスト！」
ポエット「全員避けてー！」

自分の曲をイメージして編み出した技は幻想的であると同時に命を生み出す神が使うと脅威になる。七色の大小異なる星は暗い空に浮かぶと綺麗であるが、今は例外。

リップ「うわわわわわ・・・！」

アーク「これは近づけられないですね・・・」
ユーリ「守っているばっかりだとやられるぞ！多少のダメージは覚悟しろ！」

戦いのプロは星によるかすり傷でも怯まず、ユーリとアッシュは飛び蹴りをし、二人が攻撃した一点を狙うようにピュアクルリップと若が魔法と術を放つ。さらにポエットとアークも魔力が込められた矢のオマケつき。

アッシュ「サムライシンドローム！」
アーク「ブレイクショット！」
ＭＺＤ「まだまだぁ！ツインレーザー！」

キュイン！

若「危ない！玄武の守り！」
ハヤト「ありがとうございます・・・」
ユーリ「油断するな！レッドマジック！」

ガキィン！

アッシュ「いだっ！」
リップ「ラブゲッ・・・きゃあ！」
ポエット「大丈夫！？ヒーリング！」

ＭＺＤ「気を抜くとやられるぜー？」

子供のように無邪気に機械を操る創造神。彼は画面をタッチするとブースターを稼働させ、動きをフルにする。青いオーラに包まれると、画面に映し出されている赤き吸血鬼、緑の人狼、白き天使、Ｄｅｓ組の生徒、ミラクル☆４の最年少、妖精の王子、恋の魔女っ子にロックオンする。

ＭＺＤ「神様によるロボット乱舞だぜー！！！」
ユーリ「かはっ・・・！！」
アッシュ「うわあああー！！」
ポエット「きゃあー！！」
ハヤト「うっ・・・！！」
若「わあああああー！！」
アーク「ぐっ・・・！！」
リップ「いやあああー！！」

目に見えぬ高速移動と重たいパンチは逃走者の守りを壊し、大きなダメージを与える。ユーリの羽根のガードや若の術による結界さえも粉々にしてしまう・・・。

ユーリ「羽が悲鳴を上げるとは・・・」
若「結界が・・・（精神力が・・・」
アッシュ「みんな大丈夫っスか・・・？」
ハヤト「ううっ・・・」
ポエット「ハヤト、大丈夫！？回復してあげるね！」
リップ「これ、ハヤト君はきつすぎるよ！このままだとやられちゃう！」
アーク「無理はしない方がいいですよ。休んでください。」
ハヤト「ご、ごめん・・・」

ポエットの回復と若の術により、全員の状態を整えると、非戦闘のハヤトを避難させる。その直後、残った六人は再度戦いに挑む。

ユーリ「ふざけるのも大概にしろ・・・！ヴァンパイアランス！」
アッシュ「みんなに続くっスよ！シルバーヴェアヴォルフ！」
ポエット「みんなに力を！ホーリーハッピー！」

ユーリの赤い槍とアッシュの切り裂き攻撃とポエットの聖なる光の輪がロボット1号に攻撃し・・・

若「行きますよ！朱雀の炎！」
アーク「狙いは・・・スナイパークールアロー！」
リップ「いっくよー！キュートピュアショット！」

若の式神とアークの誘導矢とピュアクルリップのハートの光線も続き・・・

ＭＺＤ「ホープシューティングスター！」

ＭＺＤも星を生み出す・・・

ハヤト「うっわぁー；これは本当にありえないですよー；」

一方、戦闘が苦手なハヤトは茂みに隠れており、仲間の戦いを見守っていた。攻防の続く戦いにハラハラする中、彼はどうするかと悩んでいた。

ハヤト「見ているのはよくないですよ！僕も何か手伝える事は・・・。そうだ！あのロボット１号の秘密を探ってみましょう！」

何かの情報が得られると思い、ハヤトはロボットの動きを観察する。攻撃や防御、ＭＺＤの技、回復の動作も忘れない。目を凝らして観察する少年はあるものを見つける。

ハヤト「ん?あのロボットは少し宙に浮いていますね。それによく見れば、攻撃を受ける際に少し体を斜めにしています・・・。」

そう、ハヤトが見つけたのはロボット1号が宙に浮いているのと攻撃時に機体を動かしている事だった。この点は普通に人が見ると何にも思わないのだが、この手のゲームやアニメに詳しい友人や知人を持つ彼にとっては意味を成す!

ハヤト「そっか!あのロボットは・・・みなさーん!ちょっと来てくださーい!」
アッシュ「どしたんスか?」
ＭＺＤ「作戦会議でもしてんのか?どーせ無理だしな!でも、待ってやるか!」

ハヤトの声に戦っていた逃走者は一斉に集まる。その光景に神は疑問を持つも、作戦の会議に邪魔はしない。

ポエット「ハヤト、どうしたの?」
ハヤト「実はあのロボットなんですけど、ちょっとした変化があるみたいです。」
ユーリ「変化?」
ハヤト「実はあのロボットは自分の能力をシンクロさせるため、少し浮いているんですよ。全部に行き渡らせるために。ですけど、みなさんが攻撃すると力を多く消費するため、機体を動かしてダメージを減らしているみたいです。」
リップ「え?それって、どういう意味?」

アーク「受け流しているって事ですよ。たしかに機体を動かすとなると力の消費は大きすぎる。」
若「つまり、正面から大きな攻撃及び別方向からの大きな力でシンクロを乱すという事ですか？」
ハヤト「それです！やってみる価値はあると思います！能力のいい皆さんなら・・・」
アッシュ「可能性はあるって事っスね！やる？」
ポエット「勝てるならやってみる！ポエット、頑張るよ！」
リップ「あたしもやるよ！こういうのはあたしに任せて！」
ハヤト「僕も頑張ります！」

勝利へのチャンスを見出した七人はハヤトの作戦を実行しようとＭＺＤが操るロボット１号に挑む！

ＭＺＤ「何を話していたかは分からないけど、とりあえず倒すぜ！」
ユーリ「残念だが、それはさせない。」
ＭＺＤ「あん？」

ユーリの言葉と共に最初に若が前に出る。ミラクル☆４の最年少は愛用している笛を構えると演奏を始めた。

若「青龍の風！」

若が行なったのは術による竜巻。この竜巻はロボット1号の期待を傾けると同時に瓦礫も一緒に打ち上げる。

ＭＺＤ「最初は若の術でか。俺様を上に打ち上げようなんて無理があるぜ?これは重さが十分あるし・・・」
アッシュ「うおおおおー!」

今度はアッシュが前に出る。Ｄｅｕｉｌ一のパワーとスピードを持つドラマーは右手にパワーを溜める。

アッシュ「フルムーンドロップ!」
ＭＺＤ「なっ!(やべぇー!正面からの攻撃だとシンクロが乱れるー!」

狼の血を覚醒させたアッシュ。普段抑え込まれている力を出しているため、ロボット1号のシンクロを乱すのは十分だった。

ＭＺＤ「正面からの攻撃を一発貰っちまったけど、これくらいは・・・」
リップ「ねぇねぇ、知ってる?若君が最初に技をやった理由をさ?」
ＭＺＤ「俺を持ち上げるためだろ?瓦礫も持ち上げてさらにダメージを・・・」
ユーリ「じゃあ、あれくらいの風なら誰でも持ち上がるだろうな。」

ＭＺＤ「そうだな。人や妖怪や魔女っ子や機械やエルフでも・・・？って、あれ？ユーリとリップの姿が・・・？」

「まさか・・・！」と逃走者の動きに気付いた神は上を見上げる。そこにいたのは若の風によって上空に舞うユーリとピュアクルリップ。ユーリは体に赤いオーラを纏い、ピュアクルリップは１００ｔハンマーを持っている。

ユーリ「ストライクロード！」
リップ「恋のメガトンハンマー！」
ＭＺＤ「わあああああああああああ！」

ドゴォン！

貫禄のあるＤｅｕｉｌのリーダーの体当たりと多彩な技を持つ魔法少女の重い一撃は機体をへこませると同時にシンクロを解除させた！

ＭＺＤ「俺とロボット１号のシンクロが解除された・・・！」
アーク「これで一気に叩きこめば・・・」
ＭＺＤ「（一度シンクロが解けると時間を食うんだよ！）これはまずい・・・！一旦、逃げるぜ！」

シンクロに要す時間を稼ごうとＭＺＤはブースターを稼働させ、ゴーカート場のコースへ逃げだした。

若「逃げられました！」
アッシュ「足の速い俺らでも無理っス！」
リップ「このままだと、回復されちゃうよ！」
ハヤト「諦めるのはまだ早いです！ここはどこだか分かりますよね！」
ユーリ「ゴーカート場・・・？そうか・・・！」

Ｄｅｓ組の生徒の彼の言うとおり、ここはゴーカート場。相手がコース上に逃げたのならば、ここにあるカートを使って追いかければいい。それに気づいた彼らはカートのある車庫へ向かう。

ポエット「車がいっぱいあるー！」
アッシュ「どうやって操作すればいいんスかね？ヒュー君がいれば、楽だけど・・・」
アーク「ここの整備士さんに聞くのが一番でしょう。すみませーん！どなたかいらっしゃいませんかー！」
？？？「誰？俺は整備で忙しいんだけど・・・」
？？？２「お客さんみたいだよ兄さん」
ポエット「え！」

車庫の奥から出て来たのは二人の整備士。その整備士の顔は二人ともそっくりだった。二人の身長と着ているつなぎの色とかぶってい

る帽子の色は赤と緑と違うが、ポエットが驚くのも無理はない。なぜなら・・・

ポエット「マリオシリーズや大乱闘スマッシュブラザースシリーズに出ているマリオとルイージだよ！」
赤の整備士（マリオ）「マリオ？誰ですかその人は？」
緑の整備士（ルイージ）「ルイージって、誰かと勘違いしてませんか？」

そう、車庫でカートの調整をしていたのは任天堂の看板であるマリオとルイージの兄弟だった！どこからどう見ても本人であるが、二人は完全に知らないふりをしていた。

リップ「お願いがあるんだけど、カートを貸してくれない！あたし達、ある人を追いかけているの！」
赤の整備士（マリオ）「いいよ。どんなカートがいいんだ？バイクやダブルダッシュ用のもあるよ。」
ハヤト「ダブルダッシュカートでお願いします！」
緑の整備士（ルイージ）「じゃあ、ウエイトの確認を・・・」

キャラの重さ：ポエット以外は中量級（ポエットは軽量級）

赤の整備士（マリオ）「天使のお嬢ちゃんだけが軽量級だな。おーい、カートを用意してくれー」
緑の整備士（ルイージ）「じゃあ、この中から選んでね。女の子用

のもあるよ！」

七人が選んだのは・・・

ユーリ&アッシュ：レッドファイアー（マリオのカート）
ハヤト&若：ヨッシーターボ（ヨッシーのカート）
ポエット&アーク&リップ：ロイヤルハート（ピーチのカート&途中で交代）

アーク「すみません、降ろしてくださいＯＴＬ」
リップ「えー？ハートやピンクって可愛いのにー？」
ポエット「二人とも頑張ってー！」

こうして、逃走者によるカーチェイスは始まった・・・

ＭＺＤ「シンクロ率は３５％。あんまりねぇな・・・」
アッシュ「待てコラー！」
ＭＺＤ「ん？うおおおおー！ポップン版のダブルダッシュだー！！？」
ユーリ「逃がすか！」

一番最初に追跡をするのはＤｅｕｉｌの操作するレッドファイアー、次に追うのはハヤトと若が操作するヨッシーターボ、その次はアークとリップが操作するロイヤルハート。

ユーリ「逃げるな！レッドショット！」
若「見つけました！平安の言葉！」
アーク「よーく狙って・・・サーチアロー！」
ＭＺＤ「こいつら早いって！ブースト！」

背後からの遠距離攻撃が背中越しに伝わるとＭＺＤは星屑を地面にばら撒きながら加速して距離を稼ぐ。それに負けじと三台のカートも華麗に避け、追跡をする。直線のコースの先には少し急なカーブがあった。

アッシュ「ユーリ、この先はカーブなので捕まって！」
ハヤト「少しスピードを緩めますね・・・」
リップ「アーク君、しっかりしてて！」

ドライバーのテクニックにより、カーブは難なく通過し、ロボット１号にさらに攻撃する。その途中、何人かが交代を始める。

アッシュ「ユーリ、俺も行くから交代を！」
リップ「アーク君、交代して！あたしも攻撃に移る！」

ユーリ&アッシュ、アーク&リップ、ドライバー交代！

ＭＺＤ「なるほど、パートナーが疲れたら交代か・・・。アッシュとリップは攻撃力が高いからヤバいんだよなぁ～・・・。シンクロは・・・お！５０％か！大きい技なら使えるぜ！」

シンクロが半分同調している事の気づくと創造神は機体を回復させ、回復させたばかりの機体を後ろの方へ回す。

アッシュ「みんな、気をつけて！ＭＺＤがシンクロさせたみたいで必殺技を使うっぽいっス！」
ＭＺＤ「遅いぜぇー！ノヴァシュート！」

キィィィ

アッシュ「獣モード！」
若「玄武の守り！」
リップ「ラブリーバリアー！」

アッシュは体を獣状態にする事によって範囲を小さくし、若は術で結界を作り、リップはバリアを作ってレーザーを回避した。これでよかったが・・・

パン！

リップ「今の音は？」
アーク「しまった・・・。小さな星屑のせいでタイヤがパンクしました・・・」
リップ「本当なの！？ちょっと待ってよー！」
アーク「悔しいですけど、スタート地点でピットインしましょう。これ以上動かすとカートにもダメージが・・・」

最初のスタート地点が差しかかった時、ロボット1号、レッドファイアー、ヨッシーターボ、そしてパンクしたロイヤルハートが通過する。神の操る機体を赤いカートと緑のカートが追う中、桃色のカートはタイヤを取り替えるためにピットインをする。

赤の整備士（マリオ）「タイヤのダメージは大きいな・・・」
緑の整備士（ルイージ）「すぐに終わるからちょっと待ってて」

二人の整備士はタイヤを交換するべく、必要な道具と予備のタイヤを用意するとヒューに劣らないほどの手捌きで瞬時に替えたのだ。

ポエット「一瞬で直ったー！すごーい！」
アーク「よかった・・・。これで追いかけられます。」
ポエット「次はポエットが行く番だよ！」
アーク（凄い不安だ・・・；）
ポエット「ポエットは二人から動かし方を聞いたから大丈夫だよ！」

そう言うと、新たなドライバーはアクセルを踏んだ。しかし・・・

ポエット「きゃああ～！車が逆に走ってるよ～！」
アーク「わああー！」

ハヤト「若さん、ありがとうございます！」
若「いえいえ。あのー、腕が疲れてませんか？交代しませんか？」
ハヤト「ごめんなさい；そうしてくださるとありがたいです；」

ハヤト&若、ドライバー交代！

一方、ヨッシーターボを操作する若とハヤトはドライバーを交代し、ロボット1号を追跡していた。だけど、またしても問題が・・・

ハヤト「しかし、こうなると僕は攻撃出来ませんねー；ん？」
若「ハヤトさん、どうしましたか？」
ハヤト「ヨッシーターボに誰かの使い忘れか、トゲゾーこうらがありました。たしか、これはトップのカートを狙うような・・・」
若「そういうアイテムがあるんですね。そうだ！これをＭＺＤにぶつけてくれませんか！」
ハヤト「よろめかせるって事か！若さん、加速して！」
若「はい！」

アッシュ「センセーションショット！」
ＭＺＤ「ちいっ！あとちょっとで１００％なのにアッシュの技でガリガリ減ってる・・・！」

一方、追跡を諦めないレッドファイアーはアッシュのパワーのある攻撃やガードブレイクで減らすも、直線過ぎるのと遠くなるにつれて威力が弱くなるので決定打を与えられない。

アッシュ「シンクロが高くなるにつれ、ダメージが・・・」
ユーリ「まずいな・・・。ん？」

シンクロの同調に危惧する二人の後ろにハヤトがカートから棘がついた甲羅をちらつかせていた。ドライバーの若も何かを合図している。

ユーリ（アッシュ、やれるか？）
アッシュ（もちろんっス！）

意味を悟った妖怪は作戦のためにカートを動かす。それは大きなカーブを描き、まるで迂回しているようだった。

アッシュ「神、あんたのシンクロは阻止させるっス！ソニックブーム！」

伸ばした爪から衝撃波を飛ばす彼は持っている魔力がつきるまで何度も発動する。爪の攻撃はＭＺＤの操作するロボットに何度も当たり、徐々に位置をずらしていく。ある一点の場所にまで動かすと、ハヤトは思いっきりトゲゾーこうらを投げ飛ばした！

ハヤト「当たれぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！」

カン！ガッシャーン！

ＭＺＤ「よし１００％・・・いっでぇー！」

Ｄｅｓ組の学生の彼の一撃はロボットの足に当たると同時に爆発し、相手を転ばせた。それと同時にシンクロもまた解除された。

ＭＺＤ「あのヤロー！飛び道具なんて卑怯だぞ！またシンクロしないと・・・」

再度時間を稼ごうと逃げる彼の前方に何かがこちらに向かって来た。それはポエットの運転のせいで逆走しているロイヤルハート。そのカートに乗るポエットとアークは魔力の込められた矢を構えていた。

ポエット「ジャッジメントアロー！」

アーク「光の矢！」

「あ、これ死ぬ」と呟いた創造神が最後に見たのは白き天使と妖精の王子が止めを刺す場面だった・・・

ＭＺＤ「マジで倒されるとは・・・」
ユーリ「私達を舐めるな愚神が」

ボロボロになった機体を囲むのは七人の逃走者。彼らはミッション３の相手である神に勝利している。

ポエット「これでゴーカート場のは倒したね！」
ハヤト「死ぬかと思ったー；」
アッシュ「後でマリオさんとルイージさんにお礼を言わないと・・・」

早くミッション３が終わる。誰もが思ったその時・・・！

ＭＺＤ「甘いなお前ら。このロボットは何で１号と名前があると思う？」
リップ「何でって？それは２号３号とあるからでしょ？」
ＭＺＤ「その通り！実はこのロボットは・・・」

ＭＺＤ「合体も出来るんだぜ？」

アーク「まさか・・・！他の場所にいるロボットも・・・！」
ＭＺＤ「その通りだ！お前達は俺様の罠にかかったんだよ！」

この後もう一戦があると告げるとＭＺＤはロボット１号を操作し、空へ飛び立った。彼の行く先はゲートの方向・・・

ユーリ「追うぞ！」

それに続き、七人もゲートの方へ向かう。だが、彼らは知らなかった。上空に三つの黒い影が集まっていた事を・・・

ロボット1号戦よ！（ｂｙ鹿ノ子）（後書き）

Ｑ：ハヤトの出番が多くない？
Ａ：この間、Ｄｅｓ組のレアを入手しました（爆

２０１２年、皆さん、よいお年を！

ロボット2号戦だうへころ（ｂｙＤＴＯ）（前書き）

「小ネタ」Ｄｅｓ組で恐ろしい人は？
リュータ「ＤＴＯ。理由は切れた時が恐ろしいから。あの人、一人で不良１００人を叩きのめしたらしい；」
デイヴ「六だ。あの人が戦闘や酒が入ると刀を持って大暴れします；」
Ｄ「ゲレゲレ。あれはひどい」
カジカ「Ｄｅｓ組のみんな優しいよ。僕も全員好きだよ！」
デイヴ「確かにここは個性の塊と言うけど、人の好みはそれぞれだＹＯ。大人は怖いけど、ミサキは優しいぜ！女性ながらにＤｅｓ組を仕切っているしさ！」
Ｄ「その通りだ。俺も変わり者の部類にいるかもな？」

人が多く入るＤｅｓ組。メンバーにとっては好みがあったりするので無理はない。そこを理解しているデイヴとＤは話をする。すると・・・

カジカ「ミサキは優しいもんね！Ｄ－ｃｒｅｗの見本にいいし、ミサキのような人がいれｂ「ミサキが優しいだと！？」
リュータ「誰？って、六とＤＴＯじゃん」
六「ミサキは美人で優しそうに見えるけど、この間の酒の席で大暴れしたんだぞ！いつもながらの事だけど、服を脱ぐのはやめてほしい！」
カジカ「え？え？（天然なので意味が分かっていない」
ＤＴＯ「しかも、キス魔にもなるし！新人との歓迎会で新人がビビってたし、震えたぞ！」

D「あれか・・・;（思い出したくないトラウマ」
六「風呂上がりにパンツ一丁でうろつくのはやめてほしい！メンバーだからと言って、裸で日本酒一気飲みはやめろ！！しかも、あれは俺の酒！」
DTO「この間は路上でライオンの置物と一緒に寝てて泥酔中だった！あの時は彼氏に振られてて・・・」
デイヴ「おい、それ以上は・・・;」
六「いいんだよ！たまには本音を言いたい！新人の前では猫を被りやがって・・・！」
DTO「挨拶で、なーにが「ミサキお姉さんにお任せ」だ！？モデルで可愛く振る舞っているけど・・・」
？？？「誰の話をしてるの？」
六「ミサキの話だ！あいつな・・・（くどくど」
DTO「本当にいい加減にしろ・・・（くどくど」
？？？「悪かったわねいい加減で」
二人「ゑ？」

二人が振り向くと不気味なオーラを放つミサキがいた。彼女は持っている缶ジュースを片手で握りつぶし、笑顔で二人に近づく。

六「あの・・・ミサキ・・・いついた・・・;」
ミサキ「六の「ミサキは美人そうに見えるけど～」からだっけ？」
DTO「ほぼ最初から聞いてたのか・・・;」
ミサキ「そうよ。二人ともちょっと話し合いでもしようじゃない？」
二人「ぎゃあああああああああああ！！」
リュータ「大惨事だー！？」
カジカ「あれ？見えないよー？聞こえないよー？」
デイヴ「カジカ、別室で雷舞とフロウフロウと一緒にお菓子を食べ

るべ」
D「あっちにいた方が無難だな。つーわけでリュータはここの修羅場を解決してくれ」
リュータ「俺！？」

Ｄｅｓ組で一番最強の人はミサキ姉さんです。デイヴとＤが年少部組や一部のキャラの保護者的存在で、リュータは巻き込まれやすい不憫要因（ひでぇ！）
そーいや、Ｄｅｓ組曲で募集曲のキャラが来るはず。

ロボット2号戦だうへころ（ｂｙＤＴＯ）

ニャミ「もうちょっとでゴンドラに着くよ！」

こちらは大型ゴンドラに向かう七人。こちらの方は逃走者が戦闘能力に優れており、どんな相手が来ても対応が可能で大丈夫である。

ナカジ「タロー、足を引っ張るなよ？」
タロー「大丈夫だよ！これくらいは俺にとって大丈夫！」
フィリ「気を抜いたらやられるぞ。気をつけろ・・・」

大きな船がある場所に着くとそこは敵はおらず、それどころか客さえもいない。怪しい点は何もないが、ただ一つ気になるのは・・・

ＫＫ「ゴンドラの入り口、開いているんだが・・・」
ミニッツ「乗れってことかな？」

ゴンドラの入り口が開いているのに気付き、ニャミ、ミニッツ、ナカジ、タロー、ＫＫ、フィリ、ヒューの七人は警戒しながらゴンドラに乗りこむ。ゴンドラに乗りこむとそこは客が座るシートがあると変わりない。怪しいものはないかと一つ一つ調べていたその時、ゴンドラの扉が勝手に閉じた。

ヒュー「罠か・・・！」

プルルルルルル・・・ゴゴゴ・・・

ナカジ「おい！ゴンドラが動き始めたぞ！」
ヒュー「なっ・・・！？」

突然動くゴンドラに一部の逃走者は席や船の一部にしがみついて振り落とされないようにする。船は次第に大きく揺れ、動く風景に頭が混乱する。だが、その動く風景に何かが混じっていた。

ニャミ「ロボット・・・？」
？？？「ビックリした？」
タロー「誰だー！」

何者かの声が響くと、急に動き出したゴンドラは停止する。ゴンドラの船首にいたのは二足歩行のロボット。そのロボットは背中に爆弾と弓を背負っており、戦闘用であるのが分かった。
じゃあ、あのロボットを操ってるのは誰か？コクピットを見ると全員は言葉を失う。

フィリ「あやつはゼルダの伝説シリーズに出てる子供リンクではな

いか！」
ヤンリン「お！フィリも俺の事を知ってたのか！」

ロボットを操っていたのはハイラルを救ってきた勇者リンクの過去の姿である子供リンクだった。小さき勇者の存在に全員は唖然とし、何故いるのかと聞く。

ヤンリン「実はＭＺＤが「巨大ロボットの操作出来る権利とドーナツ食べ放題チケットをあげるから手伝ってちょんまげ♪」と依頼して来たからここに来た！」
ニャミ＆ナカジ＆ＫＫ（あのバ神・・・（怒）
ヤンリン「つーわけだから、俺が操作するロボット2号と戦ってもらうぜ！あと、シンクロしているから、俺の能力が生かされるんだよ！」

前回の話に出ていたロボット1号同様にロボット2号は逃走者に炎の矢を放つ。ヤンリンの弓の腕とアイテムの使い方はリンクに劣らずプロであり、それが逃走者達に牙を向ける！

タロー「危ない！アクアシールドー！」

炎の矢から全員を守るべく、タローは水を操る。水に触れた矢は黒い煙を立ててポトポトと落ちていく。さらにタローは水の球を作り出し、それを友人のナカジに投げる。

ナカジ「バトンパスか。だったら、こいつを受け取れ！」

愛用しているギターを取り出すとナカジは弦を弾き、重力を操って水を圧縮させてロボット2号に飛ばす。友人との連携技に機体はダメージを受けてしまう。

ヤンリン「うわぁ！」
ＫＫ「二人ともナイスだ！スナイプショット！」
ミニッツ「ミニッツのウサウサパンチ！」
フィリ「ワシの風を受けてみよ！カーリングウインド！」
ヒュー「行くぜ！スパナスロー！」
ニャミ「チェンジ！レイアース！紅い稲妻！」

ＫＫはスナイパーライフルで一発射抜き、ミニッツは連続パンチ、フィリは風の刃、ヒューはスパナを投げ、ニャミはレイアースの格好に変えて主人公の必殺技を放つ。

ドゴォン！

ヤンリン「いでででで！いきなりの連続攻撃とは・・・；だったら、爆弾投げー！」

KK「これくらいのは避けられ・・・」
ヤンリン「ゴンドラ、動いちゃえー！」
ニャミ「え？」

ゴゴゴゴゴゴゴ・・・ゴォォォォォォ・・・！

ヒュー「ゴンドラだったの忘れていたー！」
ミニッツ「助けて～～～！」
ナカジ「タロー！捕まってろ！」
タロー「落ちる～！って、爆弾がー！」

ドカーン！ドカーン！ドカーン！

ニャミ「きゃあ！」
KK「けほけほ・・・」

七人のいる場所は最悪な事にゴンドラの上。ヤンリンが操作し始めたので全員が思うように動けない・・・。さらにロボット2号がジャンプしながら移動するので揺れが激しい。

ヒュー「確実に酔うぞこれ・・・;うげ;」
ナカジ「つまり、俺らはこの状態で戦えって事か！」
タロー「だったら、俺の水とナカジの能力で・・・ぎゃー！」
ＫＫ「狙いが定まらないから撃てねぇ！」
ヤンリン「面白いだろー！じゃあ、これでも喰らえー！氷の矢！」

思うように動けない逃走者は持っている技で飛んでくる矢や爆弾を撃ち落としたり、バランスを保つために使う。攻撃用の技は防御や回避に使ってしまうため、魔力や精神、弾薬が徐々に減って行く・・・。しかし、一部の逃走者は違っていた。

ヤンリン「どうだー！俺の手捌きはー！」
フィリ「小僧！馬鹿にするな！ワシが空を飛べる事を忘れるな！」
ニャミ「チェンジ！ドラゴンボール！筋斗雲、来てー！」
ヤンリン「はあっ！？」

そう、フィリは風の精霊であるのとニャミはコスプレで能力を得るため、飛行は可能だ。頭の翼で飛ぶ風の精霊とドラゴンボールのように悟空の格好をした猫の少女はゴンドラから離れ、自由の身になる。

ヤンリン「そんなのありかよ！つか、ニャミは卑怯だろー！」
フィリ「その程度でうろたえるとは情けないの。グリーンウインド！」
ニャミ「空さえ飛んじゃえばいいもんね！かめはめ波ー！」
ヤンリン「まずい！伏せないと・・・あべしっ！」

飛行能力を持つ二人の攻撃にダメージを受けた小さな勇者はハッチに頭を打ち付ける。ここに来た相手が計算外だった事に悔しがるヤンリンは二人を打ち落とそうと矢を射る。しかし、ゴンドラが揺れるのと相手が素早く動くため、狙いがつけられない。

ヤンリン「ちょこまか逃げるなコラー！待てコラー！」
ＫＫ「おーい、俺らの相手もしてくれねぇと困るぜ？」
タロー「こっち向いてねー！アクアショットー！」
ナカジ「・・・グラビティトリガー！」
ミニッツ「攻撃したいけど動けない～～～！」
ヒュー「俺もだー！降ろしてくれー！！」

風の精霊と猫の少女の機転により、ロボット2号の足止めをしつつ、一部は攻撃をする。足場が悪い中でも限られた攻撃で少しずつダメージを与える。しかし、それは最初のうちだけであり、機体を操るヤンリンにタイミングと起動を見抜かれる。

ヤンリン（攻撃が何となく見えてる・・・あれを使ってみるか？）
タロー「おらおらおらおらー！タロースプレッドー！」
ＫＫ「うわっ！危ねぇだろ！こっちの商売道具に影響出たらどうする！」
ナカジ「こいつに何言っても無駄だ。プレスシュート！」

Ｄｅｓ組みのサーファーに文句を飛ばしつつも、ギラギラメガネ団

のリーダーと何でも屋は少しずつダメージを与える。しかし・・・

ヤンリン「甘いぜ！」
ミニッツ「宙返りした！って、揺らさないでー！！」
ヤンリン「てめぇらの特性を見てたら、近距離専門が多いというのが分かった！遠距離持ちでもそれはほぼ直線的だし、発射や発動にまで時間を食う！」
フィリ「！？」

自分達の特性を当てられた逃走者はドキッとなり、少し混乱してしまった。言葉の通りに今いるメンバーを考えると接近戦にしか向いていない者が多い。遠距離技や飛行能力がある者は苦ではないが、それ以外はほぼ戦力外になりシートにしがみつくのみ・・・。

ヤンリン「当たりだろ？じゃあー、行くぜー！！爆弾の嵐ー！！」

ここぞと言わんばかりにロボット2号は爆弾を投げる。狙う相手はゴンドラの逃走者だけではなく、宙を自由に舞う二人にも・・・。

フィリ「何の！これくらいは・・・」
ヤンリン「飛行中の相手にはこれで！」
ニャミ「え・・・？」

フィリとニャミが移動しようとした瞬間、高速で何かが目の前を横

切り二人の動きを止めた。その何かが原因で爆発物が直撃し、二人はダメージを負ってしまう。二人を追い詰めた何かは弧を描きながらヤンリンの元へ戻って来た。

ナカジ「ブーメランを投げたのか・・・！」

ロボット2号の手にあったのはブーメランだった。くの字を模った投てき武器は不規則な動きで自由に飛ぶ相手に狙いをつけ、その結果、二人を一時的に止める事に成功した。

ニャミ「もう一つ武器を持ってたなんて最悪・・・！筋斗雲、来・・・がっ！」

フィリ「これは回復をせぬとまずい！ヒーリングウイ・・・どあっ！」

再び形成を立て直そうとした時、ヤンリンが再びジャンプしたため、船尾が上へ急激に揺れた。揺れの振動でゴンドラが二人に当たり、シートにしがみついていた逃走者が空中へ投げ出される。そして、彼らに光属性が付加した矢が向けられる！

ヤンリン「勇者直伝の光の矢――――――――――！」
ニャミ「いやあああああ！」
ミニッツ「きゃあ――――――――――――！」
ナカジ「がはっ！」
タロー「うわぁ！」
ＫＫ「ぐおっ！」
フィリ「くっ・・・！」

ダメージの大きい光の矢によって射抜かれた逃走者は致命的ダメージを負い、ゴンドラに叩き落された。特にフィリは頭の羽根の片翼に大きなダメージがあるため、飛行がままならない・・・。

タロー「アクアクッション・・・」
ナカジ「わっぷ！水のクッション、ありがとな・・・」
ヤンリン「どうよ！俺の実力！リン兄に負けないほどの強さだろー？（あれ？一人いないような？ま、いっか」
ミニッツ「これ、全然勝ち目がないよぉ・・・」
ＫＫ「甘く見すぎた・・・！」

条件が悪すぎる中での戦いに逃走者はいつしか絶望的になり、勝利

を諦めてしまう。いや、それ以前に相手は高いのプロで、ロボットとシンクロさせているとなると本人と戦っているに変わりはない・・・。

ヤンリン「もう一度、移動するか。そーれ！」

いつものようにジャンプして移動をするロボット2号。だが・・・

アナウンス「緊急事態のため、緊急停止します」

全員「え？」

ベチーン！！

ヤンリン「いってぇー！！」

ナカジ「あいつが着地失敗したぞ！身体能力のいいヤンリンが・・・」

ニャミ「それ以前にゴンドラが止まったよ！どうして！？」
？？？「ようやく間に合ったようだな」

逃走者を困らせたゴンドラの急停止に全員が混乱する中、誰かの声が響いた。声の主はゴンドラ脇にある操作室からで、そこの扉が開いた。現れたのは・・・

ミニッツ「ヒュー！」
ヒュー「遅れてすまない」

そう、ゴンドラを急停止させたのはヒューだった。しかし、何故止められたのだろうか・・・？

～数分前～
ヤンリン「甘いぜ！」
ミニッツ「宙返りした！って、揺らさないでー！！」
ヤンリン「てめぇらの特性を見てたら、近距離専門が多いというの

が分かった！遠距離持ちでもそれはほぼ直線的だし、発射や発動にまで時間を食う！」
フィリ「！？」

全員がゴンドラの揺れとロボット2号の戦闘で混乱している中・・・

ヒュー「これ以上揺らすなって！って、あ〜ー！」

運悪くシートから手を滑らせてしまい、下へ真っ逆さまに落ちていくヒュー。地面に激突しても安全装置が作動するので死なないが、ダメージ蓄積量が大きいため、牢獄行きはあり得る。万事休すかと思われたその時・・・

ヒュー「誰か助けてくれー！」
？？？「じゃあ、助ける」
？？？2「ヒューが困ってるもん」

声がすると同時に黄色と橙色の何かが現れ、ヒューをキャッチした。整備士の叫びに応えた救世主の姿は誰かと見ると、彼は笑顔になった。

ヒュー「トビーズ！」
黄トビーズ「ヒュー、無茶するなよ」
橙トビーズ「ケガはないか？」

彼を助けたのは自分の仕事場や住む場所に現れるトビーズだった。悪戯好きでありながらもいざという時に頼りになる仲間の存在に安堵し、お礼を言う。

黄トビーズ「しかし、お前が頑張りたいのは分かるけど無理すんな」
橙トビーズ「昔のお前もこうだったよな？死んだ彼女の後を追おうと・・・」
ヒュー「・・・」

過去に無茶をしたヒューに叱咤する小さな住民に整備士は黙る。戦力がほぼない自分でも力になりたいと動くも、結果はゴンドラから落とされて助けられる始末。

黄トビーズ「心配するのは分かるが、他にお前が心配する奴もいる」
橙トビーズ「俺らだけでなく、親方やキャロや天国の彼女も・・・」
ヒュー「ごめん・・・」
黄トビーズ「謝るのは後でいい。だけど、それがお前らしい」
橙トビーズ「ヒューはヒューのままで十分。自分なりにしろ」
ヒュー「トビーズ・・・！」

三人だけの世界になっている時、ゴンドラからの悲鳴にヒューの意識は戻された。船の方を見ると仲間が押されているのが見えた。

ヒュー「まずい！あいつらが負けちまう！ゴンドラを止めないと・・

・」

黄トビーズ「だったら、止めちゃえ」

橙トビーズ「俺らも手伝う」

そう、ヒューは揺れのない地上にいるのだ。そのおかげでダメージと揺れの影響は受けず、幸いにも相手はこっちに気付いていない！

ヒュー「トビーズ！俺はゴンドラを止めに行くから、あいつから武器を奪って来い！」

黄トビーズ「了解！悪戯するぞー！」

橙トビーズ「報酬はみかん1箱ー！」

ヒュー「いいぜ！もし、逃げ切ったら、たくさん買ってやるぜ！」

全員を助けるために整備士は操縦室へ駆け込む。ゴンドラの動きを制御する装置はＭＺＤの手によってロックがかけられており、すぐに停止が出来ない。

ヒュー「面倒くさい事しやがって！だけど、普通に止めてもロボット2号が動かすから、あっちから操作されないようにしないと・・・！」

機械弄りの得意な彼は装置のロックを解除する。本来なら遊園地のものを弄るのはご法度であるが、こういう時は別。仕事をする時のようにスパナやレンチを操る彼はシステムを勝手に変える。ある程度のを弄ると最後に・・・

ヒュー「これでゴンドラは停止するぜー！」

強く緊急停止のボタンを叩きつけると相手の独壇場を奪い、整備士はニッと笑う。

ヤンリン「いないと思ったら、そういう事だったのかー！？」

戦いで夢中になりすぎたせいで船から降ろした事に理解した小さな勇者は全員が動き出す前に武器で仕留めようとする。ところが、背中に手をまわすと爆弾と弓とブーメランがない。

ヤンリン「あれ！？武器がない！！？・・・ん？」
トビーズ「持ってけ持ってけー（ロボット2号の武器を持って行く」
ヤンリン「トビーズが持って行ったー！！？」
ヒュー「止めはお前らに任せた！」

その言葉が指示であるかのように残った逃走者は動く！

フィリ「まずは傷を癒すぞ！ヒーリングウインド！」

風の精霊は逃走者の傷と疲れを風で癒し、全員に活気と戦力を蘇らせる。彼は回復を行うと後ろに下がって他の逃走者に譲る。

ナカジ「タロー！あの技を行うぞ！」
タロー「いつでもいいよ！はぁー・・・！」

ナカジとタローは自分の持っている能力を開放し、組んだ両手を前に出す！

ナカジ&タロー「フレンドドライブ！」

二人の手から水と重力が混ざった水流が大きなエネルギーとなって一つの技となった。ギラギラメガネ団リーダーとＤｅｓ組のサーファーの友情が織りなす連携技はロボット2号の機体に大きなダメージを与える！

ヤンリン「まずい！損傷部分が・・・！ここは逃げないと・・・！」

KK「小僧、逃げるな。大人を怒らせるとどうなるか分かってんのか？」

深手を負った機体の前に現れたのはKK。彼は無数の銃を出すと、そのうちの一つを取って発砲する。

KK「ツケは取っておけ」
ヤンリン「！？」

裏の顔を持つ暗殺者はハンドガン、ショットガン、スナイパーライフル、マグナムなどの銃を一回ずつロボット2号に向けてヒットさせる度に次の銃、また次の銃と地面に落とさずに狙う。

ヤンリン「いい加減に終わらせてくれよ！マジでありえねぇし！」
ニャミ「だったら、終わらせてあげるよ！」
ミニッツ「やっとミニッツの出番だ！暴れちゃうね！」

空中に留まるヤンリンの目に映ったのはグレンラガンの格好をしているニャミとムスッとしたミニッツが向かって来た。彼女達は手にドリルを持ち、格闘の構えをしている。

ニャミ「お前のドリルで天を衝けぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！」
ミニッツ「ミニッツのオトメルンバパーンチ！」
ヤンリン「うわあああああああああああああああ！！！！」

猫の少女とアイドルの妹の攻撃が機体にヒットすると、ロボット2号は派手に吹き飛ばされ、地面に叩き付けられた。相手が飛ばされた場所は巨大なクレーターが出来ており、これを見たタロー以外の逃走者はポカーン（。Д。）となった。

タロー「ニャミちゃんとミニッツちゃん、カッコいいねー！すげー！！」
四人「タイマーがヘタレと言われる理由が何となく分かった・・・」

ヤンリン「お前ら本当に強いよなー！その実力なら、スマブラに出れるって！」
ニャミ「ヤンリンも凄かったよ！それならハイラルやタルミナも救えるよ！」
フィリ「お主の分身に風使いがいたよな？今度、そいつに会ってみたいいんじゃ」

戦いを終えた後、ヤンリンは勝負に負けたがポッパーとの戦いが出来た事に満足していた。少年の笑みを浮かべる彼は純粋にロボット2号を操る子供だが、手に勇気のトライフォースを宿らせる勇者である事は変わりない。

タロー「ヤンリンも八歳の時に冒険してるって凄いよなー！俺もそうなりたーい」
ナカジ「お前のような奴が勇者になれるのか？しかし、神の悪ふざけもいい加減にしろよな・・・」
ヒュー「ナカジ、それ言っちゃダメだと思う；しかし、これでミッション3は終わるだろうな。みんなが頑張れば・・・」

誰もがミッション3が終了する事を願う中、ヤンリンが衝撃の事実を告げる。

ヤンリン「あんたらに言うけど、戦いはまだ終わってねぇよ。」
ミニッツ「何で？」
ヤンリン「実を言うとな、他の所にいるロボットは2号と同じ機種なんだ。しかも、合体して巨大ロボットに変化するぞー？」
ナカジ「ふーん。って、まだバトルがあるのかよ！？ふざけんな！」
ヤンリン「次の一戦でバトルは終わりで、同時にお前らの命も終わりだ！ゲートで待ってるぜー！」
ＫＫ「あ！おい！」

ＫＫの声も空しく、ロボット2号はゲートの方へ飛んで行った。同時に他の二つの影が同じ場所に集まっていた・・・

ロボット2号戦だうへころ（ｂｙＤＴＯ）（後書き）

「おまけ」
ニャミ「太陽にほえろの衣装で戦ってみようかｎ」
ミミ「縁起悪いからやめてニャミちゃん；」

ロボット3号戦だぞ！（ｂｙハジメ）（前書き）

今回の逃走中、ノブコブが・・・;自首のアレと饅頭はうけた。ミッツさん、逃走成功おめでとうございます！
次回の逃走中は終わりになるの・・・?うわー！やめてくれー！！

今回の話の後書きにクイズがあります

ロボット3号戦だぞ！（ｂｙハジメ）

ミラーハウスに向かうのはスマイル、さなえ、六、ジャック、モニモニ、エージェント、アリシアの七人。こちらの方は遠距離近距離のバランスが優れており、どんな相手が来ても大丈夫である。

六「ミラーハウスは鏡の仕掛けが多いから、ぶつからないようにねー。」
エージェント「場所が場所だし、酷い目に合わないようにしねぇと・・・」
さなえ「ええ・・・」

七人がついた場所はミラーハウス。入口から入ると無数の鏡やガラスがあり、天井や床も綺麗に磨かれた鏡で出来ており、中央には床下から照らされるライトがある。合わせ鏡により、無数にいる逃走者は面白く見えるが、今は楽しんでいる暇ではない。

モニモニ「この場所に敵がいるのかな？」
ジャック「目の錯覚で気味が悪いな・・・。」
アリシア（アリスにも鏡の国ってあったよね）

一歩一歩進む彼らがある程度進んだ瞬間、どこからか音がした。全員が音の方を振り向くとそこには・・・

ウサギ「痛い・・・；（ガラスに頭をぶつける」
アリシア以外の逃走者「お前かい」
アリシア「ウサギ、ふざけないで（睨」
ウサギ「ごめん・・・；（アリシアに殴られる」

アリシアのぬいぐるみのウサギのミスは許されるもの。すると、またしても音がした。全員が音の方を振り向くとそこには・・・

エージェント「いっでぇー！（同じく頭をぶつける」
19キャラ以外の逃走者「またこのパターンかよ!?」
アリシア「エージェント、前を進む時は床を見て。ガラスと鏡の配置が分かるよ」
エージェント「アリシア、サンキュー！」
ウサギ（アリシア、僕にもそう優しくしてよ；）
アリシア「ウサギ、何て言った?綿、引きちぎるよ?」

鏡のせいで怪我する中、三度目の音がした。その音は誰かがガラスにぶつかる音。全員が思う事は「いい加減にしてほしい」。それしかない。

スマイル「もう、ミラーハウスで鏡やガラスにぶつからないデヨ；手探りで歩けばいいし、床を見れば・・・」

？？？「こんにちは」
スマイル「！？」

スマイルがぶつからないように歩いていると、彼の前に何かが現れた。それは一瞬で消えてしまうも、再び姿を現す。そこにいたのは球体に手足が着いたロボット。ロボットの手には炎や雷が出現しており、それを自由に浮かす。コクピットは丸見えであり、操縦者が分かる。乗っているのは・・・

アリシア「あの子、ＭＯＴＨＥＲシリーズや大乱闘スマッシュブラザーズに出ているネスでしょ？」
ネス「流石、アリシア！よく分かったね！」

ロボットに乗っていたのは超能力を自由に操り、幾度も地球を救った超能力少年のネスだった。赤い野球帽が似合う少年が何故こんな所にいるのか？それは・・・

ネス「実はＭＺＤが「ポップンで乱闘が出来て、その後におやつが食べ放題」と言って来たから♪」
スマイル＆六「あのクソ神、何やらかしてんだよ！！」
ネス「ちなみにゴンドラにヤンリンがいるよ。僕と同じロボットを操作中ー」
モニモニ「そーなの！？って、みんなはロボットと戦ってるの！」
ネス「正解！じゃあ、僕が操作するロボット３号と相手だよ！」

軽い自己紹介をすると、ネスは今までに出たロボット1号・ロボット2号同様にシンクロをするロボットを操作し、戦いを挑み始めた！

スマイル「みんな来るヨ！カンテラフレア！」
モニモニ「分かっている！お薬飲んでへーんしん！」

敵が動き出した瞬間、スマイルは炎の魔法を放ち、モニモニは薬を飲んでセクシーな蝶の美女に変身してカプセルを飛ばす。二人の先手必勝の攻撃は出はよかったものの・・・

ネス「残念！これは偽物だよ！」
さなえ「鏡のネス君に攻撃したのね・・・！だったら、全体攻撃で！リリアンリボン！」
エージェント「どれが本物だよ・・・！あれか！？エージェントガン！」

鏡に映る無数のロボット3号に攻撃を当てようとさなえはリボンを飛ばし、エージェントは銃を発砲する。全体を狙っての攻撃はロボット3号にかすりもせず、鏡やガラスを傷つけるのみ。

ネス「無闇やたらに攻撃しない方がいいよ！ＰＫファイアー！」

ロボット3号から放たれるのは赤い炎。その炎は鏡に偽物と紛れて逃走者に襲いかかる。

アリシア「来たわ！ウサギガード！」
ウサギ「あぢいいいいいい！」
六（この少女、むごっ！）

アリシアはいつも抱えているウサギで技をガードすると目の前のロボットを頭のリボンで攻撃する。しかし、それは空振りに終わる。

ジャック「鏡で騙されるな！本物は一つしかない！サーモグローブ！」

本物狙いがいいとジャックは手に付いているグローブを飛ばす。ブースターがついたグローブは相手の熱を察知して追尾する機能があり、ロボットやネスの熱で本物を見抜こうと手を打って来たのだろう。その暗殺で培ってきた知識と行動力に六は感心する。

ネス「（やばい！僕の作戦が見抜かれる！）しつこいね！そんな事をしても無駄だよ！ＰＫサンダー！」
六「本物が分かれば、一撃は狙える。任せろ・・・」

一定間隔に落ちてくる雷をかわしながら、グローブに狙われている機体のみを狙う。鏡やガラスがある位置を見抜くと、六は前に踏み

こみ居合の構えをする・・・！

ネス「動き回らないでよ！狙いがつけられないじゃん！どこにいるんだよ！」
六「ここだ」

次の技を使おうとするネスの前にいつの間にか青き侍が刀を構えていた。音楽好きのリーダーから真剣勝負を好む侍になった彼は真剣な眼差しでコクピットにいる超能力者に狙いをつける。

六「月下流剣術・・・三日月の憂い！」

瞬時に刀を抜くと、機体に一撃与える。刹那的の一撃と華麗な剣術は誰も目に捉える事が出来ず、味方も言葉を失う。刀の一振りだけの一撃だが、ロボット3号に与えたダメージは大きいに違いない。

ジャック「六、カッコいいぜ！流石はＤｅｓ組のリーダー！」
さなえ「六さんの剣術って、何度見ても凄いわ」
エージェント「ここに本物の侍がいるぜ・・・」
六「おいおい、大げさすぎるって。俺は普通にやっただけだってーの。これくらいは朝飯前だ。」

ただ一撃を与えただけと述べると六は刀を鞘に納める。カチンと刀と鞘が合わさると本来の形へと戻って行く。

六「手応えはあったけど、動きに注意すれば勝てるはずだ――――ザシュ」

モニモニ「え・・・？」

全員が驚くのは無理もない。ロボット3号にダメージを与えた六が逆にダメージを受けていたのだ。彼の腹に出来た傷口から赤い血が溢れ出し、白い着流しを赤黒く染める。どうして彼がダメージを受けたのノか・・・？

スマイル「ネスの技で技を弾き返すＰＳＩがあったの忘れていた・・・。まさか、シールドβが事前に張られてたナンテネ・・・！」

ネス「よく分かってるんじゃん。このシールドβはダメージを半減すつと同時にダメージを弾き返すんだよね。さっきの一撃も攻撃力が高ければ高いほど、反撃時には大きなダメージが大きくなる。あの侍さんも今は・・・」

物理系反撃のＰＳＩでカウンターしたネスはダメージを気にせず、

攻撃に転ずる。超能力でジャックのグローブを弾くと、次に目晦ましの光を放つ。その光は鏡によって反射し、全員が光を浴びる。

スマイル「ＰＫフラッシュ・・・！光を見ちゃダメ！」
六「え・・・？うぐっ！」
エージェント「頭がぐるぐるするー・・・」
さなえ「涙のせいで視界が・・・」

魔法に耐性のない一部の逃走者はＰＫフラッシュによって混乱を起こしたり、涙のせいで視界がかすんで見えてしまう。状態異常を引き起こしてしまった仲間を救うべく、モニモニとアリシアは動く。
その間にスマイルとジャックは攻撃に転じる。

スマイル「回復はあっちに任せて、ロボット3号に挑むヨ！ネスの超能力は補助系がメインだから気をつけて！ジャック君は物理技を使う時はシールドに注意して！僕は魔法メインで行くから！」
ジャック「分かった！ゲーマーのお前がいてくれて助かったぜ・・・！」

青き透明人間の指示に異世界の暗殺者は動く。戦闘能力の高い二人は一部のＰＳＩに用心しつつ、攻撃に転じる。スマイルは鎌を取り出し、ジャックはナイフを構えて移動する。その間、モニモニとアリシアは状態異常を食らった仲間の元に到達する。

モニモニ「二人とも薬を使って！」

アリシア「エージェント、目を覚まして（リボンでビンタ」
六「すまねぇ・・・（ゴクン）。よしっ！」
さなえ「目が見えたわ・・・！」
エージェント「いでぇ！俺は一体、何していた・・・？」

不思議な少女と魔女っ子の力で正気に戻った青き侍とスパイと裁縫が好きな少女は武器を取って前に出る。鏡とガラスによって振り回される逃走者は本物を見つけ出し、攻撃をしないといけない。

エージェント「スパイコール！」
ジャック「フレイムパンチ！」
ネス「どこ狙ってるの？ＰＫスタースストーム！」
アリシア「ウサギガード！」
ウサギ「ぐえー！！」
さなえ「ファッションニードル！」
六「月下流剣術・・・新月の一寸！」
スマイル「ラスネールカッター！」
ネス「しつこいなぁ・・・ＰＫファイアー！」

逃走者やロボット3号が戦う中、両者は持っている技や魔法を駆使して戦う。鏡に惑わされる中、ダメージを与えようと手当たり次第に技を出し、多くの必殺技を発動する。しかし、逃走者の技は当たらず、それどころかロボット3号の攻撃が当たる。

スマイル（何かおかしい・・・ここは僕の能力で様子を見て・・・）

何か仕掛けがあると用心するスマイルは持っている透明化の能力で姿を消す。混戦によって誰も気づかないとスマイルは思い、鏡やガラスに仕掛けはないかと調べに行く。鏡が起こす仕掛けは多くあり、自分や仲間、敵を無数に映し出すトリックもある。

スマイル（ガラスは普通のガラス。鏡は・・・うん、普通。天井や床は凹型で窪んでいる・・・）

一つ一つの仕掛けを解こうとスマイルは動く。ロボット3号に用心しながら動く透明人間は中央のランプがある方へ向かう。

ネス「（あれ？一人がいない・・・？まさか！？）君達が何を考えているか分からないけど、こっちも本気出すよ！」

何か危機感を察したネスはスマイルのいる方向に向き、手を前に出す。その急な構えに彼はぎょっとする。そして、超能力者の少年は機体に自分の力をシンクロさせる。

ネス「ＰＫキアイΩ！」
スマイル「しまっ・・・うわあああああ！」
六「うおおおおおお！」

さなえ「クッションガード！ううっ・・・」
アリシア「危ない！えーい！（ウサギを盾に」
ウサギ「・・・（気絶」
ジャック「体が砕ける・・・！」
モニモニ「カプセルガード！（強すぎる・・・」
エージェント「エージェントリフレクター！（耐えれるか・・・！」

ネスの得意なＰＳＩは逃走者全員に容赦なく向けられた。攻撃威力が最大のΩとなると、防御技を持つ逃走者でも耐えるのが難しく、精神力の高い者でも大きなダメージを受けてしまう・・・。その証拠に多くの鏡やガラスが割れている・・・。

ネス「やっぱ、一人いたんだ・・・」
六「スマイル大丈夫か！」
スマイル「平気・・・！直で喰らうと僕でも無理が・・・」

衝撃で透明化が解除された透明人間の存在を見つけると、ネスは移動し超能力を発動する。遅い来る技に逃げ出すも、攻撃は直撃してしまう。

ウサギ「アリシア、このままだと・・・」
アリシア「分かっているわ！私の身を守るあんたがいなくなるわ！武器に使いたいのに！」

ウサギ「ＯＴＬ」

さなえ「あそこまで強いと勝ち目は・・・」
モニモニ「諦めちゃダメだよ！もう少し粘ってみようよ！」

エージェント「あいつ、俺らがどこにいても狙っている！どうして攻撃が当たらないんだ！」
ネス「超能力者で君達の行動はお見通しだよ。どこに移動しようと、どこに技を出しても同じさ！（危ない・・・。バレるところだった・・・；」

何かを心配する彼は超能力を発動し、近くにいる逃走者を狙う。その行動は逃走者を排除するのみの行動であるが、同時に何かを隠しているように見える。

ネス（あの仕掛けがバレてなければ勝てる・・・！）

六「あいつ、強すぎるだろ・・・」
スマイル「うん・・・だけど、何か秘密があるはずダヨ・・・！僕達に隠している秘密を・・・」
六「確かにな・・・。そういや、さっき俺が攻撃した時は手応えが

あったんだけど、それ以前や以降は何も手応えがなかった・・・。」
スマイル「どういう事？」
六「なんつーか、幻に手を伸ばしている感じだった。透き通ってしまう・・・」

スマイルは六の行動と自分の行動、今までの経緯（いきさつ）を考える。
どうしてロボット3号の攻撃は自分達に当たるのか？どうして自分達の攻撃は外れるのか？どうして先ほどはダメージを与えられたのか？どうして自分達のいる位置が分かるのか？
いくつかは疑問はあるものの、どうしてもいくつかは引っ掛かる。
まるで自分の動きを監視しているような感じがし、それに合わせて行動をしている気がする・・・。鏡に映っている相手は偽物だが、攻撃は本物・・・。映されている者は本物・・・？

鏡は合わさる事により、偽物を映しだして像を作り上げる。その像は本物そっくりの立体を作り上げる。

その瞬間、スマイルの脳に雷が撃たれたような衝撃が走った。自分

を映す鏡の存在に悩まされていたが、その鏡は相手を助ける力になっている。正面から見れば、姿をそのまま本物そっくりに映すが、角度を変えれば、別のものとなり違うのである。

スマイル「分かったヨ六」
六「どうしたスマイル？」
スマイル「ロボット3号を倒す方法が分かったヨ！みんな、騙されていたンダ！」
六「スマイル、それは本当か！？ロボット3号の倒し方が分かったのか！！」
スマイル「それはー・・・」

ロボット3号の攻略方法が分かった彼は六の問いかけに答える。それに応じるために指をある方向に指す。

スマイル「みんな！あの中央にあるライトに目掛けて攻撃して！」
全員「はあっ！？」

何と、青き透明人間はロボット3号でなく、中央の床下にあるライト付近を攻撃しろというのだ。これには逃走者も驚き、声を上げる。

だが、この発言には何か意味があると察し、全員は少ししてから頷く。

モニモニ「スマイルなら何か考えていると思うから、やってみようよ！」

ネス「（まさか！気付かれた！！）こっちに来ると痛い目に遭うけどいいの？ＰＫキアイβ！」

モニモニ「攻略方法が分かれば、ダメージなんて大丈夫！」

超能力のダメージを受けても怯まないモニモニは羽ばたくと、手に持っているカプセルを割って、ライトに向けて魔法を発動する。

モニモニ「行っくよー！モニモニバタフライシャワー！」

蝶の魔法少女の手から放たれる虹色の蝶はライト周辺に目掛けて飛んで行く。続いて、攻撃に移せなかったさなえは針を構えて加勢する。

さなえ「覚悟はいい？キュートメロウショット！」

服作りが好きな少女が針を上に掲げ、ライトの方に向けると周囲に巨大なマチ針が召喚されて一直線に飛ぶ。次にエージェントとアリシアが攻撃に転じ、攻撃の構えを取る。

エージェント「スパイ秘密道具！一撃バズーカ！」
アリシア「ウサギハンマー！くたばれー！」
ウサギ（結局はこうなるんだ・・・；）

仲良く秘密兵器のバズーカと抱きしめているウサギで攻撃するのは銃の扱いになれる諜報員とおしゃまなアリスの少女。今度はジャックも攻撃に加勢する。

ジャック「ジャックイフリート！」

両手のグローブにさらに炎を纏わせると、異世界の暗殺者はスマイルに言われた場所を何度も殴る。大暴れするメンバーにリーダーの六も刀を抜く。

六「月下流剣術・・・満月の覚醒！」

目に見えぬ速さで刀を連続で振り回すＤｅｓ組のリーダーは周囲の鏡やガラスもろとも切り刻む。最後に指示を出したスマイルが鎌を構え・・・

スマイル「遊びはおしまい！ゴーストインビジブルムーン！」

最後にＤｅｕｉｌのベーシストが鎌を大きく振り回す。逃走者七人の攻撃は相手に反撃の隙を与えないほどの連続で発動され、力の手加減はない。多くいる逃走者の攻撃に床は耐えられなくなり・・・

ガシャーン――――――――――

ライトがある中央の床が壊れた。粉々に砕かれた鏡や床は重力に従って、人工的に出来た穴の中へ落ちて行く・・・。穴の中は自分達がいる場所と同様にある鏡張りの空間があった。その空間の中央に・・・

ネス「見つかっちゃった・・・」

スマイル「ビンゴ！」
さなえ「ここに本物がいたの！？」
モニモニ「じゃあ、上にいたのは全部偽物・・・」
エージェント「スマイル、これは・・・」
スマイル「これはね・・・」

ネスが考えた作戦は鏡張りのミラーハウスを使っての戦いだった。普通に騙して戦うと勝ち目がないと判断した彼は鏡をさらに使った作戦を考えたのだ。それは床下に鏡張りの空間を作り出し、鏡の反射で作りだした倒立映像をさらに鏡に映すというのだった。これにより、ネスは床下から様子を見ながら攻撃し、ダメージを受けないで攻撃が出来た。

ジャック「じゃあ、さっき攻撃出来たのは・・・」
アリシア「場所を特定されないために床から出た」
さなえ「しかも、シールド付きで・・・」

スマイルの考えに一致する部分が多くあり、全員は納得した。まさか、鏡で鏡の偽物を作り出すとは・・・。この作戦を考えだした本人は穴の中におり、彼は苦い顔をする。

ネス「シールドを使ったけど、ここまでのダメージは大きすぎる・・・ライフアップγ！」

防御技でダメージを抑えるも、鏡やガラス、逃走者の攻撃には耐えきれず、超能力者自身にもダメージを受けていた。ＰＳＩを多く持つ彼も、攻撃や防御に使いすぎたため、回復程度しかない。

ネス「これ以上戦うと僕が負けるのは目に見えてるし、最後は外で戦わない？外でなら僕も本気出せるし、それに合体も出来るし！」
スマイル「合体？まさか、他の所にいるロボットと合体して、巨大ロボになるノ！？」
ネス「うん♪スマイルの好きな巨大ロボットが見れるよ？」

「ゲートに来てね！テレポート！」と最後に笑顔で言うと、機体は瞬時に消えた。ネスを倒すまでに追い詰めるものの、別の戦いがあると分かると、七人はミラーハウスから出る。無数に割れたガラスに映し出されたのはミッション３のクリアの可能性に希望を見出す逃走者。
誰もいなくなった鏡の家にあった己の姿を映す板は何を映すのだろうか？希望？絶望？成功？失敗？可能性？奇跡？答えは多くあるものの、それを知るのは自分自身である。外見は綺麗でも、中身は・・

・？

ゲートへ向かう逃走者は知らず、ミラーハウスの外にあった鏡は知っていた。ゲートの上空に黒い影が三つあった事を・・・

ロボット3号戦だぞ！（ｂｙハジメ）（後書き）

みなさんにクイズを行ないます。残っている逃走者で誰が裏切り者なのか当ててください。

「現在残っている逃走者（２１人」

ニャミ、ミニッツ、ユーリ、アッシュ、スマイル、さなえ、ポエット、六、ナカジ、タロー、ＫＫ、ジャック、ハヤト、若、フィリ、モニモニ、エージェント、アリシア、ヒュー、アーク、ピュアクルリップ

次の次に裏切り者の正体が出ますので、それまでに感想やメッセージで答えを。正解者にはちょっといい特典があります。

裏切り者はある程度絞れますので分かると思います。では。

合体と決着（ｂｙナカジ）（前書き）

「小ネタ」ガキ使おもしろかった
ユーリ「アッシュ、ただいま。城の留守を任せてすまな・・・」
（▽εДε▽）ユーリ、生きとったんかワレー！
スマイル「笑ってはいけないのネタだね」

引き出しネタは大好きですｗｗｗそれと、今回の話は長めですー

合体と決着（ｂｙナカジ）

逃走者がゲートの方に行くと最初同様に全員がいた。少しは疲労しているものの、２１人全員いれば勝てるはず。そう思い、自分達が入ったポップンランドのゲートへ行く・・・。すると、携帯にメールが届いた。

モニモニ「メール？」
ハヤト「えっと・・・『次の戦いは広範囲に及ぶので、ゲートの外に出る事を許可する。』」
若「まあ、合体がするとそうなりますもんね。なにしろ、あの三人が相手ですからね・・・」
スマイル「あのロボット達が合体するとどんな姿になるのカナー？楽しみ！ヒッヒッヒ・・・」

ロボット好きのスマイルは合体後の姿を想像させながらゲートを通る。大人気のギャンブラーＺかライバルのワルドックなら面白い展開になるので戦いにやる気が出る。そう思っていると、自分達が戦ったロボットが待機しており、前に操縦士のＭＺＤとネスとヤンリンが仁王立ちしていた。

アッシュ「最後は全員が相手っスね！俺らが相手する！」
ミニッツ「ミニッツもまだまだ戦えるよー！」
ユーリ「とりあえず、切り札の合体ロボットを出せ」
ＭＺＤ「そう言うなって。今すぐにでも合体してやるよ？」
ネス「でも、その姿を見た者は僕達と戦った事を後悔する・・・」

ヤンリン「その犠牲者にお前らも入っているからな！」

三人は操作していたロボットに乗り込むと操作し、空中に飛ぶ。すると、各々のロボット達のパーツが少しずつ変形し、合体を始める。

ＭＺＤ「三機のロボットは単体だけでも強い・・・」
ネス「しかし、合体をするとさらに能力が上がる・・・」
ヤンリン「お前らは合体した姿を見る事になる・・・」

空中でのロボット1号、ロボット2号、ロボット3号の合体は逃走者だけでなく、牢獄にいる者や遊園地に遊びに来ていたゲストの目にも映る。

リュータ「すっげー事になってるなー。これ、サイバーやヨシオがいたら喜ぶだろうな。」
ミミ「ニャミちゃんとミニッツちゃん、勝てるかな？」
ミシェル「でも、ロボットと聞くと何か嫌な予感がするんですけど・・・。」
ツースト「まさか、あれは来ないよな・・・？」

つぼみ「見てください！空にロボットが！」
えりか「うおおー！巨大ロボットとポッパーの対決が始まるじぇ！？」
いつき「リップさん、モニモニさん、頑張って！」
ゆり「あの子達が戦っているの見るとデザトリアンの戦いを思い出

すわね」
サムス「ネスとヤンリンもまた悪戯するのね；リンクが知ったら泣いちゃうわ・・・」
スバル「ギャンブラーZ！ギャンブラーZ！」
ティアナ「スバル、落ち着いて！恥ずかしいわよ！」
キャロ「今日の遊園地はいろいろとイベントが多いみたいですね。」
エリオ「うん。ポッパーに出会えたし、帰ったらみんなに話そう！」
アルル「シェゾ、あれって凄いね・・・；」
シェゾ「ああ；つか、神ってやり放題だな；」

全員が各々の感想を言う中、ロボット達の合体は終わった。そして、ついにその姿を現す！

三人「これがロボットの新の姿・・・」

ＭＺＤ&ネス&ヤンリン「フィーバーロボ参☆上！」

ＢＧＭ：踊るフィーバーロボ

ニャミ（。Д。；）
ミニッツ（・×・；）
ユーリ（。Д。；）
アッシュ（▽εωε▽；）
スマイル（。Д。＃）
さなえ（・ω・；）
ポエット（・ω・）？
六（。Д。；）
ナカジ（。Д。；）
タロー（。Д。＊）
ＫＫ（。Д。；）
ジャック（・ω・；）
ハヤト（。Д。；）
若（・ω・；）
フィリ（・ω・；）
モニモニ（・ω・；）
ヒュー（。Д。；）
エージェント（。Д。；）
アリシア（・ω・）ださっ
アーク（。Д。；）
リップ（・ω・；）

合体して出たのはまさかのフィーバーロボ。先ほどの１号と２号と３号との戦いは何だったのだろうか・・・？
普段はしっかりしている人やノリのいい人でも言葉が出ない・・・。
流石、放送してから間もない内に打ち切りになった伝説のアニメ「フィーバー戦士・ポップン１４」のダサいロボット。大半の人達がダサいロボットの登場にボー然としてます・・・；もちろん牢獄やゲストも・・・

牢獄&ゲスト「これはひどい」

つぼみ「ださいです・・・;」
サムス「ちょっとこれはないわ・・・」
キャロ「ギャンブラーZじゃないんですね・・・;」
アルル「遊園地に似合わないし・・・;」

ニャミ「ロボットと聞いた時、まさかと思ったら・・・;」
六「作者と神、やると思ったよ;またダサいロボットを見るとは・・・;」
スマイル「ロボットを舐めるナー!!ギャンブラーZやワルドックを期待していた僕やファンや読者に謝れー!!(大激怒」
ジャック「うおっ!スマイルがマジギレした!!」
ポエット「今度はカラフルなロボットだねー」
タロー「カッコいいー!」
ナカジ「どこがだよ!アフロヘアーのロボットなんかいるか!」

外では多くの人がボー然とする中、フィーバーロボの中にいる三人は・・・

ネス「何でギャンブラーZじゃないの!?(大激怒」
ヤンリン「スマイルが呆れる理由が十分分かる!(大激怒」

ＭＺＤ「うるせぇよ！ロボット１号達の方の機能を重視したから、予算が足りなくなったんだぞ！あれこれ言って来たのはお前らだろ！でもな、これは操作や攻撃のバリエーションも豊富だぜ！」
ネス「マジで！？」
ヤンリン「どんな攻撃があるんだ！」
ＭＺＤ「手始めに・・・アフロフィーバーミサイル！」

ダサいロボットに文句言うお子様二人をなだめ、神は手元にあるボタンを押す。すると、右手のポップ君部分からミサイルが三発発射され、遊園地に向けられた。ミサイルが着弾すると爆風が広がる。

若「ちょっと、ＭＺＤさん！遊園地にお客さんがいるんですよ！！」
ＫＫ「牢獄や遊びに来た他の奴らが怪我したらどうするんだよ！？」
ＭＺＤ「心配すんな！このアフロフィーバーミサイルは・・・」

ＭＺＤ「喰らった相手の頭を３０分間アフロヘアーにする」

アーク「え・・・？」
リップ「まさか・・・」

嫌な予感がした逃走者は遊園地の方を振り向く。すると・・・

ゆり「これ、何かしら・・・？えっと・・・・；（混乱中」
えりか「あぎゃー！えりか様のラブリーヘアースタイルがー！？」
ティアナ「回避出来たけど、みんな大丈夫！？って、エリオ、その頭は・・・；」
エリオ「ねぇ、僕が何をしたの・・・？（鏡を見てボー然」
ＤＴＯ「・・・笑いたいなら笑え（明後日の方向を見る」
ツースト（。Д。）頭ボーン（壊）
リュータ「俺、泣いてもいい・・・？（不憫要因」

一部の客だけじゃなく、牢獄や遊びに来ていたゲストがアフロヘアーになっていた・・・。ダメージがないと分かっていても、３０分間は精神的に苦しむ・・・。これは新手の嫌がらせだろうか・・・；これを見ていた２１人は思った。「絶対に喰らいたくはない」と。

ネス「すっげー！これさ！もっと弄ってもいい！？」
ヤンリン「ネス、この目からビームや尻からファイヤーというのもどうだ！？」
ＭＺＤ「次はさ、アフロパッカーンはどうだ？これは・・・」

星と命を生み出す創造神と地球を救った心優しき超能力者と勇気のトライフォースを持つ小さな勇者がフィーバーロボに付けられてい

る機能に目を付け、コクピットにあるボタンやレバーを好き放題に操作する。その度に目から破壊光線を出したり、お尻から火炎放射を出したり、頭部のアフロから白いハトが出たりと何が何だか分からない状態に・・・。

アリシア「これは酷い」
ハヤト「正直言うと、これは何・・・;」
ジャック「俺も聞きたい;絶対、ツイッターで「ポップンランドに奇怪ロボット現る!」と話題が持ち切りに・・・;」
さなえ「これは逃走中だよね?私、戦っているのか逃げてるのか分からない・・・;」

このカオスすぎる光景に全員はどうコメントしていいか分からなかった。だけど、悲しい事にこの巨大ロボを倒さないとミッション3は終わらず、逃走中が出来ない・・・;やる気は一気に下がったけど、戦わないと・・・。

タロー「フィーバーロボットをどうやって倒す?近づけないよー;」
ナカジ「見た目はあれだけど、あの状態から合体すると蓄積量は残っているはず。だが、ダメージ受けた状態でエネルギーを必要とする攻撃や機体の操作は難しい・・・!」
スマイル「確かニ。三人が操作してたロボットにあんな機能はないネ。合体前はただのシンクロロボット・・・。合体前のエネルギーでは足りなさすぎる・・・。ユーリ!ポエットちゃん!」
ユーリ「別の方法でエネルギーを確保しているという事か?ちょっと調べてみる・・・」
ポエット「行ってくるー!」

相手はピンチであるのは誰が見ても分かっていた。ダメージがある状態で合体や攻撃は厳しいはず。しかし、相手はそれをものともせずに行なっている。怪しいと察したナカジはユーリとポエットとフィリとジャックとモニモニとエージェントの飛行能力を持つメンバーに偵察させた。

ジャック「怪しいものは外見もだけど、これを考えたデザイナーのおやっさんもどうかと思う;」
エージェント「言うな;ん?あれは・・・!」
ユーリ「腰や背中や胸にオレンジの装置がある。その装置にアンテナがある」
モニモニ「しかも、その先にはエネルギー発電マシンがあるよー!」

攻撃に注意しながら飛行する逃走者はフィーバーロボの腕や足、背中や胸についている多くある制御装置を見つける。装置についているアンテナは電波を効率よく受け止めるために角度を変えて動き、さらにその先を辿ると複雑に作られた巨大コンピューターが見えないように隠されていた。

ポエット「みんな!ロボットについているオレンジのとあっちの方にある機械を壊して!」
ミニッツ「分かった!ニャミお姉ちゃん、行こう!」
ニャミ「OK!チェンジ!仮面ライダー!」

あっさりと攻略方法を見つけると、全員は武器を構えて装置とコンピューターを壊そうと動き出す！

フィリ「猫又の息吹！」
ユーリ「ホワイトドロップ！」
モニモニ「メディカルフェアリーボンバー！」

最初にフィリとユーリとモニモニがフィーバーロボの左足にある制御装置を壊し、先制を奪う。突然の不意打ちに中にいるＭＺＤとネスとヤンリンはビックリする。

ＭＺＤ「あいつら、マジで攻撃しやがったぞ！」
ネス「左足がやられた！反撃するよ！」
ヤンリン「もち！俺らの攻撃を受けてみろー！」

残った逃走者を潰そうとフィーバーロボは右手からビームを出そうと手を構える。しかし、それをアークとピュアクルリップとＫＫが許さない。

アーク「精霊の一撃！」
リップ「ドリームリップバースト！」
ＫＫ「クリーンデリート！」

遠距離攻撃を専門とする２０キャラの迷いのない一撃は右腕の制御装置を破壊し、ビームの軌道を変える。直前に装置を壊された事によって、ビームは上空へ意味も無しに飛ばされた。その隙にヒューとハヤトが装置に向かう。

ヒュー「トビーズ、ハヤト、行くぞ！」
ハヤト「分かりました！」
トビーズ「うん！」

コンピューターへ向かう二人は迷いも無しに一直線に走る。だが、その姿はコクピットにいる三人の目に映った。

ＭＺＤ「あいつら、フィーバーロボのからくりに気付きやがった！」

もし、エネルギーを送るコンピューターが壊れてしまうと、フィーバーロボにエネルギーが供給されなくなり、負けが決まってしまう。それだけは阻止しないと、巨大ロボは左手を伸ばす。

タロー「させるかー！ウォーターベール！」
ナカジ「・・・繚乱ヒットチャート！」

コンピューターを壊そうとする二人を守るべく、タローは水のベールを出してガードし、横にいるナカジが重力でロボットの左手を弾く。強力な連携攻撃に怯むフィーバーロボの体に包帯とピンクのリボンが動きを止める。

スマイル「ちょっとだけ足止め～。ヒッヒッヒ・・・」
さなえ「動きを止めるように縫ってあ・げ・る」

スマイルとさなえの拘束技のおかげで、少しの足止めに成功する。そこにアリシアとアッシュと六とミニッツとニャミとジャックの攻撃力の高い逃走者が前に進む。

アッシュ「ニューセンセーション！」
アリシア「アリスのワンダーランド！」
六「月下流剣術・・・刹那の銀線！」
ミニッツ「ラブリージャンプアッパー！」
ニャミ「ライダーキーック！」
ジャック「アサシンダンス！」

攻撃力の高い六つの技は左手と右足の制御装置が耐えられる訳がなく、ヒビが入り、派手な音を立ててあっさりと壊れた。それと同時にコンピューターの方ではハヤトとヒューがエネルギーの供給を防

ごうと奮闘する。

黄トビーズ「こわせーこわせー」
橙トビーズ「ぶんかいーぶんかいー」
ヒュー「ここまで意地の悪い機械は始めてみたぞ！」
ハヤト「元も奪わないと、また何か手を打ってきます！」

コンピュータを弄る彼らはプラグやコードを外し、外装やパーツを分解していく。最後に現れたのは赤い大きなレバー。これが主電源だろうとすぐに察すると、四人はレバーに手をかける！

ヒュー＆ハヤト＆トビーズ「せーの！」

ガチャン！

ＭＺＤ「ようやく包帯とリボンが外れた！」
ネス「その間に四肢のパーツはやられたよ！頭部と胸部だけしか・・・」
ヤンリン「さっさと手を打たないと・・・うおっ！」

コンピューターの主電源が切られたため、エネルギーは供給されな

くなり、巨大ロボは停止。中にいる三人は突然の揺れにバランスを崩す。警告音やアナウンスが何度も流れる中、最後に止めを刺そうとポエットとエージェントと若が遠くで力を溜めていた。

ポエット「エンジェルレイ！」
エージェント「スペシャルスーパーハイパー（略）メガトンビーム！」
若「（技名が長すぎます；）平安の願い！」

三人の技はフィーバーロボに致命的ダメージを与え、すべての機能を停止させた。２１人の逃走者の連携によって、フィーバーロボは倒された。

シェゾ「あいつら、ロボットを倒したぞ！」
サムス「見事な連携と技ね。私も見習わないと」
なのは「凄すぎるのぉ～・・・（言葉が出ない」
ウィッチ「帰ったら、みんなに言おうかしら？」
フォックス「衝撃が大きすぎて分からねぇ・・・」

リエ「ミッション３はこれでクリアね！」
エッダ「二人ともカッコいい・・・」
タイマー「ニャミちゃんとミニッツが・・・；」
鹿ノ子「うわ、男としての自信をなくした人がいるわ；」
ミシェル「タイマーさん、気を落とさないでください；」

ハジメ「と言うか、先輩とリュータとツーストとタイマーの髪型がアフロヘアー・・・；」

牢獄やゲストの目に活躍が知られる中、中にいるＭＺＤとネスとヤンリンは・・・

ネス「システムも全部ダウンしてるし、どうするの！！」
ヤンリン「俺だってまだまだ操作し足りないし！」
ＭＺＤ「落ち着けって！暴れると・・・いでぇ！」

攻撃による揺れで三人がバランスを崩し、ＭＺＤの右手の甲があるボタンを押した！

ぽちっ

ＭＺＤ「あ・・・；」

『自爆システムが起動しました』
全員「え？」

壊れた巨大ロボからのアナウンスに全員は耳を疑う。それと同時にりゅーとの放送が流れる。

りゅーと「緊急事態発生よ！あんた達、今の聞いたでしょ！」
ジャック「作者！これはどういう事だ！」
りゅーと「分からないけど、何かの弾みで自爆装置を作動させたのよ！あのロボットからの大きさからすると、爆発した時の爆発の範囲は相当なものよ！爆発するまでは時間がないから、能力やスキルを使って遊園地に戻らないと強制失格になってしまうわよ！」
リップ「えええー！？」

『緊急ミッション』ポップンランドへ避難しろ！
フィーバーロボの自爆装置が起動した！１分３０秒後に巨大ロボットが爆発し、その範囲は広範囲に及ぶ。爆発する前にポップンランドへ戻らないと爆発に巻き込まれて強制失格となってしまう！
なお、爆発するまではミッション３扱いとなるので、能力やスキルで好きな場所に逃げる事は可能。

ヒュー「能力がある人は羨ましいなー。あっさりと行けるし・・・」
フィリ「だったら、連れて行こうか？（ヒューを連れてエリア移動」
モニモニ「逃げろ～逃げろ～」

？？？（能力が爆発まで使える？と言う事は・・・）

逃走者全員が遊園地へ戻って行く中、巨大ロボ内にいる三人は・・・

ＭＺＤ「まずいぞ！さっさと能力を使って・・・あれ？」
ヤンリン「フロルの風で・・・ん？」
ネス「何で能力が使えないんだ？テレポートが？」

ＭＺＤとネスとヤンリンが能力や技やアイテムが使えない理由。それは・・・

三人「さっきのロボット戦で力を消費しちゃったんだぁぁぁぁぁぁぁ！！！！（三人ともほぼ０」

チュドゴ――――――――――――――――――――ン（キノコ雲が発生）

アリシア「うわー・・・ギャグ漫画で見る爆発だわ」

ミニッツ「三人とも大丈夫かなー？」

ちなみに三人は・・・

ＭＺＤ＆ネス＆ヤンリン「・・・・・・・・・・・・（黒焦げ」

１００：００・・・

１００：００・・・

１００：００・・・

９９：５９・・・

９９：５８・・・

謎の敵はこれにていなくなり、ずっと止まっていたタイマーは動き出す。この結果、ミッション３はクリアとなった。

ミッションクリア

フィリ「死ぬかと思ったぞ・・・;」
ヒュー「ありえない最後だったな。お前ら大丈夫か?」
トビーズ「平気ー」
アーク「これでミッション3はクリアになり、通常通りの逃走中に・・・また走るんだ;」
フィリ「その通りじゃ。ミッション3の終了後になるとハンターが現れ、あの追いかけっこが・・・!?」
トビーズ「あれ?どーしたの?」
フィリ「まずいぞ!ミッション3が終わるという事は裏切り者も行動するという意味じゃ!」
ヒュー「しまった!奴の存在を忘れていた!」

そう、ミッション3が終了したという事は通常の逃走中に戻るという意味。そうなると4体のハンターがポップンエリア内を歩き、目に付けた逃走中を確保に向かう。さらに裏切り者も再び動き出して、人をお金に変え始める・・・!
ほとんどの人が気付き始める中、フィリの嫌な予感は的中する・・・

ナカジ「ぜぇー・・・ぜぇー・・・死ぬかと思った・・・」
六「神の奴、逃走中の乱入はふざけているだろ・・・」

ゲートにいるのは爆発からギリギリで逃げたナカジと六の二人。両者はゲートから遠い位置にいたのと足があまり早くないため、遊園地に戻ったのは最後だった。ハードなミッションをこなしたナカジと六はその場に寝転ぶ。しかし・・・

???「ナカジ、六、ゲート前にいます」

ミッション3終了後を狙った裏切り者に隙を突かれた・・・

ハンター「・・・！」

ナカジ「次のミッションにまで少しは・・・あんにゃろ！」
六「また勝負なんて、俺はいらねぇし！」

休憩中にやって来たハンターの存在に二人は悲鳴を上げる体を無理に動かし、ギラギラメガネ団のリーダーとＤｅｓ組のリーダーは急いで逃げる。

ビ――――――――――――――
ＬＯＣＫ　ＯＮ　　ＮＡＫＡＪＩ　ＲＯＫＵ

ナカジ「こっちにくんじゃねぇよ！」
六「不意打ちって卑怯だな！」

一緒に逃げる二人は戦いと爆発から逃げているため、判断力と体力が低下している。その影響はナカジの足に出てしまい、彼は転んでしまう。その際に六も一緒に巻き込んでしまう。最早、逃走不可能・・・。

ナカジ「最悪だあああああああああ！！！」　ポン
六「ここまでか・・・！」　ポン

９９：３５　（裏切り者の通報により）ナカジ、六確保　残り１９人

ナカジ「俺のせいで巻き込んじまって・・・」
六「気にすんな。それよりも、都合よく現れたってまさか・・・！

？」

ギラギラメガネ団リーダーとＤｅｓ組リーダー、ハンターには敵わず・・・

ピピピピピ！

アッシュ「まさか・・・！」

スマイル「内容は・・・『裏切り者の通報により、ナカジと六がゲート付近にて確保。』」

タロー「『残り１９人。』ナカジと六が通報された！！うわあああああ！！！」

ハヤト「二人は疲れているところを狙われて・・・！」

牢獄でも・・・

ツースト「今度のメールは何だ?タイマー・・・?」
タイマー「今度は裏切り者によって二人確保だって!」
エッダ「ナカジが通報・・・!」
ハジメ「六もやられたのか・・・」
鹿ノ子「これで7人でしょ!?誰がやられたの!」
ミシェル「他にはリエさん、ハジメさん、エッダさん、ミミさん、そして僕・・・」
ミミ「みんな、逃げ切って・・・!お願い・・・」
DTO「もう我慢出来ねぇ!裏切り者、さっさと捕まれよ!」
リュータ「そういや、この牢獄は確保されてからすぐに転送されるんだろ?だったら、ボコボコにするぞ!」
リエ「賛成!この際、手加減はいらないわ!関係者もやってもいいからね!」

残った逃走者や牢獄でも裏切り者に対して怒りを向けている中、ナカジと六を通報した裏切り者は・・・

???「70万円が手に入った・・・。凄い・・・!」

何食わぬ顔で人を金に換え、ゲームに紛れている逃走者は誰なのか・

.
.
?

合体と決着（ｂｙナカジ）（後書き）

「確保者の言葉」１１人目：ナカジ　１２人目：六
ナカジ「裏切り者・・・！いい加減にしろ・・・！」
六「ああ・・・見つけたら、ぶっ殺す！」

「補足」
次の話で裏切り者の正体が明らかになります。１月の１１日の午前０時までは答えの変更はＯＫです。この話でナカジと六は違うというのが判明。

残っている逃走者（１９人）
ニャミ、ミニッツ、ユーリ、アッシュ、スマイル、さなえ、ポエット、タロー、ＫＫ、ジャック、ハヤト、若、フィリ、モニモニ、エージェント、アリシア、ヒュー、アーク、ピュアクルリップ

ちなみに現段階で正解者はいます

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4903z/

ポプって逃走中！

2012年1月10日01時48分発行